

平成29年度

# 広南中教育資料集

志を貫き S を目指す



施設一体型小中一貫教育校 広南学園

呉市立広南中学校「学びの変革」パイロット校

呉市広長浜4丁目1-9 Tel(0823)71-7920 Fax(0823)74-3502

# 未来を創る君たちへ

呉市立広南学園

未来に、どんな困難に出会っても  
志を抱いて生きる人になりましょう。

志を抱くとは、決して人や世の中のせいにして逃げたりせず、自分の  
できることを考え、目標を定め、粘り強く、解決へ向けて努力し続ける  
ことのできる『こころの力』をもつことです。

夢や疑問やできないことに出合った時に、それを大切にしながら粘り強く  
学び続けることのできる熱い**挑戦・探究**の心、

そして、自分の**責任・使命**を考え、それを果たそうとする強い心  
まわりの人に**感謝・貢献**しようとするあたたかい心

お互いを大切にするために**協力・協働**しようとするやさしい心

その4つの『こころの力』を育てることで、志はおおきな志となって、  
あなたの人生の道しるべとなります。

そして、その志を叶えることのできる力を手に入れましょう。この力  
は、決して他人が与えることはできません。この力は、あなた自身が、  
問題解決に必要な**準備**を考え、整え、**挑戦**する経験を繰り返す中でしか  
鍛えられない力です。先人の**知識・技能**を温め学びとる力、調べたり、  
尋ねたり、試したりしながら必要なものを見つけ出す**情報収集・判断**の  
力、問題を解決するアイデアを見出し、人に伝える**思考・表現**の力、そ  
して互いの力を引き出し、あわせていく**協力・協働**の力、それらの力が  
鍛えられて志を『叶える力』となります

## 未来を創る7つの資質・能力

資質・能力	めざす学びの姿
<b>知識・技能</b>	学んだ知識や技能を活用することができる。
<b>情報収集・判断</b>	尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見付け、選び出すことができる。
<b>思考・表現</b>	しっかり考えて、学びを自分のものにして表現できる。
<b>挑戦・探究</b>	夢や疑問、できないことを大切に、見通しをもって粘り強く学び続けることができる。
<b>責任・使命</b>	自分の役割や使命を考え、すべきことを行うことができる。
<b>協力・協働</b>	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。
<b>感謝・貢献</b>	感謝の心を持ち、自分なりに貢献することができる

総合的な学習の時間(中)ポートフォリオ裏表紙より

# 1 はじめに

## 未来を創る人 — 志を貫きSを目指す—

呉市立広南中学校長 若本 正

「未来を創る人」とはどんな資質・能力を持つ人か。「学びの変革」パイロット校の指定を受けた私たちは、常にそのことを問いかけながら研究を進めてきました。

その中で、私たちは、最終的に、「2つの力をもつ人」をイメージするようになりました。ひとつは、「志」という「こころの力」です。

課題を発見しても、アイデアを持っていても、それを口にするだけの人がいます。そして、人や世の中のせいにするだけで、何もしようとしません。その人に欠けているのは、「志」です。



広南には、郷土の誇る宇都宮黙霖という偉人がいます。不幸な生い立ちの中、教育の機会も奪われた黙霖は15歳になるまで文字を知りませんでした。そして22歳の時には病から耳と口が不自由になるという試練に出合います。けれども、彼は、「新しい時代への変革に貢献する」という大志を抱き、後世に、明治維新に貢献した人物のひとりとして名を残しました。本校の校訓「不かく尋ね、たかく志す」の由来はさだかではありませんが、「人生で、世の中の「不」に出合った時は、その「不」を覆すためにどうしたらよいか、自分の課題を見つけ、それに立ち向かう高い志を持ちなさい」とは、まさに故里の先人である宇都宮黙霖の生き方に倣え、といっているように私には思え

ます。

では、その「志」はどのように育つのでしょうか。

人はもともと「挑戦したい・探究したい」という資質・能力を持って生まれ、その資質・能力で「夢を抱く」ようになります。そして、人とかかわりの中で「人と協力・協働したい」という資質・能力が育つことで互いに「夢を語る」ようになり、やがて社会の中での自分を自覚することで、「責任・使命を果たしたい」、また「感謝・貢献したい」という資質・能力が育ってきます。その4つの資質・能力が「志」という心の力を形成すると私たちは考えました。

もうひとつの力は「叶える力」です。「叶える力」とは、「不」を覆すアイデアを見出し、そのアイデアを実行して問題を解決する力です。

ところで、0から新しい価値を創り出す能力は特別の人間だけが持つ能力でしょうか？そうではないことを赤ん坊は教えてくれます。すべての赤ん坊が0からその世の中で生きるためのすべを「情報収集・判断」「思考・表現」という資質・能力を発揮して「知識・技能」という形で見事に獲得し、積み重ねていくではありませんか。しかも、その力はヘレン・ケラーなどの障害をもつ人々が教えてくれているように、たとえ視覚・聴覚という情



報収集能力を奪われても、それを補うように高まるように見えます。人間はだれもが赤ん坊の時からその力のもととなる資質・能力を潜在的にすでに備えているのです。

では何が問題かと言えば、今の子供達が現代の教育制度の中で、「知識・技能」を与えられ続けることで、その能力を発揮する機会が著しく奪われ「主体的に学ぶ力」が十分に鍛えられてこなかったことです。「叶える」力は、他人が与えることはできないのです。生きていく中で、問題にぶち当たって、ひとつひとつ自分の力で解決する問題解決の経験を積み重ねる中でのみ鍛えられ獲得していく力です。

本校では、昨年度まで「挑戦問題」からはじまる課題発見・解決学習の単元開発を通して、学びがい（学びの価値）を高め、子供達の「主体的な学び」を引き出す取組をすすめてきました。

その中でわかってきたことは、このことは、教科においては、ひとつの単元の中で考えるより、単元を繋いだり教科横断的なマネジメントの中で問題解決の流れをつくったりすることの方が、より有効であるということです。また、次期学習指導要領では、「実社会に役立つ横断的・総合的な問題解決に向かう態度と能力を育てる」ことが目標として示されています。

そこで、本校では、今年度は、「志（目標を定める）」 「準備（問題解決に必要な力やもの、つながりを手に入れる）」 「挑戦（問題解決に挑む）」 という3つのステップで問題解決の過程を構想し指導計画を立てるアイデアを試すことにしました。野球選手のイチローをはじめ、実社会で成功を収めている起業家達がこのステップを大切に挑み続けていることに気づいたからです。

この考え方の利点は、教師も子供も教科や単元にしばられず、自然な発想で問題解決の手順や必要な学びの場面設定が考えられるようになることです。次期学習指導要領の示す「学びの地図」の中で、問題の解決に必要な新しい価値（宝物）を手に入れることを志し、そのために必要な知識・技能、もの、人とのつながりを求めて、単元だけでなく時には教科や学校を飛び越えながら自在に「志を貫く学びの航路」を描くのです。これを本校では「貫きカリキュラム」と呼ぶことにしました。

また、パイロット校として与えられた2つめの課題である「資質・能力のルーブリック」の研究については、昨年度の成果と課題を踏まえ、価値の共有こそが重要と考え、A（めざす目標）のさらにひとつ上のS（資質・能力の価値がもっとも発揮された理想の状態）を具体的に示すアイデアを「Sルーブリック」と呼び、その活用の有効性についての検証に今年度、取り組むことにしました。

さらに今年は、「学びの変革」を小中一貫教育の中でどのようにすすめるかも重要な課題と考え、現在、すすめている小中一貫教育の取組みのひとつひとつの価値をあえて見直す作業をすすめる中で、今年度の計画を作成しました。

昨年同様、研究発表会を6月に行うことにしたのは、より早い情報発信を行うことで、多くの学校の参考になればと考えたからです。この冊子には、小中で昨年度までに開発した単元の紹介を中心にまとめました。追試してもらいやすいように指導案にあわせ、ワークシート等も本校のHPよりダウンロードできるように準備中です。まだまだ、どの単元計画も不十分な点は多々あり、多くの方の追試やご意見をいただくことで、よりよいものにしていただければ幸いです。

最後に、ここまで広島県教育委員会および呉市教育委員会、その他、関係諸機関からは多大な研修の機会と御指導、ご助言をいただいたことに深謝するとともに、今後もさらなる御指導・御助言をお願いして、はじめのことばとします。

# 目 次

## はじめに

### I 研究推進計画

- 平成29年度の研究推進へ向けて
- 研究主題および研究仮説
- 「資質・能力」を育てるための  
授業改善の視点・カリキュラムマネジメント・ルーブリックの活用について

### II 「学びがい」向上部会

- 教科・総合的な学習の時間における「課題発見・解決学習」の単元づくり
- 貫きカリキュラム
- Sルーブリックの活用
- 校外への挑戦・地域の人材活用・ICTの活用

### III 「指導力向上」部会

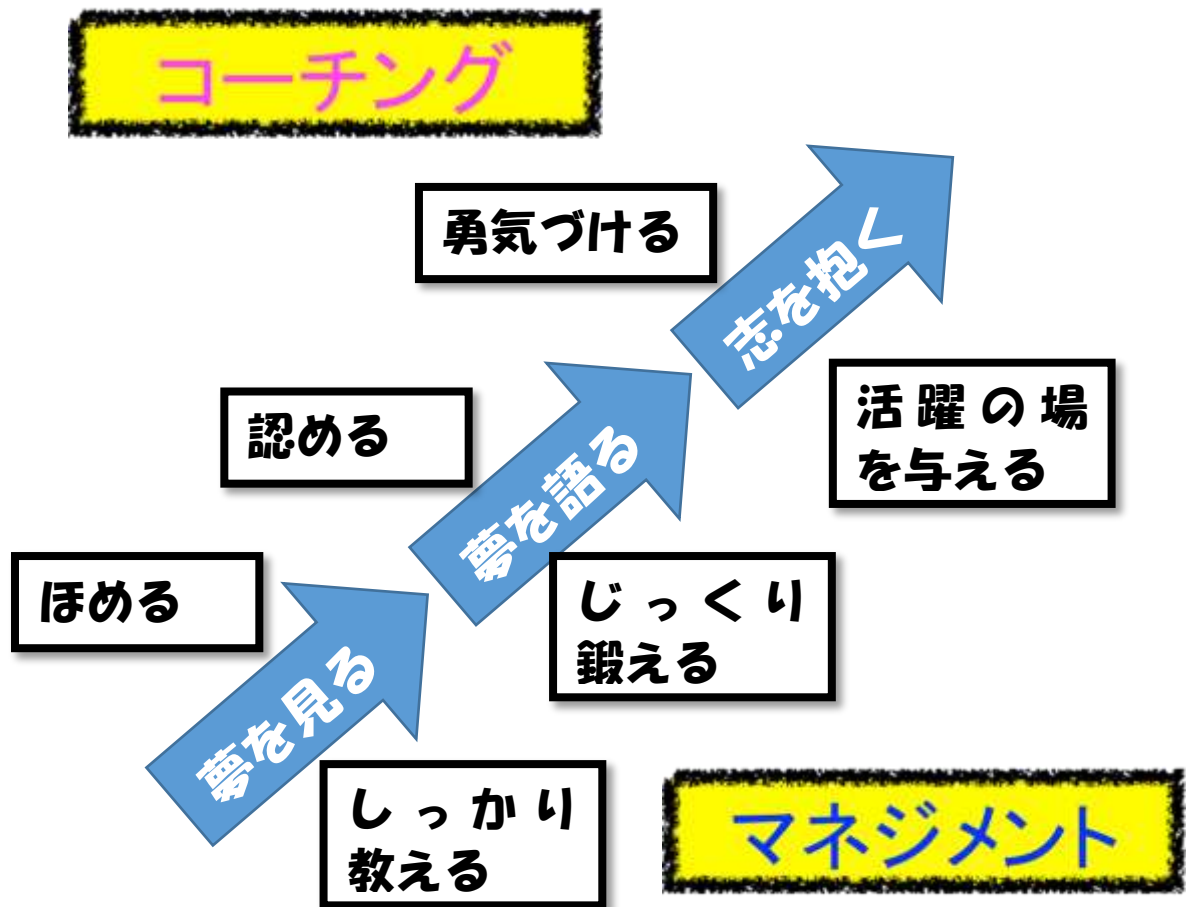
- 課題発見解決型指導力の向上を目指して
- 生徒会活動の変革
- 広南学園生活ルーブリックの活用について
- 異年齢交流の価値
- 合同行事・休日開催を視野に入れた魅力ある行事の創造

### IV 付録 平成27・28年度開発単元等

- 開発した教科の単元
- 開発した総合的な学習の時間の単元
- 平成29年度「資質・能力」の育成に係る年間指導計画

研究同人

# I 研究推進計画



## 目 次

### I 研究推進計画

平成29年度の研究推進へ向けて	I-1
研究主題 H29 および研究仮説	I-4
研究推進体制	I-4
平成29年度の教育目標 「未来を創る」	I-5
資質・能力を育てるための授業改善の視点	I-5
資質・能力を育てるためのカリキュラムマネジメント	I-6
資質・能力ルーブリックの活用について	I-11
平成29年度総合的な学習の時間の全体計画	I-25

# 1 平成29年度の研究推進へむけて —H28年度までの成果と課題を踏まえて—

本校では、「学びの変革」をすすめるにあたって、昨年度まで挑戦問題を手がかりとした課題発見解決学習の単元開発および資質・能力の設定とルーブリックの活用について研究を進めてきた。

教科学習では、課題発見解決学習によって得られる「学びがよい」を指標にした5つのポイントでの授業改善をすすめてきた。総合的な学習の時間では、挑戦問題からはじまる協働的・創造的・体験的な問題解決の経験を通して、コンピテンシー（知識や技能を活用して新しい価値を生み出す）資質・能力の育成を図るカリキュラムの開発に全教職員で取り組んできた。

その結果、生徒の教科に対する意識(学びがよい)は大きく改善し、(表1参照)課題・発見解決学習に関する生徒アンケートからも、目標とした70%の肯定的評価を達成し(表2参照)、「主体的な学び」がすすみ、「基礎・基本」定着状況調査および全国学力学習状況調査を活用した指標からは、資質・能力の育成にも一定の成果があったことがわかる(グラフ1参照)。また、各種学力テストにおいても学力の向上がみられる。とりわけ、中後期の学力の伸びの成果には小中一貫教育の成果が現れている(グラフ2～4参照)。

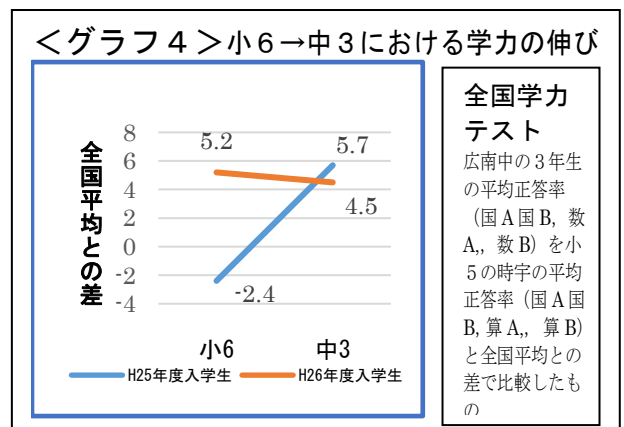
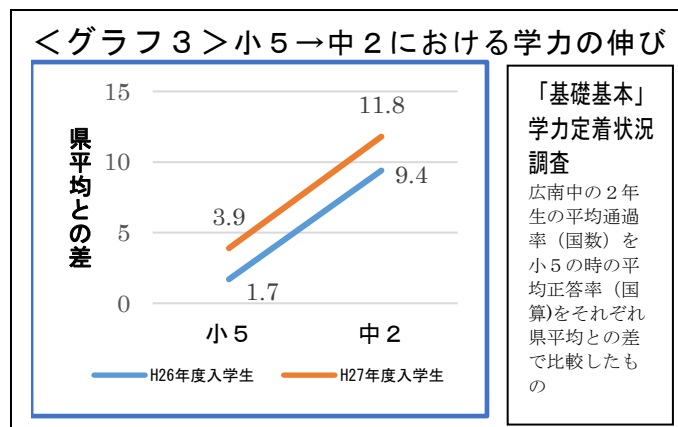
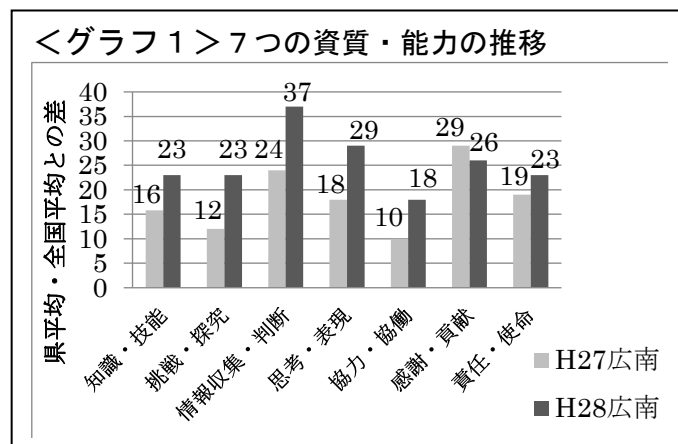
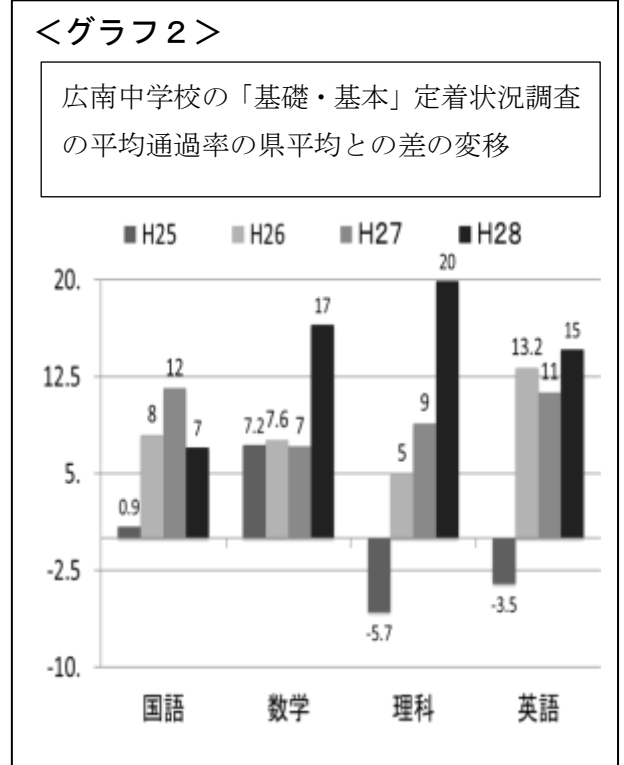
<表1>  
生徒の教科に対する「学びがよい」の意識の変容

	H27 7月	H28 7月
9教科の肯定的評価の平均	37%	94%

生徒アンケートより

<表2> 指標(学習と生活アンケートの項目アンケートのそれぞれの平均)

項目	肯定的評価	県平均とのポイント差
学習習慣・学習動機・学習意欲	85%	+22
課題発見・解決学習	88%	+28
読書活動	71%	+15

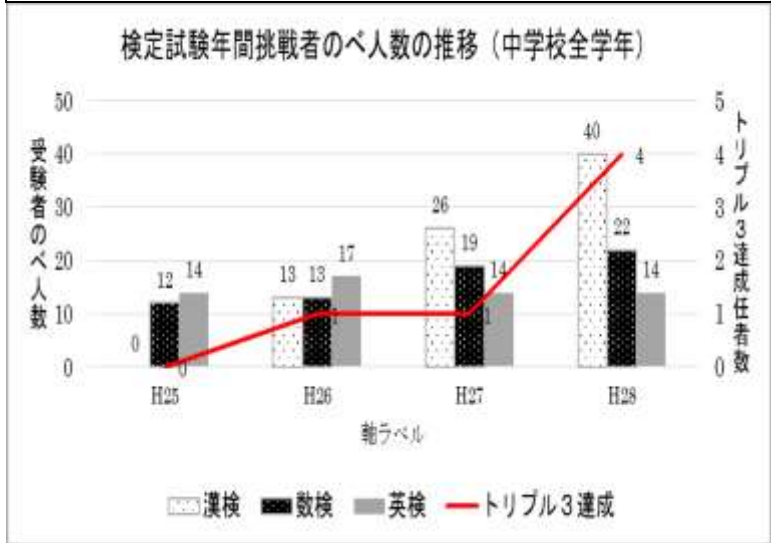




アンケート以外でも、本校では、資格検定への受験者数を「挑戦・探究」の資質・能力の指標のひとつにしているが、**グラフ5**のように、大きく伸びており、意識だけでなく行動の変化を見取ることができる。

また、中学1年生の落語への挑戦や2年生の起業企画への挑戦は新聞にも大きく取り上げられる取組となった。学校として3年間継続してきた蚊の研究は3年連続、県の科学賞を受賞し、今年度は学校賞も受賞し、さらに全国学生科学賞でも入選一等を果たし、小学校においても、統計グラフコンクールに県知事および学校賞を受賞するなど、挑戦・探究といった資質・能力を校外でも発揮して活躍する子どもの姿を見ることができるようになっている。

＜グラフ5＞ 挑戦・探究の資質・能力の一指標



学校代表として呉市文化ホールでの落語の披露へむけ落語家より指導を受けている様子 (中国新聞 H28. 1. 15)



自分たちの企画をPRするため、ダンスも創作しTVにも出演 (中国新聞 H28. 10)



県の科学賞受賞者を代表して県健康福祉センターでプレゼンをする様子

一方、研究をすすめる中、3つの課題が明らかになってきた。一つめは次期学習指導要領の改訂の方向性が示される中で、その方向性との整合性を図る必要があること。二つ目に、資質・能力ルーブリックの実際の授業での活用方法である。ルーブリックの内容と教科でつきたい力を整理し、子どもたちに分かりやすく提示するという課題がある。三つめに課題発見解決学習が成果をあげるには、単元開発だけでなく、教師の指導力の改善が必要であることが挙げられる。指導案が課題発見解決学習の流れになっていても、生徒の主体性をうまく引き出す指導ができない教師では、その指導案がうまく追試できないからである。教育コーチング、または、生徒指導の三機能を踏まえた「課題発見解決型指導法」とでもいうべき指導技術を磨くことの大切さが見えてきた。

これらの改善へむけ、0学期(3学期)に、本学園では、まず、一つめと二つめの課題解決へ向けて、次期学習指導要領を踏まえた資質・能力およびルーブリックの改訂を行い、あわせて、教育目標もこれからの方向性を見据えて「未来を創る」と変更することとなった。

また三つめの課題解決へ向け、研究組織を、「学びがい」向上部会と「指導力」向上部会に再編成して進めることとした。また、今年度は、小中一貫教育校としての「学びの変革」を推進する研究組織に改編した。

呉市立広南小学校  
〒737-0136  
広島県呉市広長浜四丁目 1-26  
TEL.0823(71)7965 FAX 0823(71)4112

呉市立広南中学校  
〒737-0136  
広島県呉市広長浜四丁目 1-9  
TEL.0823(71)7920 FAX 0823(74)3502



- 児童生徒実態**
- ・明るく素直
  - ・新しい学校をつくろうという機運
  - ・学習理解の二極化
  - ・切磋琢磨する気持ちが強い
- 保護者・地域実態**
- ・地域の学習教材が豊富
  - ・新しい学校づくりに期待
  - ・保護者同士がそれぞれ親密
  - ・教育活動に協力的
  - ・地域にいる豊かな人材

**学校教育目標**

## 未来を創る

**ミッション**  
大きな夢と志をもち、社会に貢献する人材を育成する

- ビジョン**
- 深い学びの精神と感謝の気持ち、社会貢献への気概をもつ児童生徒を育て、地域から信頼される学校
  - 地域文化の拠点として地域の活性化に貢献する学校

- 目指す児童生徒像**
- ～ 挑戦 自律 真摯 ～
- 夢を持ち、夢を語り、志を掲げ、その実現に向けて挑戦する児童生徒
  - 時を守り、場を清め、礼を正し、学びを求める児童生徒
  - 自ら課題を見付け、その解決に向けて、常に努力し続ける児童生徒

- 目指す教師像**
- ～ 知識 見識 胆識 ～
- 広い知識と教養をもつ尊敬される教師
  - 義務教育9年間を見据え、常に自己研鑽に励む情熱ある教師
  - 率先垂範と徹底指導により、使命感をもって目指す児童生徒を育成する教師

**「誇りを持って故里を語り、受け継ぎ、発展を担う志と力を育てる教育の創造」**  
～小中9年間を見通したカリキュラムマネジメントと指導体制の確立を通して～

H29 研究主題

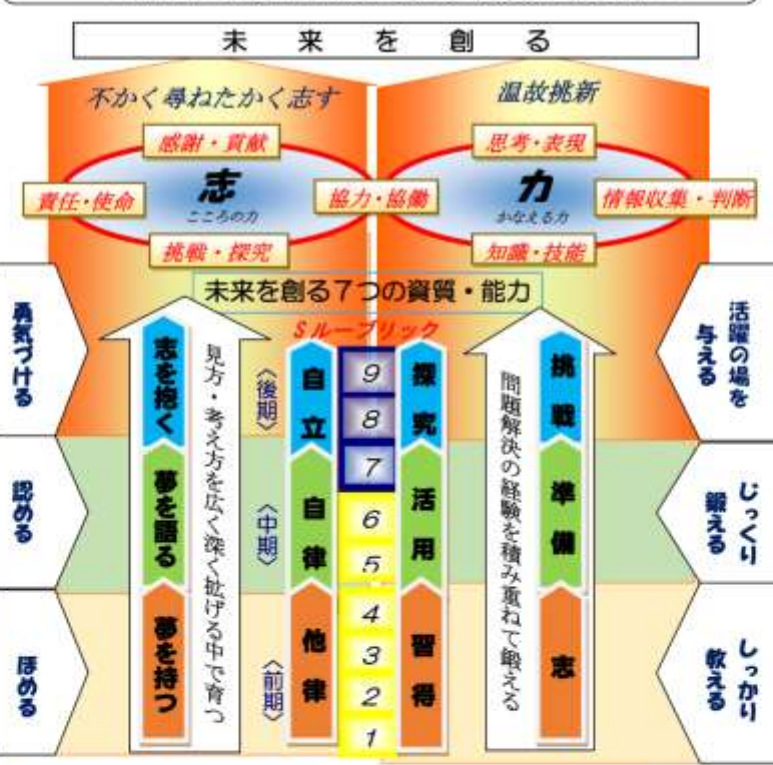
小中9年間を見通した児童生徒の指導体制の確立

### 「指導力」向上部会

○児童・生徒の主体性を育てる課題発見解決型指導の工夫

- 〔児童・生徒会活動の充実〕**
- 児童会活動(小)
  - 生徒会活動(中)
- 〔時を守り、場を清め、礼を正し、学びを求める自分づくり〕**
- 生活ルーブリック
  - 5つの合い言葉・2つの約束
- 〔先輩後輩・地域との絆づくり〕**
- 絆PROJECT(異年齢交流)
  - 学園朝会
  - いじめ撲滅プロジェクト
  - 広南芸術鑑賞会・広南南席
  - 合同運動会
  - 広南劇場(中) 広南南席(中)
  - 学習発表会(小)
  - 二分の一人成人式(小)
  - せとうち海援隊活動
  - ポルタブ集め(小)
  - エコキャップ集め(中)
  - 地域行事への参画
- 敬老会、小坪神楽、祭り、広子ども祭り・ふれあいサロン(中)・敬老会(小)
- 〔健康・運動・生活づくり〕**
- 全校運動(小) ○部活動(中)
  - ロング大休憩(小)
  - 食育の充実
  - 読書活動

**「未来を創る資質・能力の育成をめざして」**  
～挑戦問題・貫きカリキュラム・Sルーブリックの工夫を通して～



- 保護者との連携**
- 〔協働的な子育て〕
  - ・「5つの合い言葉・2つの約束」
  - 〔PTA参加行事〕
  - ・「学校に行こう週間」の取組
  - ・PTC行事、土曜・日曜参観日の充実
  - 〔PTA主催行事〕
  - ふれあい活動(小)、PTAバザー

- 地域の教育力活用**
- 〔学習〕〔行事〕
  - 各教科学習、茶道、尺八、基礎、筆、書道、英語、木工、読み聞かせ、放課後学習、普遊び等 呉高専演劇部公演
  - 〔安全〕
  - 交通安全推進委員、安全パトロール、地域合同避難訓練(小)
  - 〔部活動・体力向上〕
  - バレー、ソフトテニス、野球・陸上運動等

小中9年間を見通したカリキュラムマネジメント

### 「学びがい」向上部会

○学習内容の学びがい(学ぶ価値・学びの質)を高める工夫

- 〔課題発見・解決学習の単元開発〕**
- 挑戦問題の開発
  - 貫きカリキュラム
  - ・単元接続型
  - ・教科横断型
  - ・学校段階間接続型(カリキュラムマップの活用)
  - 〔資質・能力ルーブリックの活用〕
  - Sルーブリックで資質・能力の価値の共有
- 〔活躍・挑戦の場づくり〕**
- 授業での活躍の場
  - ・予習課題・復習課題の活用(家庭学習の活用)
  - ・ミニ発表会
  - ・ミニ先生・教えあい
  - ・班発表
  - 校外への挑戦の場
  - ・トリプル3(中)
  - (漢検・数検・英検)
  - 小への拡大
  - ・各種学力調査
  - ・科学研究
  - ・統計グラフコンクール(小)
  - ・百人一首大会(小)
  - ・「K・チャレンジマッチ・スタジアム」
  - ・水泳大会・陸上競技大会(小)
  - ・部活動の大会(中)
  - ・総合文化行事(中)
  - 英語聴覚、ロボコン、話し方大会、合奏コンクール
  - 〔指導技術・方法の改善〕
  - ICTの活用
  - 乗り入れ授業

## 2 研究主題 H29 および研究仮説

# 未来を創る資質・能力の育成

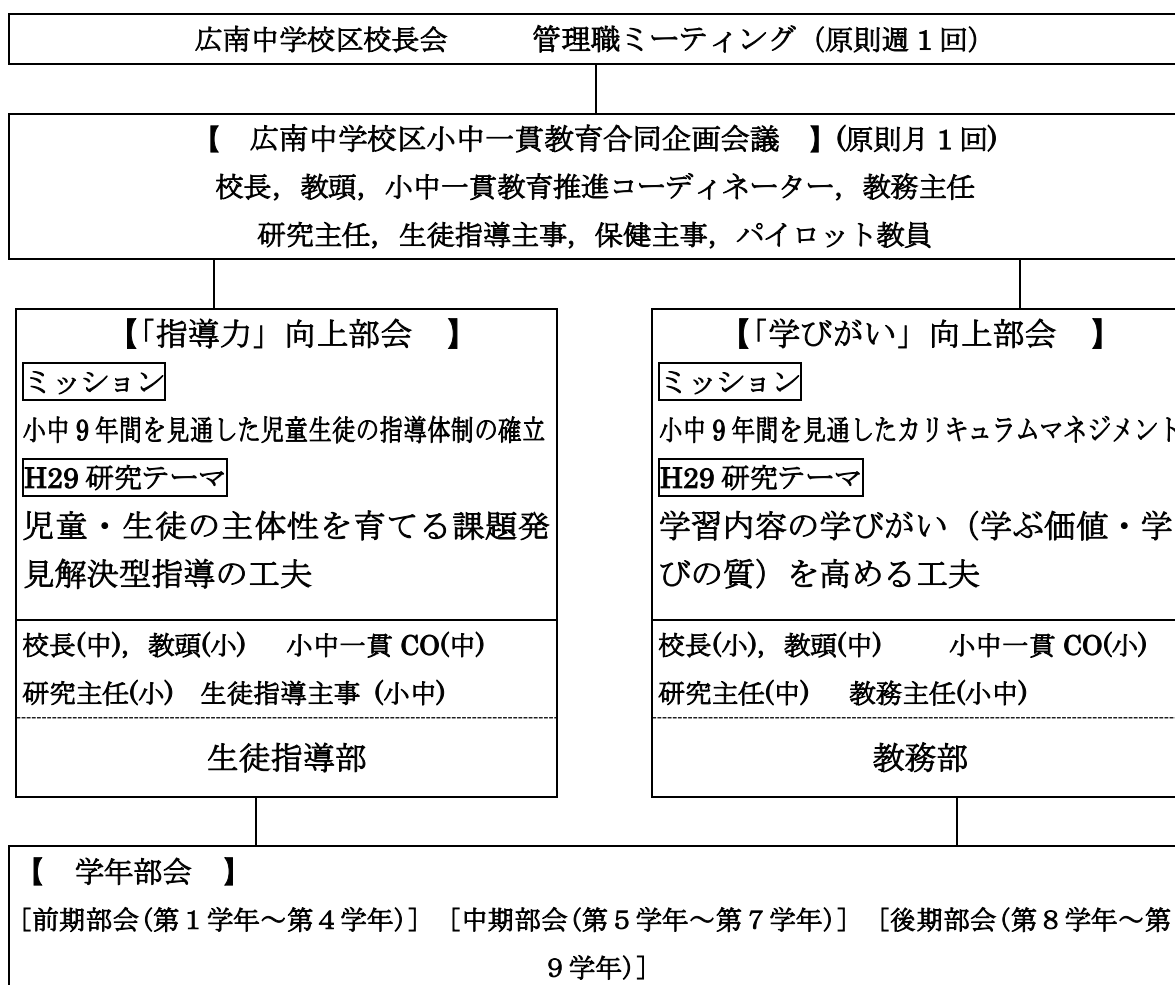
～挑戦問題・貫きカリキュラム・Sループリックを手がかりとして～

**研究仮説** 単元の初めに「挑戦問題」を設定した単元構成を仕組むとともに、問題解決の過程で生じる課題発見・解決学習を行うことは、主体的な学びを促しコンピテンシーを育てるのに有効であろう。また、貫きカリキュラム（単元接続・横断的・学校段階間接続）のマネジメントや、S評価の基準を明確に示したループリックを活用することは、生徒の潜在的な資質・能力を引き出し、実社会における問題解決に向かう態度と能力を鍛える上で有効であろう。

※ コンピテンシー = 知識・技能を活用し、協働して新しい価値を生み出せる資質・能力

注) 赤字の部分が昨年度より加えた今年度の研究のさらなる方向性である。

## 3 研究推進体制

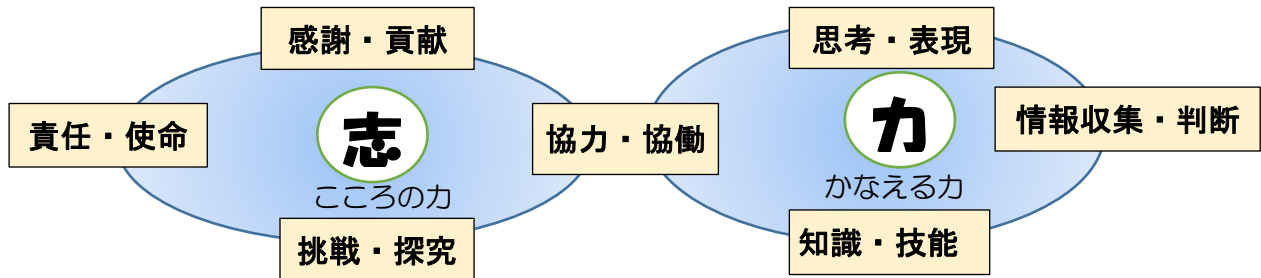


※ 呉市「学びの変革」推進協議会との連携は、中学校長およびパイロット教員が中心となって進める。

#### 4 平成29年度の教育目標 「未来を創る」

「誇りを持って故里を語り、受け継ぎ、発展を担う志と力を育てる教育の創造」

＜未来を創る志と力を育てる7つの資質・能力＞

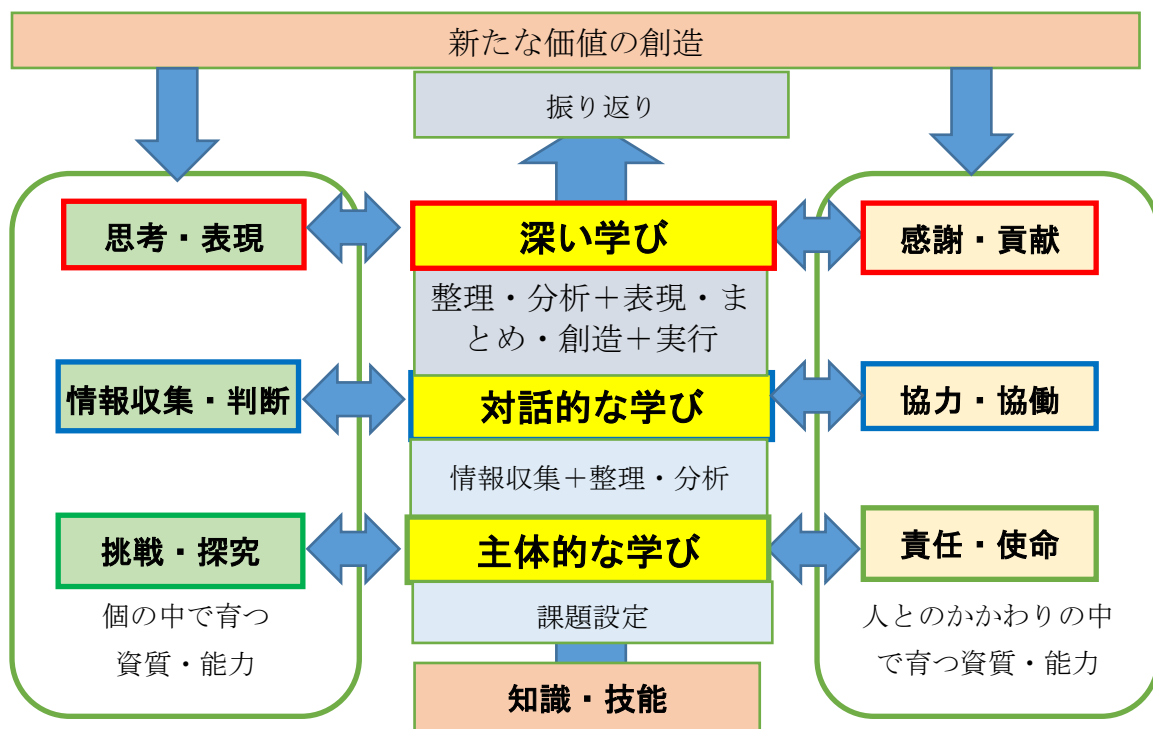


資質・能力		めざす学びの姿(評価規準) ※「何ができるようになったか」で評価
知識・技能		学んだ知識や技能を活用することができる。
思考 判断 表現	情報収集・判断	尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見付け、選び出すことができる。
	思考・表現	しっかり考えて、学びを自分のものにして表現できる。
学びに 向かう力 ・人間性	挑戦・探究	夢や疑問、できないことを大切に、見通しをもって粘り強く学び続けることができる。
	責任・使命	自分の役割や使命を考え、すべきことを行うことができる。
	協力・協働	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。
	感謝・貢献	感謝の心を持ち、自分なりに貢献することができる。

#### 5 資質・能力を育てるための授業改善の視点

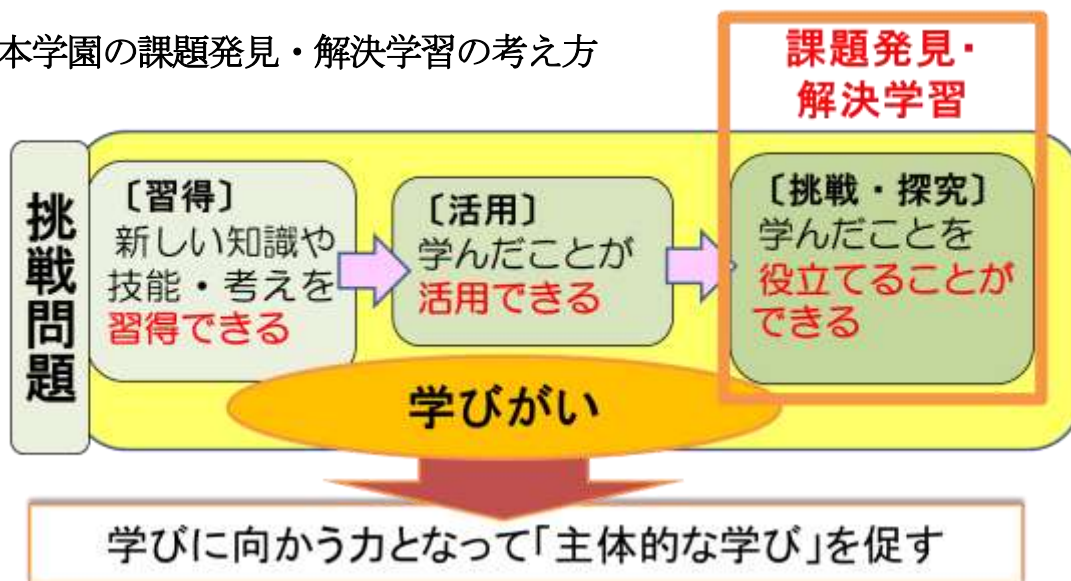
- (1) 習得・活用・探究の学習プロセスの課題発見・解決学習を念頭においた「深い学びの過程」になっているか。
- (2) 他者との協働や外界との相互作用を通じて自分の考えを広げ深める「対話的な学びの過程」になっているか。
- (3) 見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学びの過程」になっているか。

(参考 広南学園の付けたい資質・能力の構造)



## 6 資質・能力を育てるためのカリキュラムマネジメント

### (1) 本学園の課題発見・解決学習の考え方



「課題」と「問題」の定義については、本校では、学習指導要領解説の下記の文脈から次のように整理している。

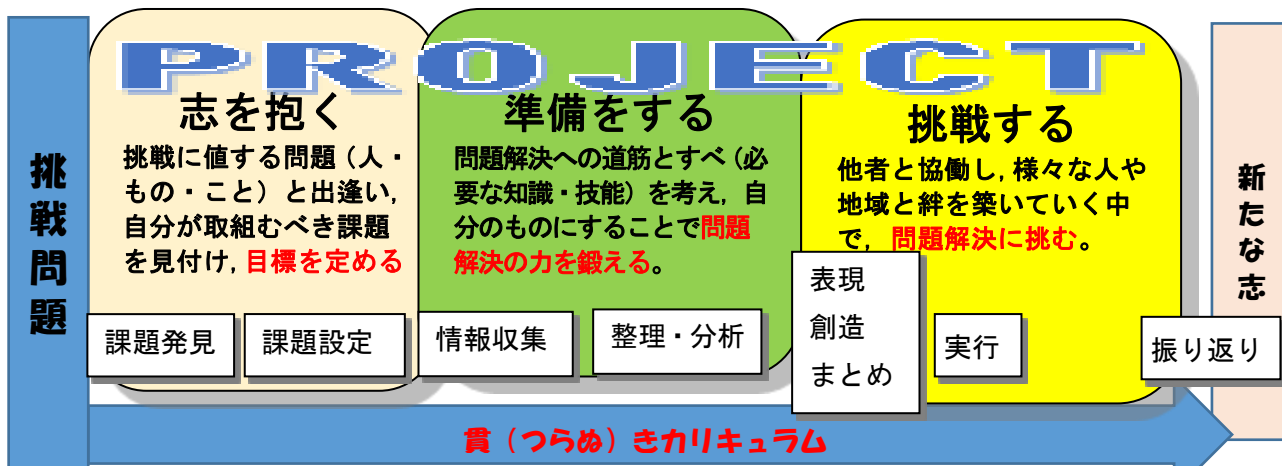
「自ら課題を見付け」とは、そういう問題と向き合って、自分で取り組むべき課題を見出すことである。この課題は、解決を目指して学習するためのものである。その意味で課題は、生徒が解決の意欲を高めるとともに、解決への具体的な見通しがもてるものであり、そのことが主体的な課題の解決につながっていく。

(中学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編 P14より)

挑戦問題	解決すべき問題と出あわせるため教師から行う意図的な問題提起
課題発見	教師の問題提起を受けて児童・生徒が自ら見出す自分で取り組むべき課題 または、学習の結果、児童・生徒が自ら見出すさらなる取り組むべき課題
課題設定	課題解決へむけての見通しを示したもの
課題解決	課題解決により問題解決へむけてのすべ(知識・技能など)を得ること
問題解決	課題解決で得られたすべと協働的な営みの積み重ねにより挑戦問題の解決を図ること

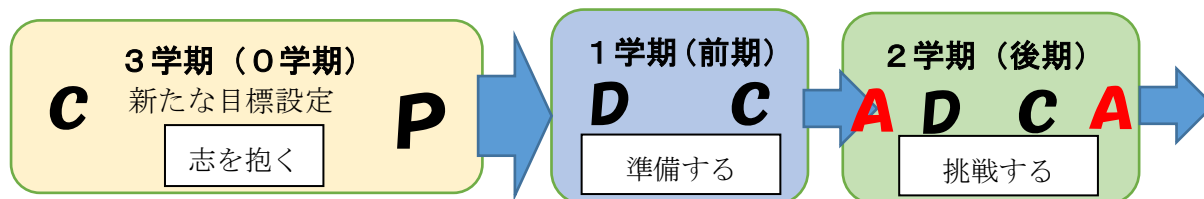
(2) 教科を超えて横断的・縦断的カリキュラムマネジメント **貫きカリキュラム**

- ① ひとつの挑戦問題からはじまる課題発見・解決学習の流れを、様々な単元・題材等をユニットとして横断的・縦断的にひとつながりのPROJECTとして貫きをもたせることで、児童生徒の主体性を引き出し、**実社会における問題解決能力**(資質・能力)を育てるカリキュラムに高める。



- ② 子供の実態や地域の現状等に関する調査や各種データに基づく教育活動の編成・実施，改善サイクルの確立

ア「0学期からのカリキュラムマネジメント」(P13参照)



イ **短期スパン**→資質・能力ルーブリックを活用して形成的評価に活用  
毎時間の授業，行事の目標を資質・能力のルーブリックを活用して設定

ウ **短・中期スパン**→単元ごと総括的評価  
(総合的な学習の時間)

【単元始め】7つの資質・能力およびルーブリックの提示

【単元終わり】ポートフォリオを活用し，ルーブリックに基づく自己評価+他者評価

(各教科) ※ 次期学習指導要領の改定案で示される単元ごとの目標に準拠して作成予定

【単元始め】単元目標にそった資質・能力ルーブリックの提示

【単元終わり】パフォーマンス評価等を活用し，ルーブリックに基づく自己評価+他者評価

エ **中期スパン**→学期ごとに総括的評価 (県のデータと比較することで客観性を確保)

【7月】1学期の振り返り (学習と生活のアンケート項目の活用)

【12月】1・2学期の振り返り (学習と生活のアンケート項目の活用) (次ページ参照)

オ **長期スパン**(1年ごと)個人内総括的評価+総括的評価

【4月】未来を創る力の全体像の提示

【12月】個人内評価(7つの資質・能力の育ちの振り返り(自由記述))

総括的評価(学習と生活のアンケート項目の活用)

- ③ 教育内容と指導體制や **ICT活用などの諸条件の整備と活用**

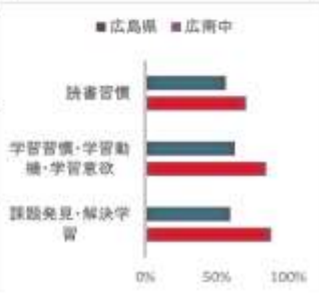
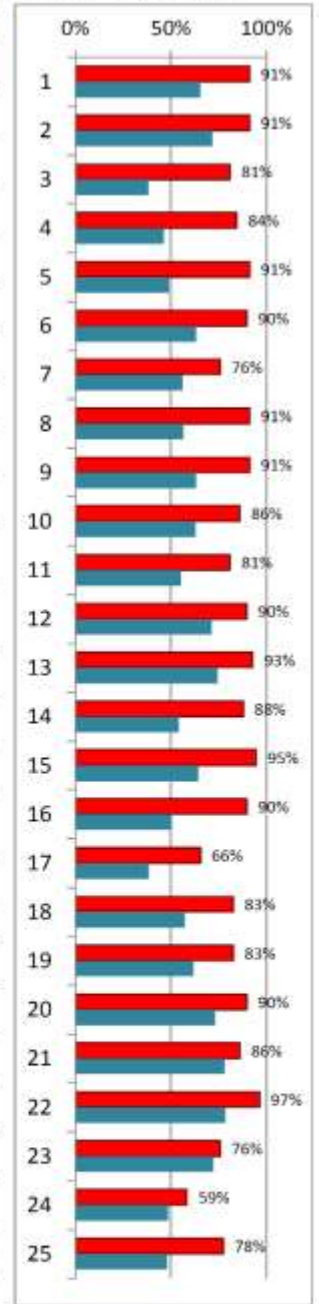
各教室 PCおよび実物投影装置 電子黒板整備

図書館活動の充実

中期スパンの資質能力の変容には、学習と生活のアンケート項目を活用

平成28年度 学校評価 生活と学習アンケート（第2回・12月実施）集計結果

70%以上		肯定的評価の割合		1年	2年	3年	広南中	広島県	
70%未満		No.	質問項目	H28	H28	H28	H27	H28	
課題発見・解決学習	課題の設定	挑・探	1 授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思っています。	88%	95%	91%	76%	91%	66%
		挑・探	2 授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	100%	89%	86%	90%	91%	72%
	情報の収集	情・判	3 授業では、課題を解決するために、選んで、資料を集めたり教材をしたりしています。	94%	84%	68%	52%	81%	38%
		情・判	4 授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	88%	84%	82%	62%	84%	46%
	整理分析	思・表	5 授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	100%	89%	86%	74%	91%	49%
		思・表	6 授業では、情報を、比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見付けたり（関係付け）して、何が分かるのかを考えています。	94%	95%	82%	71%	90%	63%
	まとめ創造表現	思・表	7 授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	82%	68%	77%	62%	76%	56%
		思・表	8 授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	100%	84%	91%	76%	91%	57%
	実行	知・技	9 授業では、考えたり調べたりしたことについて、実際に取り組んでいます。	88%	100%	86%	71%	91%	63%
		思・表	10 学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	100%	79%	82%	74%	86%	63%
	振り返り	挑・探	11 学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	94%	79%	73%	67%	81%	55%
		知・技	12 ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。	82%	95%	91%	81%	90%	71%
	その他	協・協	13 授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	100%	89%	90%	79%	93%	75%
			14 授業では、実際にものを使ってやってみたり、地道や自然の中で学習したりするなどの体験活動を行っています。	94%	95%	77%	79%	88%	54%
	総合		15 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	100%	95%	91%	79%	95%	65%
学習習慣	挑・探	16 自分で勉強の計画を立てています。	94%	95%	82%	55%	90%	51%	
	責・使	17 学校の授業の予習をするようにしています。	71%	68%	59%	62%	66%	39%	
	責・使	18 学校の授業の復習をするようにしています。	88%	89%	73%	62%	83%	57%	
学習動機	責・使	19 「やりなさい」と言われなくても、自分から進んで勉強をしています。	65%	89%	91%	73%	83%	62%	
学習意欲	挑・探	20 わからないことはそのままにせず、わかるまで努力しています。	94%	89%	86%	76%	90%	73%	
	挑・探	21 学習を最後までやりとげられなかったことがあります。	88%	95%	77%	81%	86%	78%	
	責・使	22 授業、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強しています。	100%	95%	95%	93%	97%	79%	
読書習慣		23 本を読むことが好きです。	76%	79%	73%	81%	76%	72%	
		24 読んだ本について友達や家族と話します。	47%	74%	55%	48%	59%	49%	
	情・判	25 家で本や資料などを利用して学習しています。	88%	63%	82%	62%	78%	48%	
項目別平均	課題発見・解決学習			94%	88%	84%	73%	88%	60%
	学習習慣・学習動機・学習意欲			86%	89%	81%	72%	85%	63%
	読書習慣			71%	72%	70%	63%	71%	56%

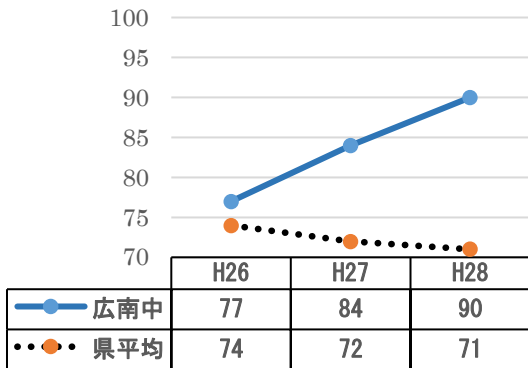


注)「感謝・貢献」の資質・能力については、全国学力テストの生徒アンケートの項目を活用する。

「基礎基本」定着状況調査から見た広南中学校の生徒の資質・能力の変容

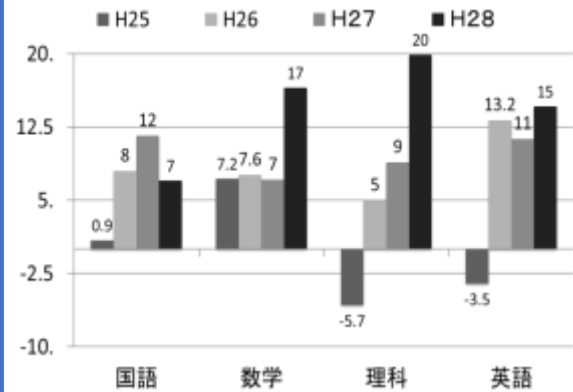
志

将来の夢や目標（志）を持っている

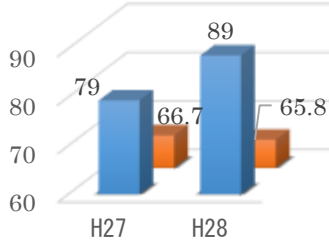


力

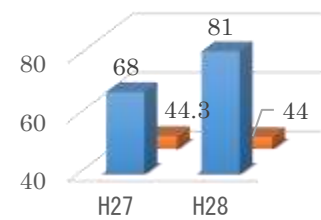
「基礎・基本」定着状況調査の県平均との差の推移



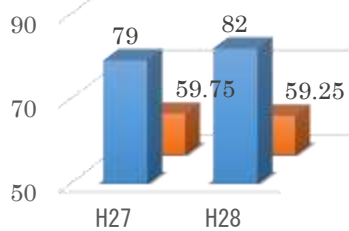
挑戦・探究



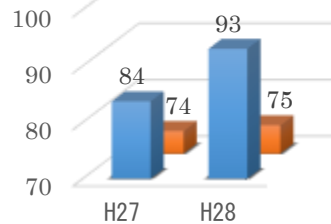
情報収集・判断



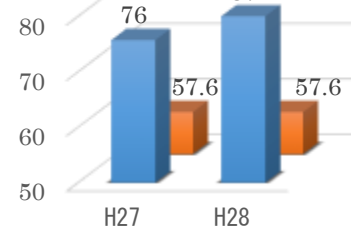
責任・使命



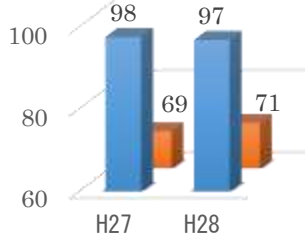
協力・協働



思考・表現

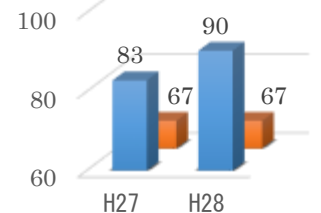


感謝・貢献



■ 広南中 ■ 県平均

知識・技能



※) 数字は「基礎・基本」定着状況調査の生徒アンケートの項目における肯定的評価の割合をそれぞれの資質・能力の県平均の項目の平均値と比較したもの

※) 「感謝・貢献」の項目は全国学力学習状況調査の質問項目からの値からの比較





## 7 資質・能力ルーブリックの活用について

### Sルーブリック

さらに上質な学びのイメージをSとして生徒と共有することで、学びの価値や学びの質を高める

\_S: Super(期待する活動以上に、何かプラスαが見られる) 下線部がプラスアルファ

- A: 十分満足できる(期待する活動が十分見られる)  
 B: 概ね満足できる(期待する活動は見られるが、未到達な部分もある)  
 C: 努力を要する(期待する活動が見られない) ※到達目標をAとする。  
 S~Cの4段階評価は、黒川晴夫(関西大学総合情報学部)教授の考え

### <資質能力のルーブリック(基本)>

	資質・能力	評価	評価基準
技能・知識	学習内容に係る知識・技能	S	学んだ知識や技能を活用して問題を解決するとともに、別の問題の解決の見通しも得ることができる。
		A	学んだ知識や技能を活用して、問題を解決することができる。
		B	学んだ知識や技能を活用することができる。
		C	学んだ知識や技能を活用することができない。
思考力・判断力・表現力	情報収集判断	S	尋ねたり、調べたり、試したりして、ものの見方や考え方を広げ深めることができる。
		A	尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見付け、選び出すことができる。
		B	尋ねたり、調べたり、試したりして、関係ありそうなものを見付けることができる。
		C	尋ねたり、調べたり、試したりすることができない。
	思考表現	S	しっかり考えて、学びを自分のものにし、工夫や意見を加えて表現できる。
		A	しっかり考えて、学びを自分のものにして表現できる。
		B	学んだことを表現することができる。
		C	学んだことを表現できない。
学びに向かう力・人間性	挑戦探究	S	夢や疑問、できないことを大切に、新しい自分やものを創り出すことができる。
		A	夢や疑問、できないことを大切に、見通しを持って粘り強く学び続けることができる。
		B	夢や疑問、できないことを大切に、学び続けようと努力することができる。
		C	できないことやわからないことをあきらめている。
	責任使命	S	自分の役割や使命を考え、生き方の目標を見付け出すことができる。
		A	自分の役割や使命を考え、すべきことを行うことができる。
		B	自分の役割や使命を理解し、果たそうと努力することができる。
		C	自分の役割や使命を理解していない。
	協力協働	S	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かして問題を解決することができる。
		A	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。
		B	他の人と協力しようと努力することができる。
		C	他の人と協力しようとしていない。
	感謝貢献	S	感謝・貢献することを重ねることで絆を深めることができる。
		A	感謝の気持ちを持って、自分なりに貢献することができる。
		B	感謝の気持ちを持って、自分なりに貢献しようと努力することができる。
		C	感謝の気持ちを持っていない。

実際の授業では、発達段階・学習対象や内容に応じて児童生徒にもわかりやすいものに表現を変えて使用する。各 PRPJECT や単元のルーブリックはこれを規準に考えて定める。

※ Sの内容については、児童(生徒)自身に考えさせたり、授業の中で見付けたりすることも効果的である。

＜総合的な学習の時間の資質・能力ルーブリック（基本）＞

		資質・能力	評価	評価基準	
知識・ 技能	生き方や 故里に係る 知識・技能	S	学んだ知識や技能を、 <u>誇りや自信</u> を持って、人に伝えることができる。		
		A	学んだ知識や技能の良さを人に伝えることができる。		
		B	学んだ知識や技能を人に伝えることができる。		
		C	学んだ知識や技能を人に説明することができない。		
実社会における 横断的・総合的な 問題解決の能力	情報収集 判断	S	尋ねたり、調べたり、試したりして、 <u>ものの見方や考え方を広げ深める</u> ことができる。		
		A	尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見付け、 <u>選び出す</u> ことができる。		
		B	尋ねたり、調べたり、試したりして、関係ありそうなものを見付けることができる。		
		C	尋ねたり、調べたり、試したりすることができない。		
	思考 表現	S	問題解決へむけてのアイデアや方法を考え、自分のことばと行動で表現することができる。		
		A	問題解決へむけてのアイデアや方法を考え、自分のことばで表現することができる。		
		B	問題解決へむけてのアイデアや方法を考え、表現することができる。		
		C	問題解決へむけてのアイデアや方法を考えることができない。		
実社会における 横断的・総合的な問題解決に 取り組む態度	学びに向かう力・ 人間性	挑戦 探究	S	夢や疑問、できないことを大切に、 <u>新しい自分やものを創り出す</u> ことができる。	
			A	夢や疑問、できないことを大切に、見通しを持って粘り強く <u>学び続ける</u> ことができる。	
			B	夢や疑問、できないことを大切に、 <u>学び続けようと努力する</u> ことができる。	
			C	できないことやわからないことをあきらめている。	
	責任 使命	S	自分の役割や使命を考え、 <u>生き方の目標を見付け出す</u> ことができる。		
		A	自分の役割や使命を考え、 <u>すべきことを行う</u> ことができる。		
		B	自分の役割や使命を理解し、 <u>果たそうと努力する</u> ことができる。		
		C	自分の役割や使命を理解していない。		
	協力 協働	S	他の人と協力し、 <u>いろいろな意見やそれぞれの力を生かして問題を解決</u> することができる。		
		A	他の人と協力し、 <u>いろいろな意見やそれぞれの力を生かす</u> ことができる。		
		B	他の人と協力しようと努力することができる。		
		C	他の人と協力しようとしていない。		
	感謝 貢献	S	感謝・貢献することを重ねることで <u>絆を深める</u> ことができる。		
		A	感謝の気持ちを持って、自分なりに <u>貢献する</u> ことができる。		
		B	感謝の気持ちを持って、自分なりに <u>貢献しようと努力する</u> ことができる。		
		C	感謝の気持ちを持っていない。		

実際の授業では、発達段階・学習対象や内容に応じて児童生徒にもわかりやすいものに表現を変えて使用する。各 PRPROJECT や単元のルーブリックはこれを規準に考えて定める。

※ Sの内容については、児童（生徒）自身に考えさせたり、授業の中で見付けたりすることも効果的である。

# 0学期から始まるカリキュラムマネジメント

## 0学期

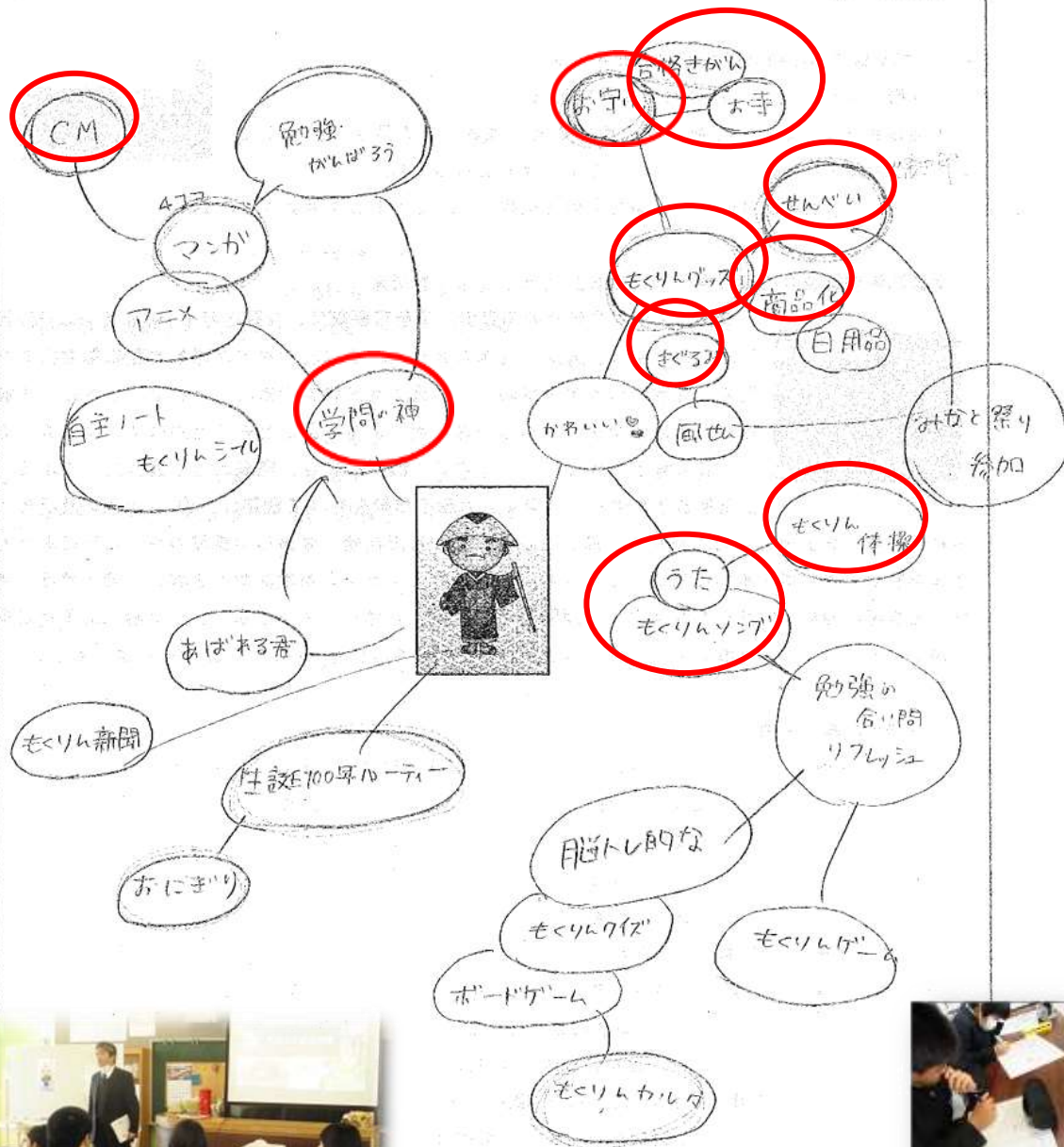
### 志を抱く

価値のある問題（ひと・もの・こと）に出会い、目標を定める

本校では、3学期（0学期）に、次年度へむけて特別授業を行う。H28年度は「郷土の偉人もくりんさんを題材に温故挑新する」ことを来年度の挑戦問題として生徒と教師で共有した。

0学期のアイデアストーミングを行った生徒のワークシート例

おもいついたアイデアをどんどんかきだしてみよう



○の部分を実現したアイデア



# 1 学期

**準備をする**  
 問題解決への道筋とすべ  
 (必要な知識・技能) を考  
 え、問題解決の力を鍛える。

外部人材の活用は重要なマネジメントの要素である。起業企画をすすめるにあたって実社会での起業家の協力を得ることで何をすべきか情報収集する。

## 起業企画のスタートへ向け、身近にいる起業家の方の話を聞く授業をマネジメント

平成26年度 澤原智子 様



店舗を構えず、手作りのお菓子をお届けする店「かずっちゃ」店主。普通の主婦として子育て中、幼稚園の役員会で手造りお菓子を振る舞い、そのおいしさが評判となり、役員仲間から店を出すことを提案され起業する。「ひろみなみロマンクッキー」製作に原案作成時より協力していただき、完成、納品・販売に御協力いただいた。

平成27年度 横須佳織 様

(株)ハドーMEDELL kimono.JAPAN 代表取締役。「着物を着たいが、高い、自分で着られない、来ていく場所がない」という人たちの悩みを解消したく、30代で起業。現在安芸郡坂町と、アクア広島センター街に和モダンセレクトショップ「MEDELL」を出店している。起業前に(株)リクルートに勤務しておられた経験を活かし、生徒に「正しい目標を持って起業する」の内容で講演をしていただいた。その後、生徒の会社見学を受け入れていただき、また広南劇場で販売する「着物からリフォームしてつくる小物」のための着物を50枚近く寄付していただいた。



平成28年度 平井幸奈 様



早稲田大学3年生時にブリュレフレンチトースト専門店「Foru Cafe」を大学近くに開店。その後法人化し、株式会社フォルスタイル代表取締役。  
 呉市出身で、大学卒業後2年目という、生徒にとって身近と感じられる人の、中学生時代からこれまでの体験談と合わせて、起業したいきさつ、思いなどについて講演していただいた。



# 2学期

## 挑戦する

他者と協働し、いろいろな人の意見や能力を生かし、絆を築いていく中で、問題解決に挑む。

社会と実際に関わる体験を通して実社会における問題解決能力は鍛えられて育つ。メディアへの働きかけも達成感を高める。



TVへの出演も、踊りなどの工夫もあって宣伝部の生徒が電話と手紙を書くことで実現



新聞社への連絡も生徒自身で行い実現

ちび子ども新聞 2017年(平成29年)2月



**もくりんさん 広南中員市**

地元で尊敬されている偉人を知ってみたいと誕生したのが「もくりんさん」です。モデルは、浜市の葛原生まれの偉人、平家足利兼盛です。兼盛は長州(山口県)で松下村塾を開いた吉田松陰の思想に影響を与えました。また

**GO! GO! すぐやる キャラ**

**地元の偉人 活発にPR**

長州の武士で後に初代徳川幕府となった伊藤博文から「先生」と呼ばれていた人物です。3年生の天橋本純子(15)さんが2015年、キャラクターをデザインしました。

広南中では14年から毎年、2年生が総合的な学習の一環で会社をつくっています。本年度は昨年9月から21人が社長、部長、商品開発に分かれて「もくりんさん」を広めるために奮闘しました。社長に就任した副社長赤さん(13)と経理部長の山崎さん(13)は「出資金」集めに奔走。広南中と広南小の教職員に商品化のアイデアをプレゼンテーションし、事業資金約24万円を集めました。



広南小の購買家で商品化のアイデアをプレゼンテーションしました



広南中では14年から毎年、2年生が総合的な学習の一環で会社をつくっています。本年度は昨年9月から21人が社長、部長、商品開発に分かれて「もくりんさん」を広めるために奮闘しました。社長に就任した副社長赤さん(13)と経理部長の山崎さん(13)は「出資金」集めに奔走。広南中と広南小の教職員に商品化のアイデアをプレゼンテーションし、事業資金約24万円を集めました。



文化祭で使用する前に商品を販売しました



広南小中学校合同で行う学園祭で、思い思いのちび「もくりんダンス」を踊りました



商品は、10月の文化祭と、11月に浜市立古新町の広市民センターであった広南地区教育祭で販売しました。売り上げは合計約20万円に上りました。材料費や出資金などを除いた利益約6万4千円を日本赤十字社へ寄付しました。「クッキー買ったよ」「宣伝機だよ」など生徒の生憎や保護者からの反響もあり、手応えを感じています。



商品開発部は、トートバッグや傘など印刷する消しゴム、クッキーなどを商品化。宣伝部は、若菜正校長(50)が作成した歌に合わせて、軽快な「もくりんダンス」を考えました。商品PRのために踊り、動画も学校のホームページに載せています。生徒が協力して書くみも作りました。書物は地元の人が提供してくれました。



商品開発部が企画「まかくしたトート」バッグやプリントクッキーなどの商品

みんなの学校のオリジナルキャラクターを考えて子ども新聞で紹介しよう！ 問い合わせは次世代開発部02(236)2628

## 3学期（0学期）

### 志を抱く

価値のある問題（ひと・もの・こと）に出あい、目標を定める

H28年度の0学期の特別授業では、呉市が昨年度、日本文化遺産に選ばれたことを鑑みて、郷土の戦跡への興味関心を持たせるため、地域の方の協力を得て、黄播山地下工場の見学を企画した。この経験をどう来年度の実践に生かすかを新たな挑戦問題として生徒と教師で共有した。



みなさんは、呉市が昨年度、日本遺産に指定されたことを知っていますか？明治に入り、鎮守府が置かれた呉市は軍都として急激に近代化し、太平洋戦争前には、広地区には第11海軍航空廠がおかれていました。この長浜地区にも地下工場がありました。今日は、そこで働いておられた大島さんをみなさんに紹介します。

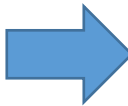
私は、みなさんの同じ年には、学徒動員ということで、2年生の時から毎日、学校ではなく、第11海軍航空廠へ働きに行っていました。みんなで軍歌を歌って行進しながら工場に行くのですが、アメリカのグラマンが突然現れて、機銃掃射にあって、死にかけたことがあります。



ここで働いていました。ある時、大きな爆風で工場内の仕切りが激しく揺れて、何事かと思っ外に出たらしばらくしてきのこ雲があがり、黒い雨がこのあたりに降っているのを見ました。玉音放送を聞いた時は、悔しさもありましたが、今日から家の明かりを黒い布で覆ってひっそりと夜を過ごさなくてもいいんだという、ほっとした気持ちがありました。



今日は、貴重なお話をしていただき、ありがとうございました。今日の特別授業は、来年度、自分たちが何をやるか、その出発点となる授業でした。私は、これまで、この地下工場や、戦跡のこともまるで知りませんでした。これから、みんなでしっかり、いろいろなことを勉強して、「戦争は絶対だめだ」という大島さんの気持ちを受けついでがんばりたいと思います。



# 自主学習へ

特別授業の復習課題を、社会科の自主課題として指示することで、意欲を高める。教科横断的なマネジメントの一例である。

## 春休みの自主課題（社会）

平成 28 年 4 月 25 日、呉市は、「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」として、文化庁から日本遺産の認定を受けました。この旧軍港四市は、日本で唯一、軍港・鎮守府が置かれた歴史や日本近代化の躍動を体感できるという共通のストーリーを有するまちです。一方で、だからこそ、現在、大ヒット上映中の「この世界の片隅に」で描かれているように、戦争中は、敵国の標的となり、戦争の傷跡をあちこちに残しています。

みなさんには、呉市民のひとりとして、この歴史を自分の言葉で語れる人になってほしいと思います。そこで、皆さんには、今日の授業を出発点に、この春休み、まずは、次のテーマ例を参考に「情報収集」を行い、その成果をみんなで共有するためのミニ新聞づくりに挑戦してください

### ＜テーマ例＞

- (1) 戦跡マップにあるように長浜地区でも爆撃や機銃掃射などで被害にあった人があるようだ。それらのことを自分の家族は知っているのだろうか？知っている人を見つけて、少しでも話を聞いて、みんなにも伝えたい。
- (2) 広工場では、実際、どんな飛行機を創っていたのだろうか？広長浜地区の戦跡についてももう少し詳しく調べてみたい。
- (3) 「日本近代化の躍動を体感」というけど、鎮守府が置かれることで、呉市はその前と後で、どう変わったのだろうか？調べてみたい。
- (4) アニメ「この世界の片隅に」をみて気になった呉空襲のことについて実際どれだけの被害があったのか調べてみたい

### ＜ミニ新聞作成上の注意＞

- 1 A3用紙 1枚にまとめる（写真や資料の貼り付けもOK）
- 2 情報収集した内容は、その情報をどこから得たものか（人の場合は、少なくとも氏名とどこに住んでいる人かわかるように、本の場合は名前と著者か、インターネットの場合は、そのアドレスを明記すること）

レポートの採点基準「情報収集・判断」	
S	尋ねたり、調べたりして、これからの取組に役立ちそうな貴重な情報を集めている。
A	尋ねたり、調べたりして、自分が知りたい情報を集めている
B	人に尋ねたり、調べたりしているが、どこから得た情報が明記されていない
C	人に尋ねたり、調べたりしたことがレポートの内容にない。

レポートの採点基準「思考・表現」	
S	調べたことをもとに、自分の考えを工夫して表現している。
A	調べたでわかったことをもとに、自分の考えを書いている。
B	調べたでわかったことについて自分の感想を書いている。
C	自分の考えがレポートの内容にない。

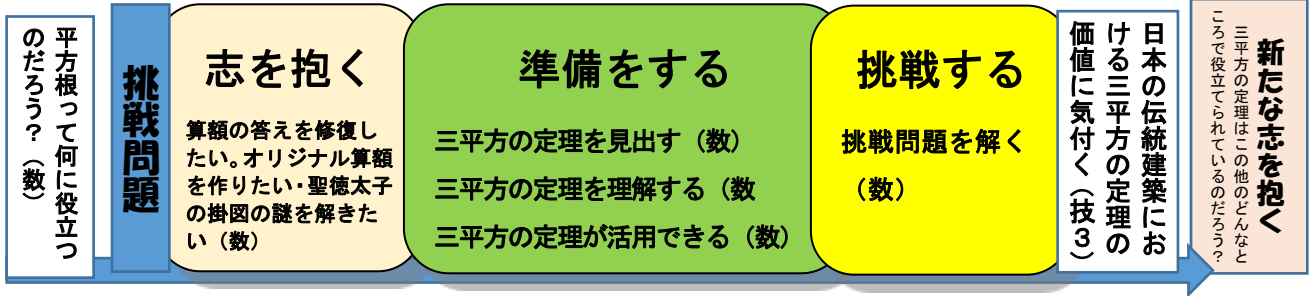


実践例 1 教科横断型 中3 数学 単元 「三平方の定理」

挑戦問題 ①算額の答えを修復しよう！②オリジナル算額を奉納しよう！

③聖徳太子の掛図の謎を解こう

1 PROJECTの単元構成と流れ



2 PROJECTで生徒と共有する資質・能力のルーブリック

次期指導要領	資質・能力	評価	評価基準
知識・技能	技能 知識	S	三平方の定理を活用したオリジナルの算額をつくることができる。
		A	三平方の定理を活用しているいろいろな問題を解くことができる。
		B	三平方の定理を活用して基本的な問題を解くことができる。
		C	三平方の定理を使った問題を解くことができない。
思考力・判断力・表現	情報収集 判断	S	尋ねたり、調べたり、試したりして、 <u>ものの見方や考え方を</u> 広げ深めることができる。
		A	尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見付け、選び出すことができる。
		B	尋ねたり、調べたり、試したりして、関係ありそうなものを見付けることができる。
		C	尋ねたり、調べたり、試したりすることができない。
	思考 表現	S	三平方の定理を使った問題の解き方を工夫や意見を加えて説明できる。
		A	三平方の定理を使った問題の解き方を自分のことばで説明できる。
		B	三平方の定理を使った問題の解き方が説明できる。
		C	三平方の定理の使い方が説明できない。
学びに向かう力・人間性	探究 挑戦	S	挑戦問題を解決し、「新しい自分」を創り出すことができる。
		A	挑戦問題にむけて、見通しを持って粘り強く解決するための努力することができる。
		B	挑戦問題を解こうと、努力することができる。
	使命 責任	S	ものづくりの基礎となる数学の価値を考え、発展させていきたいと思うことができる。
		A	ものづくりの基礎となる数学の価値を考え、さらに深く学んでいきたいと思うことができる。
		B	ものづくりの基礎となる数学の価値に気付くことができる。
		C	ものづくりの基礎となる数学の価値に気付くことができない。
	協働 協力	S	いろいろな意見や考え方を生かして、 <b>2つ以上求める方法を見付けることができる。</b>
		A	いろいろな意見や考え方を出し合い、みんなで求め方をひとつ見付けることができる。
		B	自分の考えを発表し合うことができる。
		C	自分の考えを発表し合うことができない。
	貢献 感謝	S	感謝の気持ちを持って皆が興味を持って意欲的に取り組めるような算額を作成し、自分なりに貢献することで、絆を深めることができる。
A		感謝の気持ちを持ってオリジナルの算額を作成し、自分なりに貢献することができる。	
B		感謝の気持ちを持って算額を作成し、自分なりに貢献しようと努力することができる。	
C		感謝の気持ちを持って算額を作成することができない。	

<評価方法> 観察 題材や単元末およびPROJECT終了時の自己評価・教師評価

本時で活用する部分 協働 協力

### 3 本時の指導略案

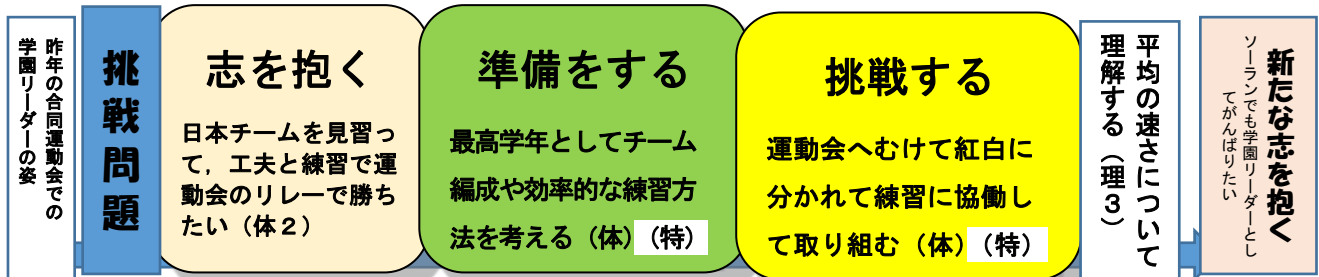
- 本時の目標 座標平面上の線分の長さを求める方法を協働して考える。
- 学習の流れ

学習活動	・指導上の留意点 (◆「努力」を要する生徒への指導の手立て)	○評価規準, ★ルーブリック(評価方法)
<p>1 課題意識をもつ</p>		
<p><b>【挑戦問題】①算額の答えを修復しよう！ ②オリジナル算額を奉納しよう！ ③聖徳太子の掛図の謎を解こう</b></p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の願いを受け止め、挑戦問題に対して志を抱く。</li> <li>・問題解決までの見通しを理解し、資質・能力のルーブリックで目標を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験談をもとに教師としての願いをPROJECTのSルーブリックを活用して伝える。</li> <li>・挑戦問題③は技術の時間に解決することを伝える。</li> </ul>	
<p>2 本時のめあてを確認する</p> <p>めあて「斜めの線分の長さを求める方法を協働して考える」</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを資質・能力ルーブリックを活用して共有する。</li> </ul>		
<p>3 課題に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で、長さを求める方法を考える。</li> <li>・グループで話し合う。</li> <li>・グループで求め方を説明する準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図を付け加えたり、補助線を引いたりして、面積を利用すればよいことに気付かせる。</li> <li>・三角形のパズルを4枚与えて操作活動で解き方を発見させる。</li> <li>・求め方は一通りではないことを伝え、他の方法も考えさせる。</li> </ul>	<p>○(関心・意欲・態度)線分の長さに関心をもち、どのような図形の性質や面積の関係をういたら求められるかを考えようとしている。</p>
<p>4 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板で発表する。</li> </ul> <p>5 本時のまとめをする</p>	<p>◆グループで教え合い、誰が指名されても答えられるように準備させる。</p>	<p>★[協働]ルーブリック(教師観察)</p>
<p>生徒のまとめ例「斜めの線分の長さを求めるには、直角三角形や正方形の面積と辺の長さを利用する。」</p>		
<p>6 本時を振り返り、次時につなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートを書く。</li> <li>・予習問題を提示する。</li> </ul>		<p>★資質・能力のルーブリックで本時の目標の達成度を自己評価する(振り返りシート)</p>

実践例2 教科横断型 中2 保健体育 単元「陸上競技 リレー」

挑戦問題 「学園リーダーとして、運動会で観客を魅了するリレーをしよう」

1 PROJECTの単元構成と流れ



2 PROJECTで生徒と共有する資質・能力のルーブリック

次期指導要領	資質・能力	評価	評価基準
知識・技能	技能 知識	S	学んだことを活用して観客を魅力するバトンパスを見せることができる。
		A	学んだことを生かして生徒自身が感動するバトンパスをすることができる。
		B	学んだことを生かして昨年より良いバトンパスを見せることができる。
		C	学んだことを生かしてリレーができない。
思考力・判断力・表現力	情報収集 判断	S	尋ねたり、調べたり、試したりして、リレーについての見方や考え方を広げ深めることができる。
		A	尋ねたり、調べたり、試したりして、リレーについて必要なものを見付け、選び出すことができる。
		B	尋ねたり、調べたり、試したりして、リレーについて関係ありそうなものを見付けることができる。
		C	尋ねたり、調べたり、試したりすることができない。
学びに向かう力・人間性	思考 表現	S	リレーで勝つためのポイントを他者に伝えるように詳しく説明できる。
		A	リレーで勝つための複数のポイントを自分の中で理解できている。
		B	リレーで勝つためのポイントを1つは自分の中で理解できている。
		C	リレーで勝つためのポイントがわからない。
学びに向かう力・人間性	探究 挑戦	S	粘り強い努力をすることで、優勝することができる。
		A	勝利をめざし、見通しを持って粘り強く努力することができる。
		B	勝利をめざし、努力することができる。
		C	工夫や練習をしても勝てないとあきらめている。
	使命 責任	S	学園リーダーとしての使命を考え、生き方に生かすことができる。
		A	学園リーダーとしての使命を考え、小学生の手本になることができる。
		B	学園リーダーとしての使命を理解し、自分の役割を果たそうと努力することができる。
		C	学園リーダーとしての自分の使命を理解していない。
	協働 協力	S	チームメートとの意見交換の中で取捨選択し、それぞれの力を生かしたリレーをすることができる。
		A	チームメートのいろいろな意見やそれぞれの力を生かすリレーをすることができる。
		B	チームメートと協力しようと努力することができる。
		C	チームメートと協力しようとしていない。
貢献 感謝	S	地域の方に感謝の気持ちを伝える運動会にすることで、絆を深めることができる。	
	A	地域の方に感謝の気持ちを伝える運動会のために自分なりに貢献することができる。	
	B	地域の方に感謝の気持ちを伝える運動会のために努力することができる。	
	C	地域の方に感謝の気持ちを伝えることができない。	

<評価方法> 観察 題材や単元末およびPROJECT終了時の自己評価・教師評価

本時で活用する部分

3 本時の指導略案

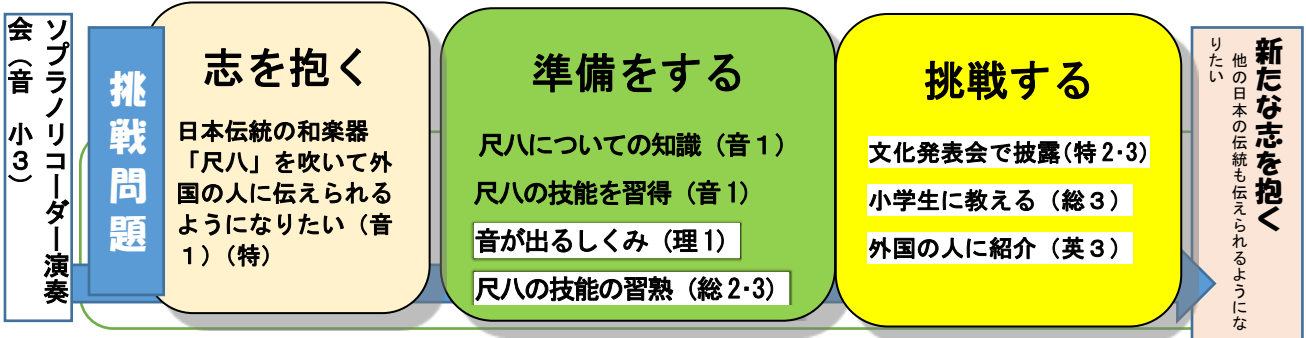
- 本時の目標 リレーは何をつなぐものか理解し、リレーで勝つためのポイントを考える。
- 学習の流れ

学習活動	・指導上の留意点 (◆「努力」を要する生徒への指導の手立て)	○評価規準, ★ループリック(評価方法)
1 課題意識をもつ		
<b>【挑戦問題】学園リーダーとして、運動会で観客を魅了するリレーをしよう</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の願いを受け止め、挑戦問題に対して志を抱く。</li> <li>・ 問題解決までの見通しを理解し、資質・能力のループリックで目標を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経験談をもとに教師としての願いをPROJECTのSループリックを活用して伝える。</li> </ul>	
<b>めあて「リレーは何をつなぐもの? リレーで勝つためのポイントは?」</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の目標を資質・能力ループリックを活用して共有する。</li> <li>・ リレーは何をつなぐものか予想し、発表する。</li> </ul> <p>3 リオ五輪日本男子 400mチームから学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リオ五輪のデータから日本男子 400mチームが予想ではメダルがとれそうになかったことを読み取る。</li> <li>・ ビデオの映像で日本チームが銀メダルを取ったことを知る</li> </ul> <p>○「なぜ、力では劣る日本チームが銀メダルを取れたのだろうか?」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本チームがバトンパスの工夫と練習で銀メダルを取ったことに気付く。</li> </ul> <p>4 バトンパスの工夫をグループで考え、発表し合う</p> <p><b>問題</b> 50m走 が7秒・8秒の人が広南中トラックで半周ずつ走りリレーをします。スピードを落とさず、速く走れるよう走順やそれぞれのバトンパスの工夫のポイントを考えなさい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思考・表現を高めるための授業であることを伝える。</li> </ul> <p>◆ タイムの合計計算は教師で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リオ五輪のビデオ、バトンパスの時のスピードの変化のグラフから、リレーは「スピードをつなぐ」ことで合計タイムを上回ることができる競技であることに気付かせる。</li> <li>・ 速さの考えがよくわからない生徒には3年生の理科で学ぶ機会があることを知らせる。</li> </ul> <p>※「スピードをつなぐ」ための具体的なポイントを出し合い、確認する。</p> <p>◆課題を発見させ、次のポイントで考えるように助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バトンを渡す側のポイント</li> <li>・ バトンを受ける側のポイント</li> <li>・ 走る順番の工夫</li> </ul> <p>◆グループの誰でも発表できるように準備をさせる。</p>	<p>○ (運動についての思考・判断) リレーで勝つためのポイントを見つけ他者に説明することができる。</p> <p>★【思考・表現】ループリック(教師観察)</p>
<b>生徒のまとめ例「リレーはスピードをつなぐもの。走る順番や走者のスタート位置などがポイントであることがわかった。」</b>		
<p>5 本時のまとめをする</p> <p>6 本時を振り返り、次時につなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りシートを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学園リーダーとしてどう運動会のリレーに臨むか(決意)をワークシートに記入させる。</li> </ul>	<p>★資質・能力のループリックで本時の目標の達成度を自己評価する(振り返りシート)</p>

**実践例3 教科横断型 中1 音楽 題材「日本の伝統音楽・楽器に親しもう」**

**挑戦問題「日本の伝統楽器「尺八」の素晴らしさを伝えられるようになろう」**

1 PROJECTの単元構成と流れ



2 PROJECTで生徒と共有する資質・能力のルーブリック

次期指導要領	資質・能力	評価	評価基準
知識・技能	技能 知識	S	尺八について学んだことを詳しく説明したり、尺八の新たな曲を吹いたりすることができる。
		A	尺八について学んだことを説明したり、尺八を吹いたりすることができる。
		B	尺八について学んだことの一部を説明したり、音を出したりできる。
		C	尺八について学んだことを説明したり、音を出したりすることができない。
思考力・判断力・表現力	判断 情報収集	S	尺八の音を聴いたり、吹いたりして、尺八の良さや奥深さを感じ取ることができる。
		A	尺八の音を聴いたり、吹いたりして、独特な音色の特徴を感じ取り、奏法との関連を見付け出すことができる。
		B	尺八の音を聴いたり、吹いたりして、独特な音色の特徴を感じ取ることができる。
		C	尺八の音を聴いたり、吹いたりして、独特な音色の特徴を感じ取ることができない。
	表現 思考	S	尺八の独特な音色の感受を基にして、歴史や具体的な奏法とつなげる等、工夫して楽曲の良さや美しさを表現できる。
		A	尺八の独特な音色の感受を基にして、楽曲の良さや美しさを根拠をもって表現できる。
		B	尺八の独特な音色の感受を基にして、楽曲の良さや美しさを表現できる。
		C	尺八の独特な音色の感受を基にして、楽曲の良さや美しさを表現できない。
学びに向かう力・人間性	挑戦 探究	S	尺八が吹ける「新しい自分」を創り出すことができる。
		A	尺八を、見通しを持って粘り強く吹けるようになろうと努力することができる。
		B	尺八を吹けるようになろうと、努力することができる。
		C	尺八は吹けないとあきらめている。
	使命 責任	S	日本の伝統芸能に対する使命を考え、尺八の良さを外国の人に伝えることができる。
		A	日本の伝統芸能に対する使命を考え、尺八の良さを伝えることができる。
		B	日本の伝統芸能に対する使命を理解し、尺八の良さを伝えようと努力することができる。
		C	日本の伝統芸能に対する自分の使命を理解できていない。
	協働 協力	S	演奏や話し合いで、いろいろな意見やそれぞれの力を生かして考えを深めたり、問題を解決することができる。
		A	演奏や話し合いで他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。
		B	演奏や話し合いで他の人と協力しようと努力することができる。
		C	練習や話し合いで他の人と協力することができない。
	貢献 感謝	S	日本の伝統文化を教えてくださいと地域の方に感謝の気持ちを持ち、自分なりに貢献することで絆を深めることができる。
		A	日本の伝統文化を教えてくださいと地域の方に感謝の気持ちを持ち、自分なりに貢献することができる。
		B	日本の伝統文化を教えてくださいと地域の方に感謝の気持ちを伝えることができる。
		C	日本の伝統文化を教えてくださいと地域の方に感謝の気持ちを伝えることができない。

＜評価方法＞ 観察 題材や単元末およびPROJECT終了時の自己評価・教師評価  
 本時で活用する部分

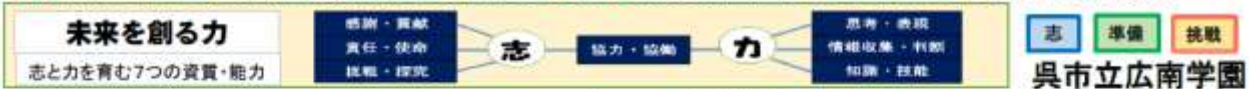
### 3 指導略案

- 本時の目標・尺八の音色や奏法の特徴を知覚・感受する。・尺八の歴史，構造，種類について知る。
- 学習の流れ

学習活動	・指導上の留意点 (◆「努力」を要する生徒への指導の手立て)	○評価規準，★ルーブリック(評価方法)
1 課題意識をもつ 「尺八との出会い」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒全員に塩ビ尺八を配付する。</li> <li>・これが何なのかを自由に発表させ，題材への意欲の高揚を図る。</li> </ul>	
<b>【挑戦問題】日本の伝統楽器「尺八」の素晴らしさを伝えられるようになろう。</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の願いを受け止め，挑戦問題に対して志を抱く。</li> <li>・「塩ビ尺八」を吹く。(グループ活動)(7分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験談をもとに教師としての願いをPROJECTのSルーブリックを活用して伝える。</li> <li>・どうすれば音が出るのか，グループで活動させる。(簡単には音が出ないことを理解させる。また，音が出た生徒を評価し，そのコツを他生徒に教授させる。)</li> <li>◆グループ活動で，どうやって吹くのかを発見させる。</li> </ul>	
2 本時のめあてを確認し，シートへ記入する(2分)	<b>めあて「尺八の音色や奏法の特徴を感じ取ろう。」</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を資質・能力ルーブリックを活用して共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の歴史や特徴について映像や資料を用いて説明する。</li> <li>◆ICTを活用し，視覚支援を行う。</li> <li>・大事であると判断した所はワークシートにメモするよう生徒に指示をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○(興味・関心・意欲)尺八の特徴や奏法，音色に関心を持って主体的に聴いている。(観察・ワークシート)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>3 尺八の歴史，構造，種類について知る(10分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような独特な音の響き(音の変化)があったかを線や記号で書き出し，見つけ出す。</li> <li>・どのようにしてその音を出しているか予想を立てる。</li> <li>◆塩ビ尺八やリコーダーを用いて，奏法を発見できるよう指示をする。</li> <li>・一度の演奏では聴き取りが難しいので，適宜演奏を流す。</li> <li>・本時の学習から，学んだことや気付いたことを自分なりにまとめ，発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○(鑑賞の能力)尺八の独特な奏法による表現の特徴を知覚し，その美しさや豊かさを感じ取っている。</li> <li>★【情報収集・判断】ルーブリック</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>4 奏法の工夫について予想する 「巢鶴鈴慕」初段を聴きワークシートへ記入する。 個人→集団→発表 (演奏6分・活動15分)</li> <li>5 本時のまとめ(5分)</li> </ul>	<b>生徒のまとめ例「単純な作りに見える尺八であるが，奏法の工夫により，様々な音色が作り出されていることが発見できた。」</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>6 本時を振り返り，次時につなげる(5分)</li> <li>・復習課題を提示する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時では，予想した奏法が，実際にどのように演奏されているのか知り，「巢鶴鈴慕」ではどんな奏法が使われているのか発見させる。</li> <li>・本時で学習した内容(尺八の歴史や構造について)を自分なりにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★資質・能力のルーブリックで本時の目標の達成度を自己評価する。(振り返りシート)</li> </ul>

<参考> H29 広南学園カリキュラムマップ (案)

誇りを持って故郷を語り、受け継ぎ、発展を担う志と力をもつ児童生徒を育てるカリキュラムマップ(案)



	教科	総合的な学習の時間		特別活動その他			
		生き方学習	ふるさと学習				
後期 探究	9年生	外国の人に日本の文化を伝える(英) 地域の課題を考える(社) 保育実習(昔遊びを伝えよう)(家) 南中ソーラン(語り)指導(体)	宇都宮熱帯の志を学ぶ(道) 日本建築の技(技) 算盤を作ろう!(数) 落語の秘密(国)	自己PR大作戦 オープンスクールへの参加 進路説明会 進路先の情報収集	自己実現の志を抱く 地域と未来をテーマにした創作劇 社会貢献の志を抱く	夢・尺八・書・ものづくりの技能の習熟	講演会ようこそ先輩 広南寄席 広南劇場
	8年生	外国の人に地域の文化を伝えよう(英) 身近な地域を見直そう(社) 南中ソーラン(語り)習熟(体)	マラソンチャレンジ(体) 日本チーム銀メダルの誇り(体) 果敢選手の生き方に学ぶ(道) どの箱を選ぶ?確率で考えよう(数)	職業的自立の志を抱く 職場体験 職業の魅力探し	起業企画 起業家に学 蚊がO研究PRPROJECT	夢・尺八・書・ものづくりの技能の習熟	
中期 活用	7年生	マラソンチャレンジ(体) 外国の人に学校の文化を伝えよう(英) マロンストーン探究2(理) 地球を救え!(数) 南中ソーラン(語り)習得(体)	尺八・軍に挑戦(音) ベースを発見しよう(体) ビブリオトーク(国)	夢を語る 魅力的な生き方探し	落語に挑戦 蚊がO研究PRPROJECT	せとうち海援隊(地域清掃ボランティア) 呉高等専門学校演劇部公演 広南芸術鑑賞会 広南合同運動会 学習発表会	
	6年生	マロンストーン探究1(理) 地域の伝統料理うどんどうふづくり(家) ふれあい文化探訪(社) 平成源平応援合戦(語り)指導(体)	夢を語る 自分の未来・夢 いろいろな人の生き方に触れる	歴史探訪 ~広南の宝~ 宇都宮熱帯・石炭文庫・小坪神楽 石炭文庫会干しのお手伝い	自然を守り隊 海の生き物に学		
	5年生	和の文化について調べよう(国) 環境を守る人々(社) ふれあい文化探訪(社) 平成源平応援合戦(語り)指導(体)	和の心との出会い 茶道・書道	煎茶のもてなし			
4年生	10年後の自分へ ~タイムカプセル~(国) 小坪神楽をもう一度(道) 郷土の発展につくす(社) ふれあい文化探訪(社) 平成源平応援合戦(語り)習熟(体)	夢を持つ 2分の1成人式	生ゴミリサイクルエコで元気なまちづくり				
前期 習得	3年生	わたしのまち みんなのまち(社) 町について調べてしようかいしよう(国) 平成源平応援合戦(語り)習熟(体)	町・人・自然 地域安全マップ作	もっと知ろうよ わたしたちの町 地域のよさをさがせ	ふれあい夢観日		
	2年生	「わたしのベストブック」をつくろう(国) かんがい金のごちそう(道) 平成源平応援合戦(語り)習得(体)	町のすてきを伝え合おう まちたんけん・まちの人となかよくなる	あしたへジャンプ 大きくなった自分(生)			
	1年生	「おもいでブック」をつくろう(国) 平成源平応援合戦(語り)習得(体)	みんな みんな だいすきだよ 学校たんけん(生)	じぶんでできるよ(生)			

# 平成29年度総合的な学習の時間の全体計画

<p><b>生徒の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小規模校であり、素直で学習や特別活動などに意欲的に取り組んでいる生徒が多い。礼節を大切にしようとする校風も育ってきた。</li> <li>● 読書の習慣や思考力、主体的に行動する態度が課題である。</li> </ul>	<p>&lt;学校教育目標&gt;</p> <h2 style="color: red;">未来を創る</h2> <p>～誇りを持って故里を語り、受け継ぎ、発展を担う志と力を育てる教育の創造～</p> <p>&lt;研究主題&gt;</p> <h3 style="color: red;">未来を創る資質・能力の育成をめざして</h3> <p>～挑戦問題・貫きカリキュラム・Sループリックを手がかりに～</p>	<p><b>保護者・地域の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厳しい家庭環境にある生徒が増加している。一方で、学校に協力的な人材は多い。</li> <li>・ 過疎化が進み、少子・高齢化が急激に進んでいる。</li> <li>・ 海と山の豊かな自然環境に囲まれている。</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**本校の総合的な学習の時間の目標**

生き方について広く深く**視野を広げるとともに**、故里を知り、つながり、貢献する生き方と方策を**協働的・創造的に探究**する活動を通して、課題解決の能力や資質を育成し、学び方や、ものの考え方を身に付け、**主体的な自分の生き方**を考えることができるようにする。

実社会における横断的・総合的な問題解決の道筋（志+力=挑戦）

**志を抱く**

価値のある問題（ひと・もの・こと）に出会い、目標を定める

**準備をする**

問題解決への道筋とすべ（必要な知識・技能）を考え、問題解決の力を鍛える。

**挑戦する**

他者と協働し、いろいろな人の意見や能力を生かし、絆を築いていく中で、問題解決に挑む。

感謝  
貢献

**志**  
こころの力

責任  
使命

協力  
協働

情報収集  
判断

知識  
技能

思考  
表現

挑戦  
探究

**力**  
かねえる力

育てようとする資質・能力	目指す学びの姿（評価規準）
<b>知識・技能</b>	単元で学んだ生き方や故里に関する知識や技能の良さを人に伝えることができる。
<b>実社会における横断的・総合的な問題解決の能力</b>	情報収集・判断 尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見付け、選び出すことができる。
	思考・表現 問題解決へむけてのアイデアや方法を考え、自分のことばで表すことができる。
<b>実社会における横断的・総合的な問題解決に取り組む態度</b>	挑戦・探究 夢や疑問、できないことを大切に、見通しを持って粘り強く学び続けることができる。
	責任・使命 自分の役割や使命を考え、すべきことを行うことができる。
	協力・協働 他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。
感謝・貢献	感謝の気持ちを持って、自分なりに貢献することができる。

単元	生き方学習	ふるさと学習
目標	<p style="color: red; border: 1px solid black; padding: 2px;">不かく尋ね たかく志す</p> <p>広く深く視野を広げ、不を覆す高き志を胸に</p>	<p style="color: red; border: 1px solid black; padding: 2px;">温故挑新</p> <p>故里を温め、新しきに挑戦しよう</p>
中期	<p><b>魅力的な生き方がし</b></p> <p>「運命の本ヒプリオトーク」を通して、それぞれの先人の生き方の魅力を知るとともに、人間の生き方について広く深く視野を広げ、主体的な自分の生き方を模索する。</p>	<p><b>「伝統文化を受け継ごう</b></p> <p>「人を楽しませることのできる新しい自分づくり」という問題解決へ向けて古典芸能（落語）の習得に協働的に取り組み、出前落語等で地域の方に楽しんでもらえる貢献活動に挑戦することを通して、地域に貢献する志と問題解決能力の資質・能力を高める。</p>
	<p><b>運命の仕事に出会うために</b></p> <p>「運命の本ヒプリオトーク」を通して起業家や、いろいろな職業で活躍する先人の生き方や考え方を知るとともに、広く深く職業的視野を広げ、主体的な自分の職業選択へ向けての考え方を模索する。</p>	<p><b>広南「起業」PROJECT</b></p> <p>「起業による社会貢献」という問題解決へ向けて、職場体験と故里を題材にした起業による社会貢献活動を通して、地域に貢献する志と問題解決能力の資質・能力を高める。</p>
後期	<p><b>I 「FOR THE NEXT STEP」</b></p> <p>様々な進路先について広く深く視野を広げることを通して、よりよい進路選択へむけて自立の態度と支援的環境づくりを実現する。</p>	<p><b>広南「未来貢献」PROJECT</b></p> <p>「地域・未来貢献」という問題解決へむけて、自分たちの志や提言を創作劇づくりという創造的・協働的な手段で地域に発信する活動を通して地域に貢献する志と問題解決能力の資質・能力を高める。</p>
	<p><b>II 「自己PR大作戦」</b></p> <p>将来に向けて自分の良さを伝える表現力を磨くことを通して、主体的な自分の生き方について考えを深める。</p>	

教がO研究PROJECT

地域の先人・先輩とつながり、協働して進路指導の改善の方向性を科学的に探究する。

地域の匠に学ぶ

日本の優れた伝統文化を地域の方から学び、伝えることのできる力を身に付ける。

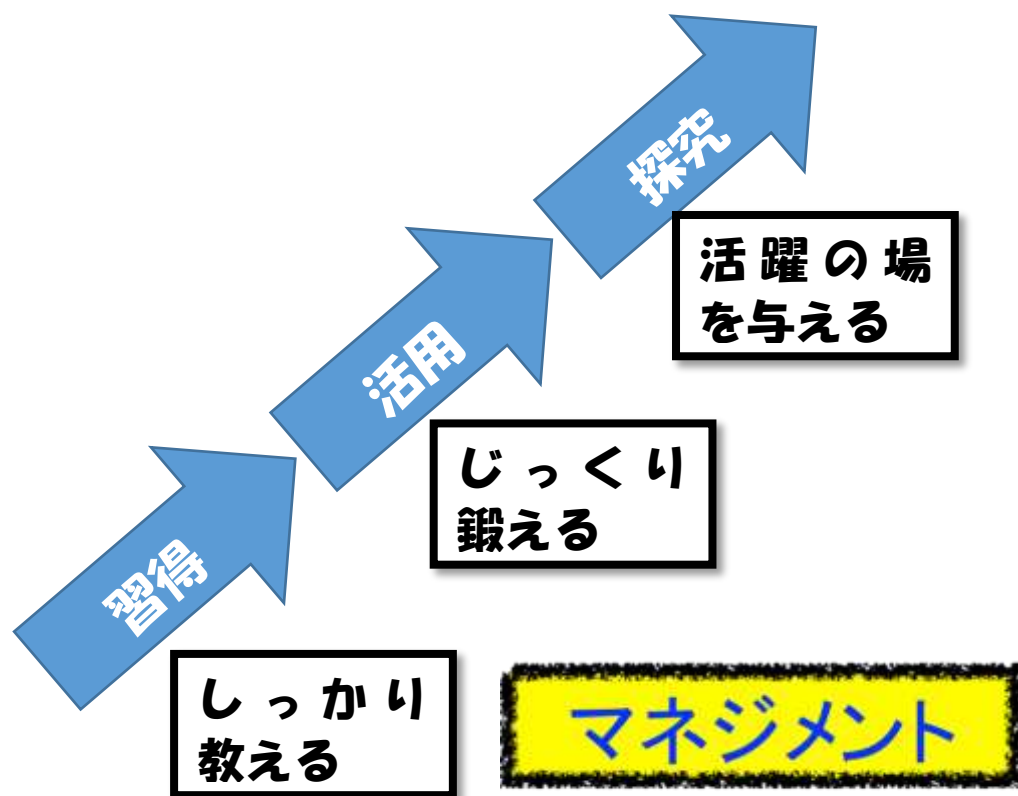
絆PROJECT

自分たちが学んだことを生かして小学校や地域に貢献する。

指導方法	学習の評価	指導体制
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師はファシリテーターとして、生徒の主体性と協働的な態度を高める支援を見通しを持って行う。</li> <li>・ 地域ボランティアや地域の人材を有効に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の課題や学習計画、挑戦・探究の過程を振り返るポートフォリオ評価</li> <li>・ ループリックによる自己評価・他者評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全教職員が協働し、学年組織を中心に指導を進める。</li> <li>・ 地域の人材や外部団体と連携し、協働指導体制を構築していく。</li> </ul>



## II 「学びがい」向上部会



ミッション

小中9年間を見通したカリキュラムマネジメント

H29 研究テーマ

学習内容の学びがい（学ぶ価値・学ぶの質）を高める工夫の工夫

## 目 次

### Ⅱ 「学びがい」向上部会

#### 〔挑戦問題から始まる課題発見・解決学習〕

教科における課題発見・解決学習の単元づくり	Ⅱ－ 2
総合的な学習の時間における課題発見・解決学習の単元づくり	Ⅱ－ 4
貫きカリキュラム	Ⅱ－ 9

#### 〔Sループリック〕

Sループリックの活用	Ⅱ－13
------------	------

#### 〔活躍・挑戦の場づくり〕

乗り入れ授業の価値	Ⅱ－26
地域の人材活用（中学校）	Ⅱ－28
I C Tの活用	Ⅱ－30

今回の挑戦問題は「灰ヶ峰は噴火するか？」です。あなたはごどう思いますか？

あの山が噴火したらたいへんですね！

でも、今の自分には、それを考える知識も技能もないからわかりません

そうですね。この単元では、火山についての知識や岩石がどのようにしてつくられるかを学びます。この単元がおわることには、みなさんは、もう灰ヶ峰ばかりでなくどんな山もそれが火山かどうか判断することができるようになりますよ。

そんなことができるようになるのか。よしがんばるぞ！

## 挑戦問題から始まる課題発見解決学習

挑戦問題の提示によって

「解決すべき価値のある問題だけど、今の自分には解決できない、解くことができない」現状を自覚させるとともに、「この学習をすれば、この問題が解決できるようになる」見通しを示すことで、児童・生徒は学びへの意欲を高め、志を抱く（目標を定める）ことができる。

また、問題解決へ向かう準備（自分が取り組むべき課題を発見し、それらのひとつひとつを解決しながら問題解決に必要なすべ《知識・技能》を習得していく課題解決の）過程を通して、問題解決の力が鍛えられ、その解決への見通しは生徒にとって確かなものになっていく。

そして、必要に応じて他者とも協働し、いろいろな人の意見や能力を生かし、絆を深めたりしながら問題解決へ向かう挑戦の経験を積み重ねることで、児童生徒は、実社会における問題解決に向かう態度と能力を身に付けることができる。

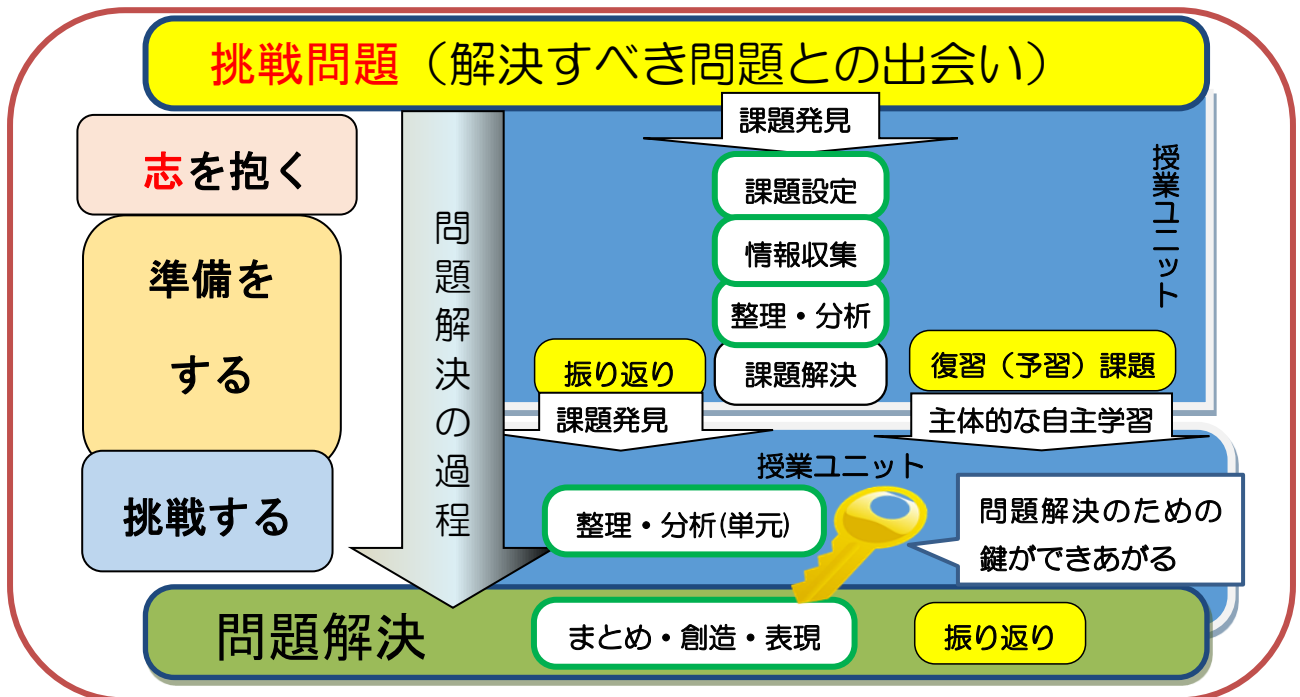
岩石の組織や色をみて、その岩石がどうやってできたか鑑定できるようになった。そうか！もし火山岩だとわかれば…。そうか！この知識と技能を極めれば、灰ヶ峰が火山かどうかわかるかもしれない！

最初は、こんな問題わかるはずはないと思っていたけど、学習内容を活用すれば、灰ヶ峰が火山かどうか、自分なりに推論できるようになった。また、みんなと議論することで考えが深まってよりよい推論に修正することができた。

こうやっていろいろなことを学んでいくことで、いろいろな問題を自分が解けるようになっていける。これからも、学ぶことを大切にしていこう！

# (1) 教科学習における課題発見・解決学習の単元づくり

## 単元モデル図



### 1 学びがいのある挑戦問題から始まる課題発見解決学習の流れの設定

取組の5つのポイント (H29)

<b>志を抱く</b> 価値のある問題（ひと・もの・こと）に出会い、目標を定める	<b>準備をする</b> 問題解決への道筋とすべ（必要な知識・技能）を考え、問題解決の力を鍛える。	<b>挑戦する</b> 他者と協働し、いろいろな人の意見や能力を生かし、絆を築いていく中で、問題解決に挑む。	<b>振り返り</b>
---------------------------------------------	------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------	-------------

- 振り返り時間(5分)の充実**
  - 自分自身で学んだことを整理させることで学習の定着状況の把握
  - 学習から生まれるさらなる問い(課題発見)(以降の授業の課題設定に生かす)
- 自学自習への意欲を引き出す予習課題・復習課題の設定**
  - 予習課題(次の時間で活躍させるための準備) 個人思考・情報収集
  - 復習課題及び単元末課題(学んだことを定着・活用・発展させる課題)
- ワークシート・ノート指導の工夫**
  - 指導方法(問題解決の過程を踏まえた指導)の共有及び改善
- 評価の工夫**
  - 広南学園の資質・能力のSループリックを活用した教科の目標に準拠した評価活動

実践例 理科 第1学年

単元名 <b>「火山活動と火成岩」</b>	<b>挑戦問題</b> 「灰ヶ峰は火山か？」
本単元で育成するおもな資質・能力	
知識・技能    思考・表現    協力・協働    挑戦・探究	
単元の目標	火山の形や活動の様子及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けてとらえるとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けて捉えることができる。

# 挑戦問題「灰ヶ峰は火山か？」

志を抱く

課題設定

火山の特徴

爆発的な噴火	比較的おやかな噴火
つりがね型	富士山
成層火山	盾状火山
カリフォルニア	活火山

もともになるマグマ

岩石の色あい

黒っぽい鉱物の割合

無色鉱物

有色鉱物

黒っぽい鉱物

その他

地下深くでゆっくり冷える

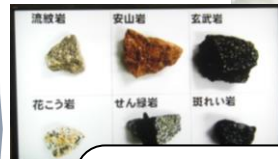
地表付近で急に冷える

新しい知識・考えを習得した喜び

(生徒の声)  
ほんとうに火山だったらどうしよう？  
(予想) 火山だと思う 4人  
火山だと思わない 15人  
火山かどうかを見分けることが自分のできるようになるのだろうか？

準備をする

情報収集



(生徒の声)  
火成岩を鑑定することであるいろいろなことが推理できるようになった！

喜び  
活用できた

整理・分析

(生徒の声) 火山のことがいろいろとわかった！！

問題解決の鍵

## 前時の振り返り(課題解決に必要なものは何?)

課題発見

課題発見

課題発見

灰ヶ峰の頂上の石 A

ふもとの石 B

周囲の様子が分かるもの



鑑定結果

岩石A 流紋岩

鑑定理由  
白、ほく、女王状組織  
だったから、ちゅうせ  
たから、かかん

鑑定結果

岩石B 花こう岩

鑑定理由  
岩石の組織が流紋岩と異なり、  
石英、角閃石、黒雲母、  
斜長石、カルシウムを  
含む組織であった。

(生徒の声)  
問題解決できたかも！？

思考・表現

推論

振り返り

学んだことを役立てることができた喜び

協働して問題解決

個人レポートの作成

振り返り

(生徒の声) 火成岩の知識で小学校の時に解けなかった謎が解けるか

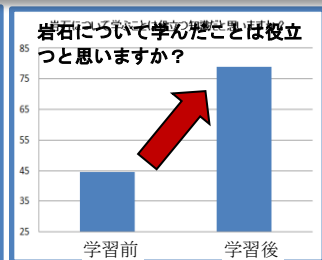
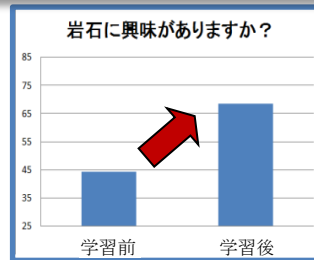
課題発見

# 挑戦問題「マロンストーンズの謎に挑戦Ⅱ」

成果と課題  
本単元の

地学領域タイプⅡ	H26	H27
県平均通過率(%)	44.7	45.5
本校生徒の通過率	28.6	59.1
県平均との差	-16.1	+13.6

広島県「基礎・基本」定着状況調査より



学習前後の生徒の「主体的な学び」の変容(生徒アンケート H27 より)

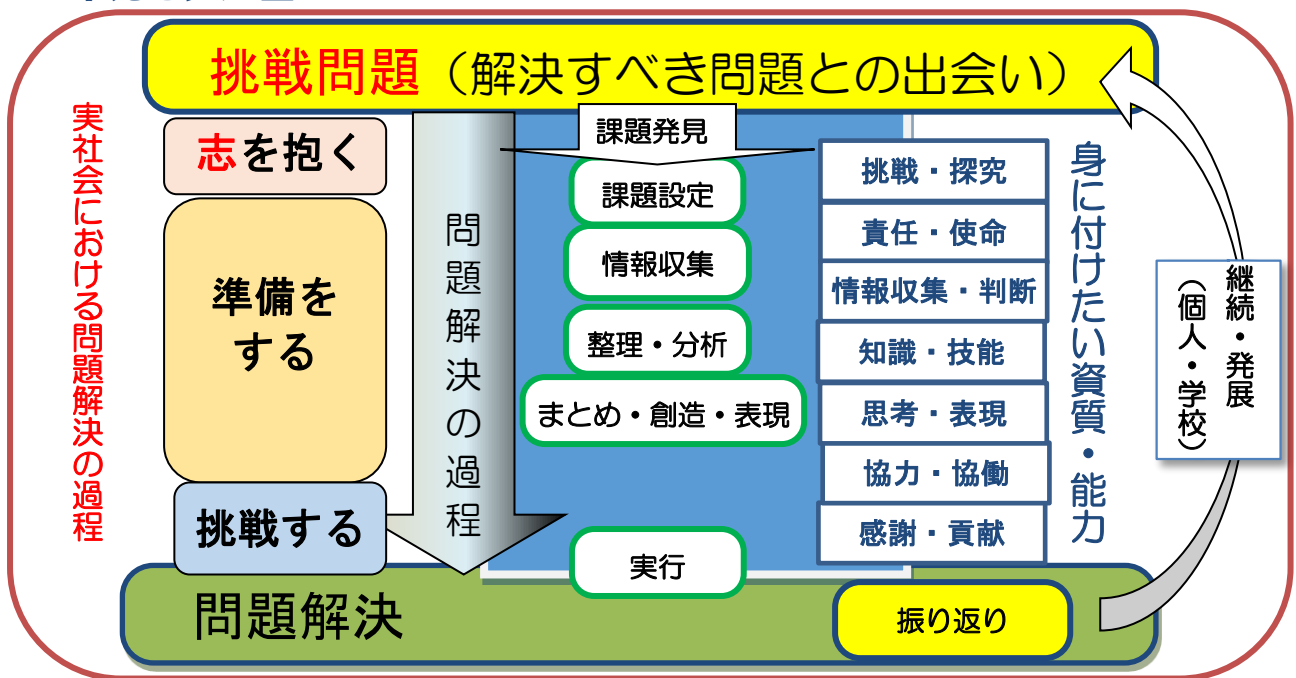
## (2) 総合的な学習の時間における課題発見・解決学習の単元づくり

### 広南中学校の総合的な学習の時間の目標

生き方について広く深く視野を広げるとともに、故里を知り、つながり、貢献する生き方と方策を協働的・創造的に探究する活動を通して、課題解決の能力や資質を育成し、学び方や、ものの考え方を身に付け、主体的な自分の生き方を考えることができる。

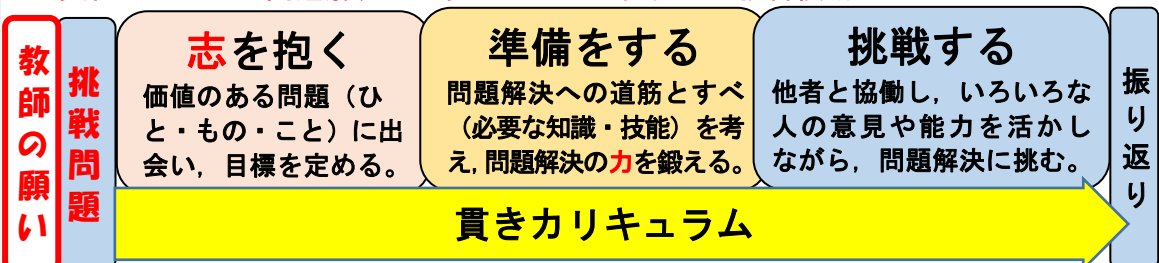
単元	生き方学習	ふるさと学習
目標	<b>不かく尋ね たかく志す</b> 広く深く視野を広げ、不を覆す高き志を胸に	<b>温故挑新</b> 故里を温め、新しきに挑戦しよう <地域との交流>

### 単元モデル図



### 取組の5つのポイント (H29)

- 1 **学びがいのある挑戦問題の設定**  
 <生き方学習> 「不かく尋ね高く志す」  
 ・人間の生き方について広く深く視野を開くきっかけとなるもの  
 <ふるさと学習> 「温故挑新」(故里を温め、新しきに挑戦)  
 ・体験を通して故里に感謝の気持ち・貢献する喜びを育てることができるもの
- 2 **実社会における問題解決の過程を意識した総合的・教科横断的指導計画**



- 3 より深い継続的な取組にするための工夫  
 <生き方学習> 学んだことを実践していけるもの  
 <ふるさと学習> 学校の伝統として先輩の取組をベースに継続・発展していけるもの
- 4 ワークシートづくり  
 ・指導方法(問題解決の過程を踏まえた指導)の共有及び改善
- 5 評価の工夫  
 ・ポートフォリオ 広南学園の資質能力ルーブリックの活用

# 総合

ふるさと  
学習

## 「蚊が〇研究PROJECT season2」

**挑戦問題** 「蚊の被害を〇にする」

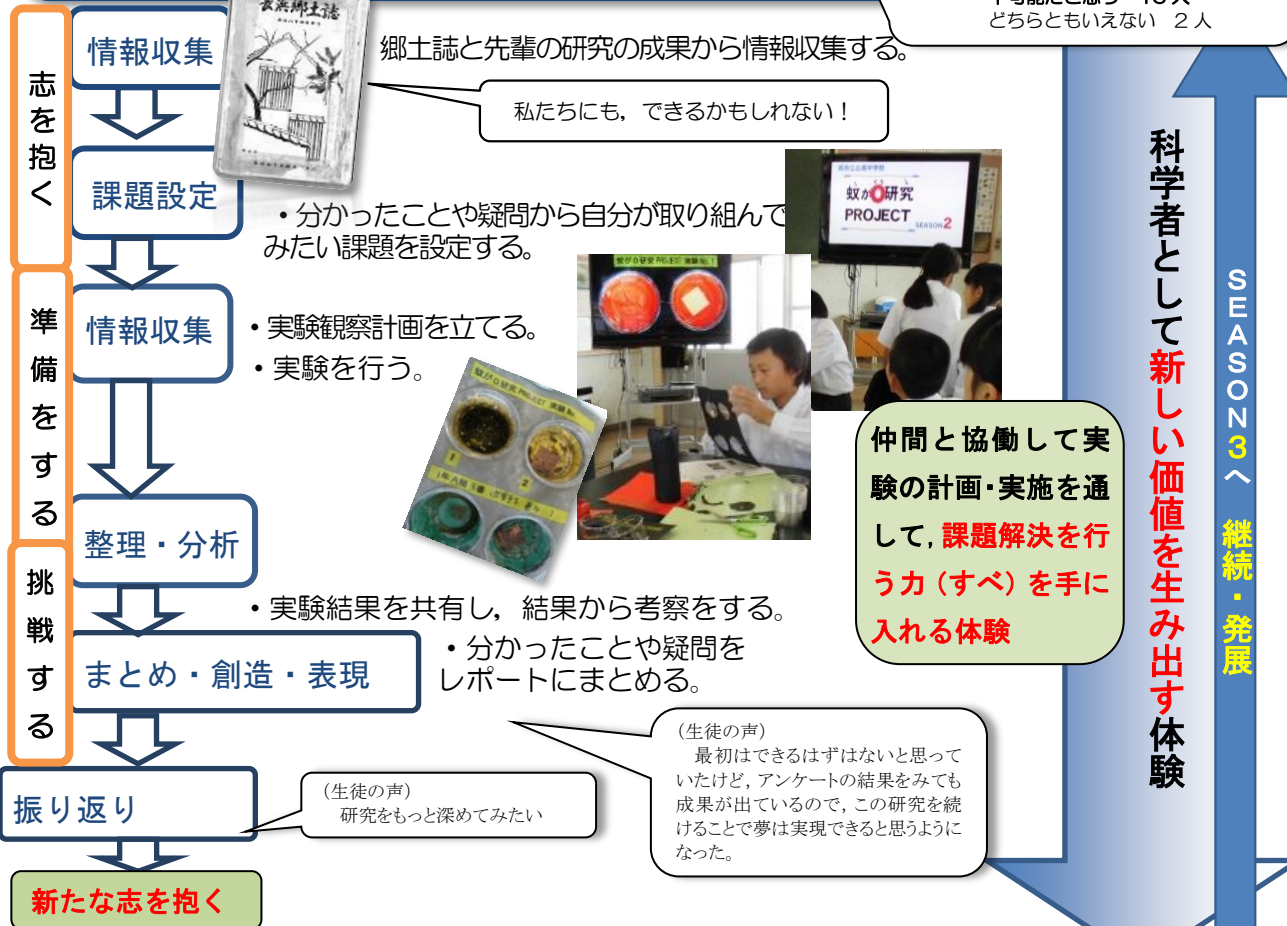
### 単元の目標

- ・地域の先人の取組を基盤とした学校の伝統的研究活動に関わる。
- ・先輩の研究成果をもとに、蚊の撲滅に向けての科学研究に協働的に関わる。
- ・郷土をより暮らしやすくするために自分が何をすべきか考え、挑戦しようとする。

## 挑戦問題 「蚊の被害を〇にする」

(生徒の声)  
「蚊の被害は〇にできると思いますか？」  
(予想) 可能だと思う 2人  
不可能だと思う 16人  
どちらともいえない 2人

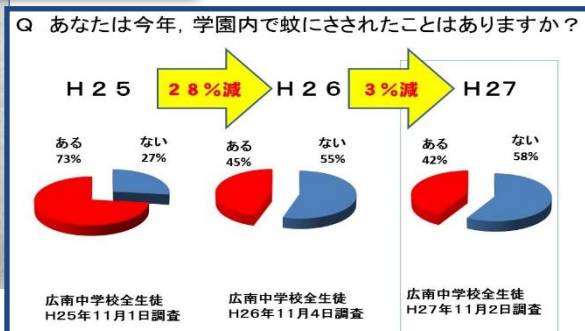
SEASON 3へ 継続・発展  
科学者として新しい価値を生み出す体験



実行(有志で科学部として地域の方と協働して研究を深める)

問題解決へ向けて一歩前進する

振り返り



# 「伝統文化を受け継ごう」落語に挑戦！

**挑戦問題** 「たくさんの人を笑顔にできる新しい自分づくりに挑戦しよう！」

実社会における横断的・総合的な問題解決の過程（志+力→挑戦）

## 志を抱く

価値のある問題（ひと・もの・こと）に出会い、目標を定める

## 準備をする

問題解決への道筋とすべ（必要な知識・技能）を考え、問題解決の力を鍛える。

## 挑戦する

他者と協働し、いろいろな人の意見や能力を生かし、絆を深めていく中で、問題解決に挑む。

## 振り返り

成果と課題を踏まえ、新たな志を抱く

## 単元目標

「人を楽しませることのできる新しい自分づくり」という問題解決へ向けて古典芸能（落語）の習得に協働的に取り組み、出前落語等で地域の方に楽しんでもらえる貢献活動に挑戦することを通して、地域に貢献する志と問題解決能力の資質・能力を高める。

### 挑戦問題の提示

## たくさんの人を笑顔にできる新しい自分づくりに挑戦しよう！

### STEP 1 「落語の魅力を知ろう！」

落語は一人でする芸なので、自分の特技にできるのではないかなと思いました。練習して完成させるのがとても楽しみです。（生徒感想より）

衣笠さんは、銀行員時代から落語で社会貢献されていた。2年生の先輩もそれに習い、出前落語で地域貢献された。その伝統を引き継いで自分もがんばりたい。

### 課題発見

今の自分にはあんな表現力もないし、人前でたった一人で演じる度胸もない。

### 課題の設定

落語の表現の技を学び、表情豊かに相手を楽しませることのできる表現力を身に付ける。

## 準備をする

課題の設定

情報収集

整理・分析

### STEP 2 「落語の技を学ぼう！」

### 他教科との関連

国語科における古典の世界や古典作品についての学び

教えてもらうのではなく「技を盗む」という気持ちで情報収集していこう

### STEP 3 「落語の技を磨きあおう！」

### 知識・技能

### 情報収集・判断

彼のように視線を大切にすると確かにちがった人間がしゃべっているように伝わる。僕も取り入れてみよう。

### 思考・表現

どうしたら、ソバをますように食べているようすが伝わるだろう？

### 協力・協働

僕の落語を見ていて気付いたことを教えて！

表情が硬いよ。もっと表情を豊かに！

### まとめ・創造・表現Ⅰ

広南劇場落語発表者選考会





挑戦する振り返り

まとめ・創造・表現Ⅱ

STEP 4 「落語の学びを生かして広南劇場で貢献しよう！」

落語発表者

幕間発表者

さらに技をきわめて、クラスの代表として頑張るぞ。

協力・協働

落語で身につけた力を活用して幕間の出し物や応援の工夫をして会場をあたためるぞ。



いよっ！  
広南亭こたつ！



実行

一芸グループ

ダンスグループ

手品グループ

STEP 5 「出前落語に挑戦しよう！」

小学生は楽しいと思うポイントがちがう。不思議だ。

地域のおいちゃん、おばあちゃんに笑ってもらい、長生きしてもらおうぞ！

呉市中の人を楽しませるぞ！



小学校全学級へ

感謝・貢献

ふれあいサロンへ

呉市文化ホールへ

小学校とのつながり

地域とのつながり

振り返り

この単元で身に付ける資質・能力ルーブリック

未来を創る

温故知新

不かく尋ねたかく志す

不かく尋ねたかく志す

学年教師による評価

自己評価

資質・能力及び態度	評価基準	評価
① 情報収集力	A 落語の細かい動作や話し方のコツも覚えることができた。 B 落語を覚えることができた。 C 落語の内容を理解することができた。	A
② 思考力・表現力	A 落語の技を自分のものにして、上手に演じることができた。 B 落語の技を取り入れて大きな声ではっきりと演じることができた。落語の技を理解することができた。	A
③ 挑戦心	A 落語を覚え、どうせなら文化ホールで演じてみたいと思う。 B 落語を覚え、人前で演じることにも挑戦したいと思う。 C 落語を頑張って覚えたいと思う。	B
④ 感謝・貢献	A 友だちだけでなく、先生や落語家からの助言を求め、よりよい落語にしようとしている。 B 友だちの演技を参考にしたり、アドバイスをし合うことで、よりよい落語に高めあおうとしている。 C 友だちと教え合うことで、落語を覚えようとしている。	A
⑤ 感謝・貢献	A 落語を通して、大勢の人を笑顔にできた。 B 落語を通して、大勢の人を笑顔にしようとした。 C 落語を通して、大勢の人を笑顔にしたいと思っている。	A
⑥ 責任感・使命感	A 落語の良さを大切にしようとしている。 B 落語の良さを大切にしていきたいと思っている。 C 落語の良さを理解している。	A

自分が成長したと思うところは、はずかしがらずに堂々と演じることができたということです。最初は落語をするのがはずかしくて、はずかしそうに落語をしていました。でも、練習をするうちにはずかしさも次第にとけてゆき、文化祭では堂々と落語を演じ、たくさんの地域の方々を笑わせることができました。

私は6つの資質・能力の中で「情報収集力」が不十分だったと思う。細かい動作の練習をしていたら良かったと反省した。次の課題は細かい練習をとおして自分の力にすることを頑張りたい。

私が課題だと思ったところは「思考力・表現力」です。今日、小学生の前で落語をやったときとても緊張して細かい動作を忘れてしまったので、少しだけ後悔しています。でも、終わったときの達成感はとても大きかったです。今までにないような感じでした。

「協働的な態度」も身についたと思います。落語はグループに分かれてやりました。同じグループの友達も何かを間違えていたら教えてあげ、逆に私がもし間違えていたら友達に教えてもらいました。もし私が1から10まで全部やるとしたら無理だと思います。先生や友達、ジャンボさん、水龍さんがいてくれたからこそできたことなので感謝しています。また、一人でやるのではなく、グループで助け合いながらやると良いということが分かりました。

本番を演じて感じたことは、落語を聞いてもらう人の年齢によって笑うところが違うということです。中学校で披露したときに爆笑だったところがおじいちゃん、おばあちゃん方には反応がよくありませんでした。逆に中学生の人では笑わないところを大笑いしてくれたり、拍手をしたりしてくれました。

(生徒の「自己評価」及び「振り返り」より)

成果と課題

生徒の「自己評価」および「振り返り」例

Q: 「はなれいさ」は、何の意味があるんだろう？最初は思...  
文化祭で落語をやる。落語は人を笑顔にさせる。という意味があること...  
を通して、自分の落語は日本の伝統なので、これを大事にしたい。  
日本の伝統の良さをしっかりと理解できたといい。堂々と演じることができた。

「資質・能力」の姿容

	知識 技能	挑戦 探究	情報収集 判断	思考 表現	協力 協働	感謝 貢献	責任 使命
広南小 (小6時)	+21	+11	+28	+12	+17	-	+22
広南中 (中1時)	+18	+27	+46	+38	+25	+29	+22

(単位: ポイント)

「基礎・基本」定着状況調査および全国学力・学習状況調査の児童・生徒の学習生活アンケートの項目を活用し県平均および全国平均との差で姿容を見取った。ただし「感謝・貢献」の指標はH27全国学力・学習状況調査(小学校)に無いので非表示である。



今回、みなさんは、これまでに習った知識を活用して、ほんの少しこのマロンストーンの謎を解明しました。残った謎は中学校に行き解明してください

小学校から中学校へつなぐ(学校段階間接続型)

さて、なぜ聖徳太子がさしがねを持っているのでしょうか？

教科横断型

この挑戦問題は技術の時間で解決してください



技術科へつなぐ

## 貫きカリキュラム

貫くことで学びが深まり広がる

英語落語に挑戦！



英語(中1)

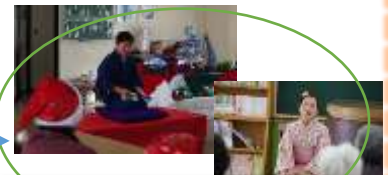


くれしん笑芸会(地域行事)



総合的な学習の時間(中1)

自治会お花見会(地域行事)



ふれあいサロン(地域行事)



広南劇場(学校行事)



教科横断・実社会接続型

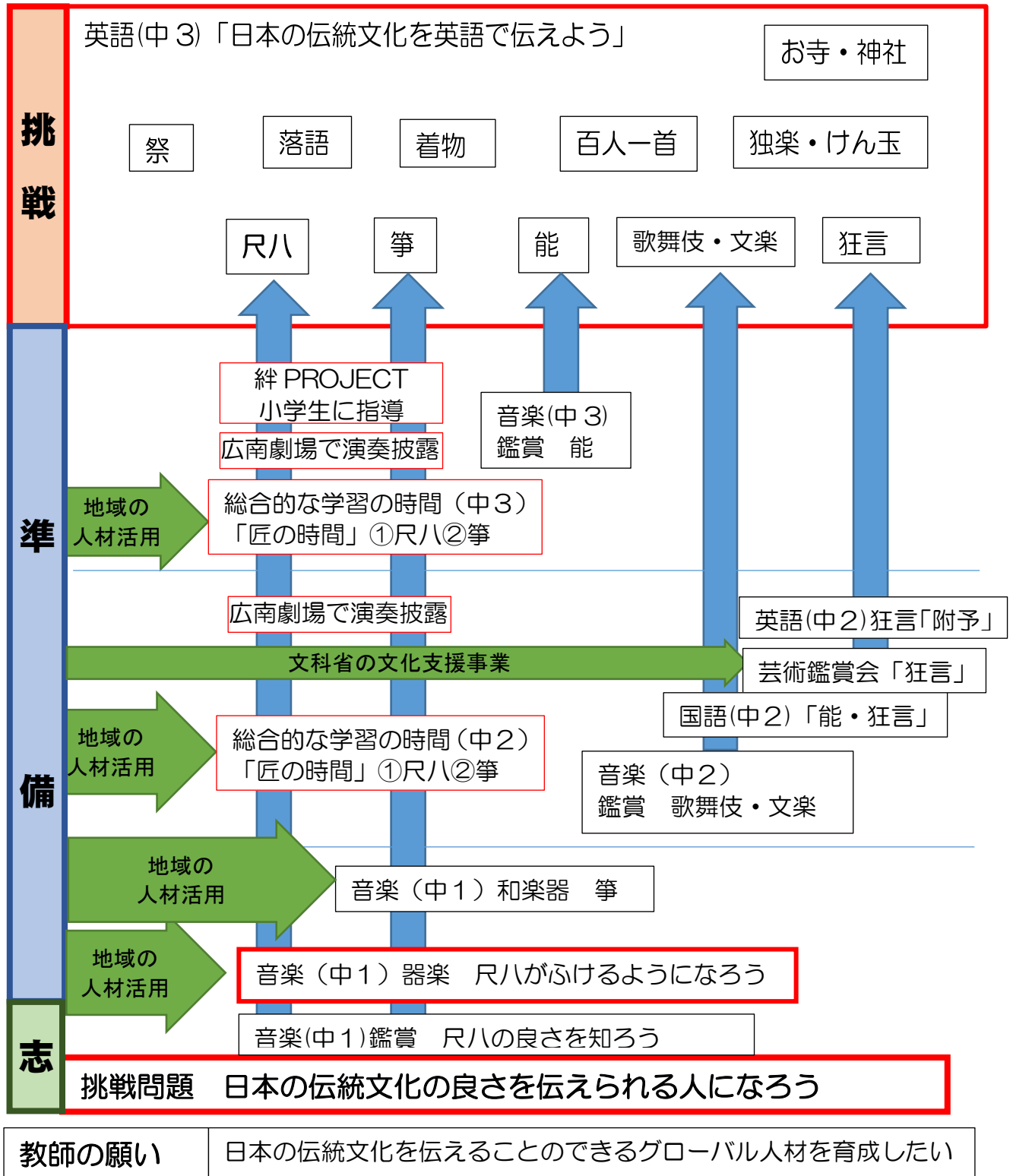


小学校(学活)

### (3) 貫きカリキュラム

事例 1 教科横断型  
(音楽+総合的な学習の時間+英語)

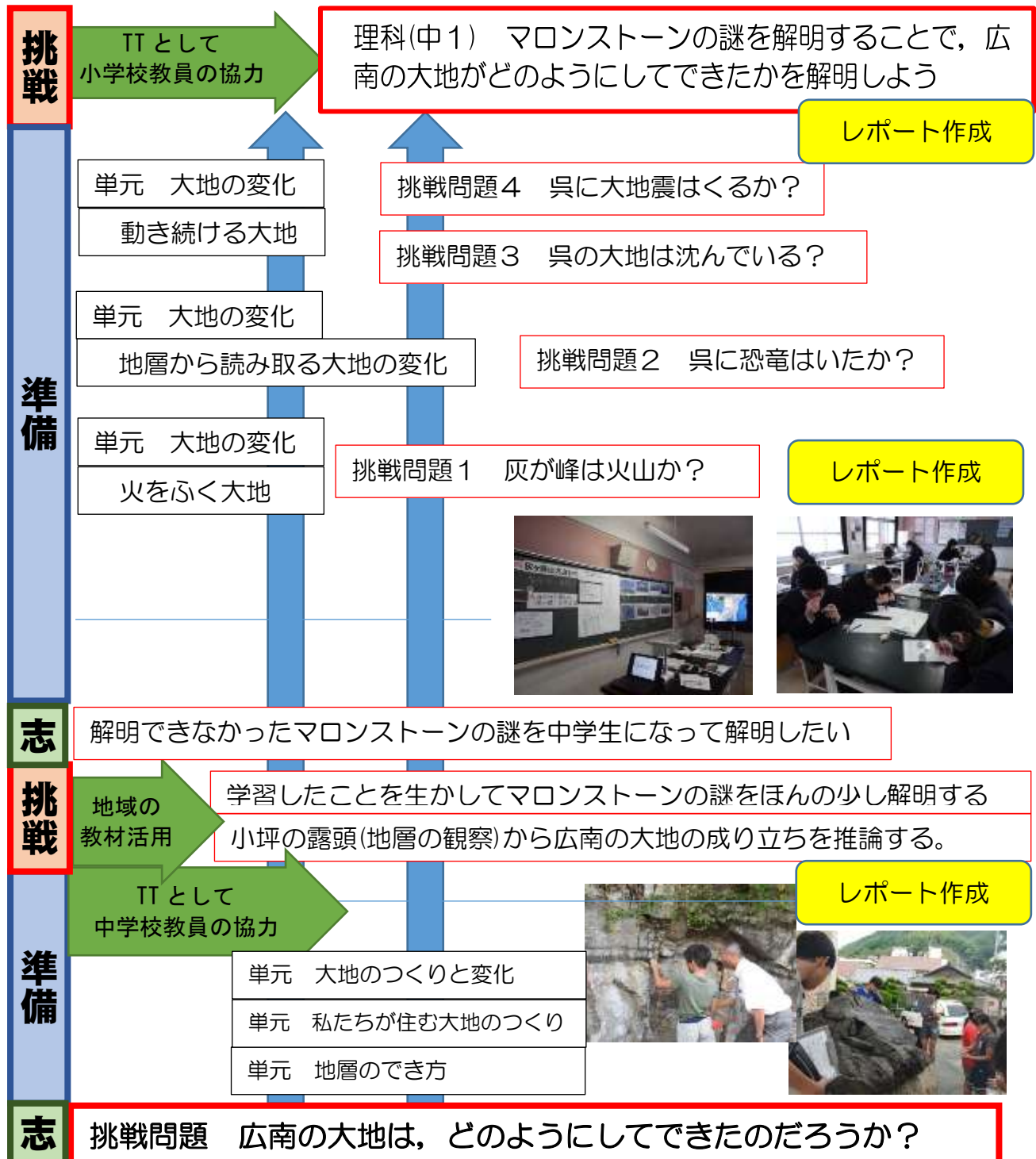
挑戦問題「日本の伝統文化を伝えられる人になろう！」で抱いた志を叶えるために、文科省の文化事業や地域の人材を活用し、多様な日本の伝統文化の良さに出会い、尺八や事などの演奏に習熟する学びの機会を実現することを通して、外国の人に自信を持って紹介できるカリキュラムにマネジメントした。



### (3) 貫きカリキュラム

#### 事例2 単元接続・学校段階間接続型 (理科(小6)+理科(中1))

小学校6年生時に挑戦問題「マロンストーンの謎を解こう！」で抱いた志を叶えるための準備として小中学校の単元を繋ぐことを通して、問題解決に必要な知識や技能をひとつひとつ習得し、推論に活用する力を得て、問題解決を図っていく探究活動をマネジメントした。



教師の願い 郷土の地質学的な歴史を探究していく学びがいを知ってほしい

### (3) 貫きカリキュラム

事例3 教科横断・学校段階間接続型  
(防災教育 小1～中3)

呉市は、過去に土砂災害や洪水、高潮災害によって甚大な被害が多く発生している。いつ起こるかもしれない自然災害についての正しい知識や防災、減災のための実践力は、一朝一夕には身に付かない。そこで、防災、減災というテーマについて小中9年間を通して探究していくカリキュラムをマネジメントした。

#### 挑戦

理科(中3) 自然災害での被害を減らすためには、どうすれば良いだろうか？

#### 準備

地域の教材活用

理科(中3) 自然の恵みと災害

技術家庭科 災害への備え

理科(中2) 日本の気象

保健(中2) 応急手当

理科(中2) 天気の変化

保健(中2) 自然災害による傷害の防止

社会(中2) 自然災害と防災への取組

保健(中2) 自然災害による危険

社会(中1) 世界から見た日本の自然のすがた

レポート作成

#### 志

挑戦問題 自然災害による被害を減らすためには、中学生の自分たちには、何ができるだろうか。

#### 挑戦

地域の教材活用

地域合同防災訓練で学んだことを生かそう

#### 準備

地域の教材活用

社会(小6) わたしたちの生活と政治

道徳(小6) うちら“ネコの手”ボランティア

理科(小5) 天気の変化

体育(小5・6) 水泳(着衣泳)

理科(小5) 流れ水のはたらき

総合(小5) 広南地区の防災対策について考えよう

社会(小5) 自然災害を防ぐ

保健(小5) けがの手当

地域の教材活用

社会(小4) 防災センター見学

体育(小3・4) 浮く・泳ぐ運動

社会(小3) 呉市のようす(ハザードマップ)

石泉文庫 防災訓練

生活(小2) まちたんけんに行こう

体育(小1・2) 水遊び

生活(小1) 通学路を歩こう

#### 志

挑戦問題 自然災害や防災について知ろう。

#### 教師の願い

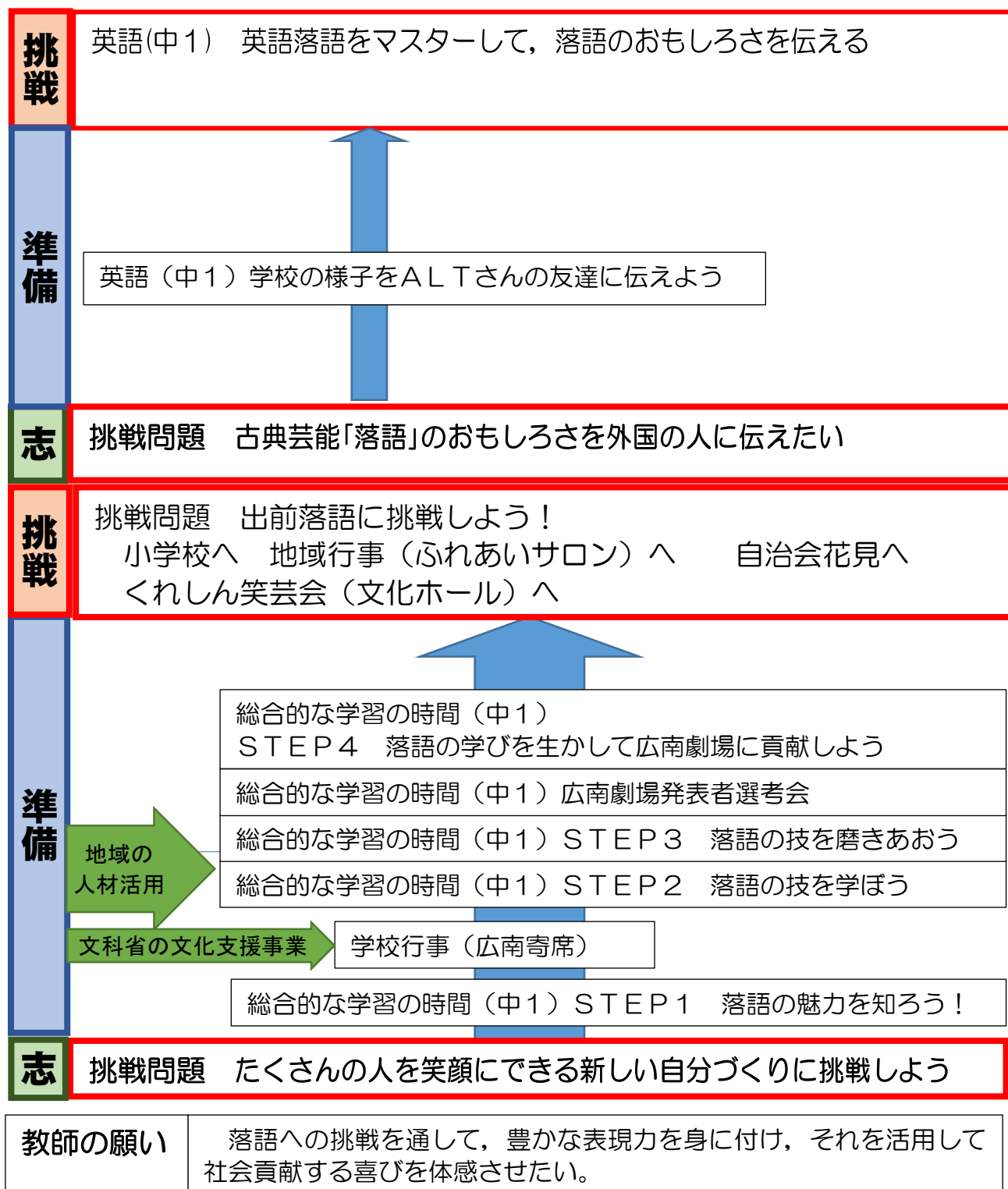
自然災害における正しい知識を身に付けさせ、自分の命は自分で守る力を育てたい。

「呉市防災教育のための手引き」より抜粋

### (3) 貫きカリキュラム

事例4 教科横断・社会接続型  
(総合的な学習の時間を出発点に(中1))

成長とは努力して新しい自分をつくることである。日本の古典芸能である落語を習得し、自分の表現力を鍛え、落語の面白さを伝えることのできる新しい自分づくりに挑戦させたい。そして、実際に出前落語を行うことで社会に貢献し、達成感を得ると共に、地域貢献できる喜びを生徒が感じるようなカリキュラムをマネジメントした。



選抜 I ・呉高专特別推薦合格

トリプル3（検定試験3種3級以上）達成者H28年度4名

検定試験挑戦者のべ人数  
H28年度76名（全校生徒65名）

自主学習



くれしん爆笑芸会出演  
（呉市文化ホールH29.1.14）



科学研究 県科学賞・学校賞  
全国学生科学賞入選1等（H28）

総合的な学習の時間（中）

## S ルーブリック

達成目標の上にあるさらに「上質な学び」のイメージや「資質・能力の価値」を共有することで、教師も、児童・生徒も高い志を抱くことが期待できる



五色百人一首広島県大会  
橙の部 優勝（H28）

広南学園「百人一首大会」



統計コンクール「広島県知事賞」  
「学校賞」（H28）

総合的な学習の時間（小）

教師や学校は、子供たちに上質イメージを持たせることや、子供たち自身が上質イメージを持つことができるように、日々の教育活動の中で子供たちと真剣に向き合い「～って面白い」「～ができるようになるとこんなに良いことがある」「自分でも努力すればできるようになる」ということを体感させ、それを認める。こういった経験を積み重ねることにより、子供たちは自信を回復し、「こうなりたい」「こうありたい」とさらに上質なイメージをもつことができる。（「広島県教育資料より」）

## (4) S ルーブリック

### 資質・能力のルーブリックの活用例 1

資格・検定への挑戦

知識・技能

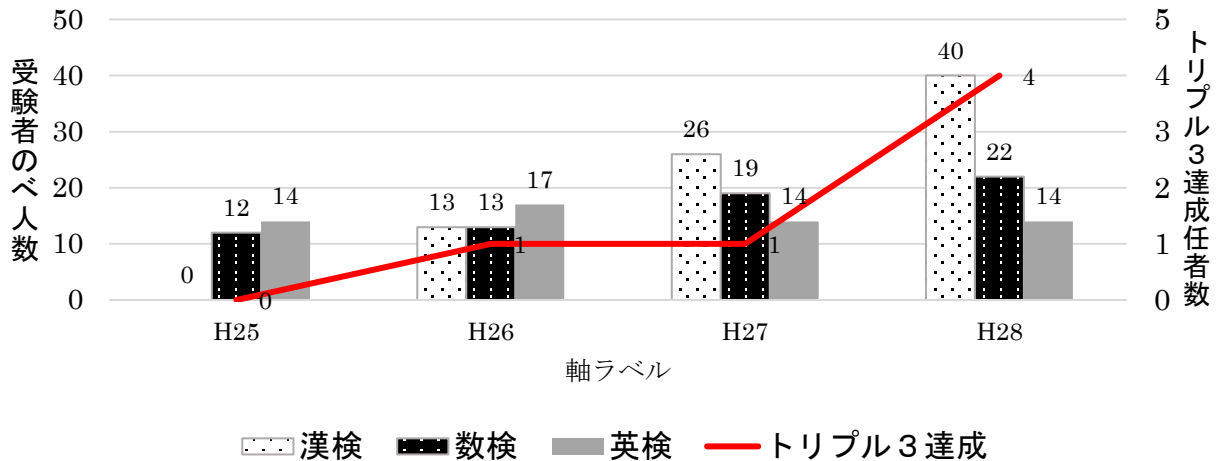
挑戦・探究

(ねらい) 実社会において、資格を持つことは、重要なキャリアアップの手段となる。また、資格習得に向けての挑戦心や主体的な学びを育てる機会となる。

そこで、本学園では、トリプル3（3教科で3級合格）を目標として、その資格習得への意欲付けと機会の提供を継続するとともに、達成者には、卒業式の前日に特別表彰を行っている。

その結果、下のグラフのように、検定試験の受験者は年々増加し、特に中学一年生からの受験者数が増えてきている。そしてトリプル3達成者は、平成25年度は0名だったものが、平成26年度1名、平成27年度1名、平成28年度は4名も達成し、そのことを自信に高校入試に臨むことができた。今年度は、資格検定においてもS評価を活用し、資格習得へ積極的に挑戦する校風を小学生高学年にも広げていきたい。

検定試験年間挑戦者のべ人数の推移（中学校全学年）



注) H25年度は漢字検定挑戦者0だったため模擬試験を行い、その結果で実際は4名を達成者として表彰を行った。H27年度は、理科検定を自主的に挑戦した生徒がいたが、このグラフにカウントからは削除している。また塾等で個人的な受験者数はカウントしていない。

資格習得への挑戦ルーブリック（中学生用）	
S	英検・数検・漢字検定など3級以上の資格を3つ習得した。（トリプル3）
A	資格を今年もひとつ以上習得することができた。
B	資格検定試験に今年もひとつは挑戦した。
C	資格の習得数はまだ0である。

資格習得への挑戦ルーブリック（小学校高学年用）	
S	英検・数検・漢字検定など6級以上の資格を3つ習得した。（トリプル5）
A	資格を今年もひとつ以上習得することができた。
B	資格検定試験に今年もひとつは挑戦した。
C	資格の習得数はまだ0である。



## (4) S ルーブリック

資質・能力のルーブリックの活用例2  
数学 全領域 **挑戦・探究** **感謝・貢献**

(ねらい)

数学という教科の学びがいは、身近なところで役に立つという実感を与えることも大切であるが、一方で、先人が切り開いてきた学問を学び、それを受け継ぎ、発展させることに貢献するという学問の持つ本質的な喜びも味わわせたいと考えている。

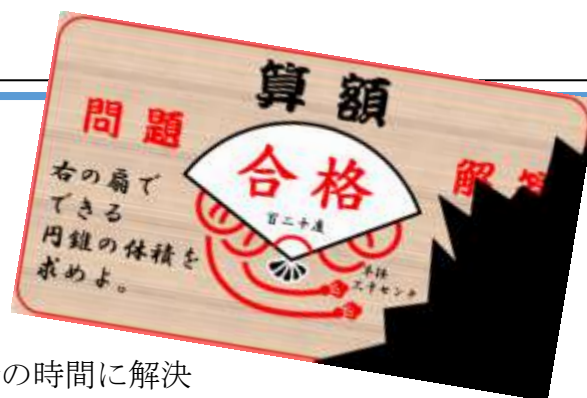
古来、日本では、先人が積み上げてきた知識・技能に対し、感謝するとともに、そこから、学んだことをもとに、新しい良い問題を創ることができた時、その感謝と喜びを「算額」という形で神仏に捧げる伝統があった。この伝統を再生し、中学校第3学年に生徒にも、これまで学んだ知識や技能を活用し、新しい価値をもつ問題をつくることに挑戦させることに取り組んでみた。

この意識付けに「感謝・貢献」の資質能力のSを活用して目標設定を行った。

この挑戦問題には多くの生徒が真剣にまた楽しんで取り組む姿が見られた。今後は、このことを他の領域にも広げていきたいと考えている。

### 三平方の定理 挑戦問題

- ① 問題を解いて算額を修復しよう！
- ② オリジナル算額を作ろう！  
感謝と決意を形にしよう！
- ③ 聖徳太子の掛図の謎を解こう！ → 技術の時間に解決



### 「三平方の定理」を学ぶことによってめざす姿は…

S

感謝と決意の心を持って算額を修復し、みんなが意欲的に取り組めるようなオリジナル算額を作成し、数学を通してみんなとの絆を深めることができる！

A

感謝と決意の心を持って算額を修復し、オリジナル算額を作成することができる！

学習を進める過程で、NPO 和算主催の「算額をつくろうコンクール」入賞作品を時折紹介しながら、問題作成への意欲を高めていった。その成果か問題作成の際には「こんな問題を作りたい。」という思いを持って取り組めた生徒も多かった。

「三平方の定理」は義務教育9年間で最後に学ぶ図形領域の単元である。数学が苦手な生徒もこれまで9年間で学んだ図形の様々な内容を組み合わせ、仲間と協働し、楽しみながら問題を作成することができた。作成した問題をお互いに確認し合う場面では「この解き方でもできるよ。」「この方がもっと面白くなるね。」など高め合ったり深め合ったりする様子も見られた。最終的に出来上がった作品を掲示

し、相互評価を行った際、どの作品も仲間から「解いてみたい」「面白そう」という評価をもらい「問題を作ってよかった。」「もっと作りたい。」という感想がみられた。

また、出来上がった算額に後輩へのメッセージも書いた。このことで算額を残すことで自分たちが広南中学校の数学に貢献することができたという誇らしい思いを持つことができた。



班で協働して算額を修復する様子



協働して問題作成に取り組む様子



完成した算額の例



掲示された算額を見て盛り上がる様子

### <生徒の振り返りより>

- ・僕はみんなと協働して作りあげることができた。みんなと一緒に問題を解けたのでよかった。みんなの問題を見て興味がわいてきた。オリジナルの問題ができたのがすごく楽しかったしうれしかった。
- ・算額づくりでみんなの問題を解いてみたいなと思いました。一人で考えるのではなく、みんなで考えることによって良い問題を作ることができたと思いました。後輩にも解いてほしい問題がたくさんあるので是非チャレンジしてほしいです。
- ・単元の最初は算額なんか作れないと思っていたけれど、最初の問題から改良を重ねて、自分の中ではとても満足できる問題を作ることができました。この問題が役立ってくれたら本望です。
- ・算額を工夫して作ることができました。友達の作った問題を考えたり、自分の問題を解説したり、みんなで共有することができました。
- ・最初、算額を作るのがすごく嫌でした。いつも良いアイデアが出ず、センスもないし、数学が苦手だからです。でもみんなから良い問題だ、解きたいと言ってもらえてすごくうれしかったし、算額を作ってよかったと思いました。

## (4) S ルーブリック

### 資質・能力のルーブリックの活用例3 感謝・貢献 総合的な学習の時間（中学校1年生「和菓子体験」）

（ねらい） 呉市教育委員会の企画で「和菓子体験」が実現することとなった。ゲストティーチャーを迎えての授業では、生徒も、教師もややもすると受け身になりやすい。授業そのものに対しては「情報収集・判断力」の資質・能力を鍛える場としての目標を示す必要があるが、ゲストティーチャーとの一期一会ともいえる場では、「感謝・貢献」の資質・能力を育てる場としても重要である。この場合、「感謝・貢献」の価値に気づかせるために、授業の導入場面で、次のようなSの目標設定を試みてみ

（教師）今日は、呉市で有名な和菓子のお店「博美屋」さんが、みなさんに日本の誇る伝統文化「和菓子」をつくる体験をさせていただきます。今日の授業のめあては何にしたらいいと思いますか？

（生徒1）「はい、和菓子を一生涯つくって、おいしく食べるのだと思います」（笑）



（教師）なるほど、しかし、それでは、評価はBですね。ところで、なぜ「和菓子」というのでしょうか。それに対して「洋菓子」ということばがありますね。この2つの違いはなんでしょう。今日は、ぜひ、そのことを頭において、「和菓子の良さってなんだろう？」を考えながら体験してください。今日のめあては、「日本の伝統文化である和菓子のすばらしさを発見する」です。資質・能力で言えば情報収集・判断力になりますね。したがって、授業の終わりに「日本の伝統文化のひとつである和菓子の良さは〇〇であることを発見した。」それが書いていけば評価はAです。ちなみに「おいしかった」だけしか書けなかった人はCです（笑）

（教師）けれども、みなさんには、Sをめざしてほしいと思います。何ができればSだと思いますか？

（生徒2）「はい、和菓子の良さをひとつではなく、たくさん発見することだと思います。」

（教師）そうですね。情報収集・判断力でいえばそうですね。けれども、今日はわざわざ、博美屋さんは、こうしてボランティアでみなさんのために貴重な時間をさいてきてくださっています。その気持ちにどう応えますか？

（生徒3）「はい、感謝の気持ちをもって、一生涯教わることが大切だと思います。」

（教師）「そうですね。それは教わる側のみなさんの使命でもありますね。「わざわざ、今日、みなさんに教えに来てよかった」と思っていたらAですね。そして、みなさんは来年、先輩のように起業企画に取組まなければなりませんね。「こんなすばらしい生徒達なら、ぜひ、協力したいと思います」というだけでたらSですね。（笑）ひよっとしたらみなさんならできるかもしれない。ぜひ、それを目標に、よい学びの時間を過ごしてください。」

## 授業後の生徒の振り返り

- ・和菓子作りを初めて体験してみて、講師の先生が作っているのを見ると、難しそうに思わなかったけど、実際にやってみるとすごく難しかった。技術があるのはすごいと思いました。日本の文化を肌で味わえてとてもよかったです。
- ・良いものを作るための作業の大切が分かりました。素材からこだわっておられて、私のいろんな活動にこだわりを持ってやりたいと思いました。呉にこんなにすごい技術があったなんてとても驚いた。
- ・職人さんが作るの簡単そうに見えたけど、実際やってみると、量の配分、形を整えるなどとても難しかったです。職人さんの技も見せていただきました。はさみで形を作っているものはさすがという感じでした。これからはもらったりするときは形をじっくり見てみたいと思いました。
- ・和菓子は人を笑顔にしたいと思います。持って帰って、お母さんがすごく興奮して嬉しそうな顔になりました。見た目も味も人を笑顔にできるからすごいと思いました。
- ・きれいに作るために1つずつ丁寧にすることと素手でさわるからいつも手をきれいにしておくことが大切だと分かりました。もっと技術や伝統を大切にしていけないと思いました。
- ・私は呉市の素晴らしい技術をもっと知り、広めていき、自分自身もすごい技術を持ちたいと思うようになりました。



授業後に、博美屋さんから「ほんとうにいい子供達ですね。文化発表会などで、ぜひ協力できることがあったら言ってください」と言っていただけた。このことを生徒に伝えると、生徒もたいへん喜んでいました。事後指導として、お礼の手紙を書き、改めて感謝の気持ちを伝える取組を行った。

「感謝・貢献」の資質・能力のS評価では「感謝・貢献を積み重ねて絆をつくる」ことが評価基準になっているが、まさに、その価値を実感することができた。ぜひ、この取組みを、来年度の起業企画につなげたいと考えている。



## (4) S ルーブリック

### 資質・能力のルーブリックの活用例4

合同理科（教え合い）

思考・表現

知識・技能

（ねらい） 昨年度の広島県「基礎・基本」定着状況調査（理科）の問題を2年生が解き、分からないところを3年生が教えるという取組を行った。2年生については、1年生の学習内容の定着（知識・技能）のために行い、3年生については、後輩に教える（思考・表現）という使命を与えるとともに、人に教えることでの確実な定着（知識・技能）を図ることを目的としている。また、2年生については、先輩から教えてもらったことで、感謝の気持ちを持たせ、来年は、自分たちが後輩に教えるという意識（貢献）を持たせたい。このように、それぞれに違った目的とルーブリックで合同授業を行った。

	3年生のルーブリック	思考・表現
S	図やグラフ、実験器具等を使ったり、質問に答えたり、2年生の理解度を把握しながら説明したりすることができた。	
A	図やグラフ、実験器具等を使って分かりやすく説明したり、質問に答えたりすることができた。	
B	図やグラフ、実験器具等を使って分かりやすく説明することができた。	
C	分かりやすく説明することができた。	

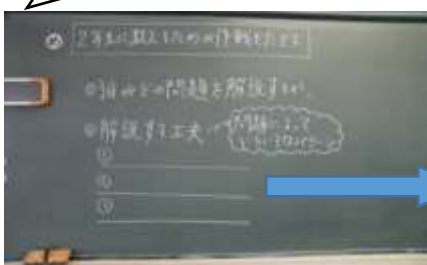
	2年生のルーブリック	知識・技能
S	すべての問題を人に説明できるくらい理解することができた。	
A	すべての問題を理解することができた。	
B	ほとんどの問題を理解することができた。	
C	1問は理解することができた。	

### 3年生の授業

（教師）今回は、2年生に勉強を教える挑戦をします。

（教師）説明の工夫にはどんなことがありますか？

（生徒）どうすれば分かりやすい説明になるかなあ。



生徒が考えた工夫

- ① 図をかきグラフ
- ② ものを見せる(実験など)
- ③ 別紙をよこにたとき



### 2・3年生の合同授業

めあて

- 3年 工夫して分かりやすく説明する。
- 2年 分からない問題が解けるようになる。（理解したふりはしないで質問する）

事前に準備していた方法で説明しています。簡単な実験もしました。



### 3年生の振り返りより

今日は2年生と合同授業をしました。2年生の解答を聞いてびっくりです。早く分かって、私も2年生の所まで説明してあげたと思います。その中で、先生に教えてくれた方法で説明することができました。先生の解答はとても印象に残っています。2年生にアドバイスを自分で探せることができて、とてもいい授業だと思います。

今日は、2年生と合同授業を行い、2年生が分からない問題や解けない問題も分かるまで、解けるようになるまで説明解き方を教えることが、実際に実験しながら説明すると2年生はよく分かってくれました。人に教えるのは少し難しかったけど、分かってくれた時は説明したがいがあったなと思います。楽しかったです。

昨日の5時間目の合同授業で、2年生が分からない問題を先生に質問して、先生が丁寧に説明してくれました。先生は、自分の経験や知識を、私に教えてくれました。先生は、とても優しく、丁寧に説明してくれました。先生は、とても優しく、丁寧に説明してくれました。先生は、とても優しく、丁寧に説明してくれました。

私は、今日2年生に合同授業の問題や、問題文が分からない問題や、2年生に説明して、2年生が分からない問題を、先生に説明して、先生が丁寧に説明してくれました。先生は、とても優しく、丁寧に説明してくれました。先生は、とても優しく、丁寧に説明してくれました。

### 2年生の感想（生活ノートより）

**今日の記録**  
 今日は、5時間目の理科で先生に家庭教師じやないで教えてくださいました。私がい分かるまで色々な方法で教えてくださいました。時間になり、できなかった問題を明日系にまとめてくれる、といわれて  
 5 6 7 8 9 10 11 0 min  
 P英語1+国1+アリス+ すごく優しくして  
 56漢字1+P89+PSL 先生は、とても優しく、丁寧に説明してくれました。

**今日の記録**  
 今日の5時間目で3年生と合同理科でした。先生は、とてもわかりやすくおしえてくれました。なので、わからなかったところもわかりました。また、3年生と合同理科でした。先生は、とても優しく、丁寧に説明してくれました。

本校は、1学年1学級で生徒数も20人程度と少ない。他学年との交流も普段の行事等でかなり多く、生徒同士の関係も良好である。その利を生かして今回の合同授業を行った。3年生にとっては後輩に教えるということで、同学年に教える以上に責任や使命感を感じながら準備を進めていた。筋道を立てて分かりやすく説明するだけでなく、図やグラフの工夫や実験も行いながら、どうすれば2年生が理解できるかを考えていた。また、Sレベルの説明については、先生たちは、生徒が理解したかどうかについて表情を見ながら進めているのだと伝え、これができたら「先生レベル」ということでS評価とした。数名の生徒はSをめざして準備を進めていた。2年生にとっては、3年生に1対1で教わることで、理解しやすかったし、3年生にとっても感謝していた。また、3年生になったら自分たちが後輩に教えたいという意欲を持つ生徒もいた。

# (4) S ルーブリック

資質・能力のルーブリックの活用例5  
 社会科 予習課題 **情報収集・判断**

(ねらい) 予習課題として、社会科では、情報収集・判断力を鍛える取組として、毎日の新聞を読み、興味をもった記事を切り抜き、それについてのコメントを記入した予習課題に順番に(生徒一人一月に2回程度)取組ませている。しかしながら、授業内容と必ずしもつながることが多く、生徒の作成したものを授業で十分に活用できていない。来年度は、それをストックし、授業で紹介したり、活用する場面をつくることで生徒に役立ち感を感じさせるようにしたい。



「菅首相が天皇陛下の生前退位についての法案提出を通常国会に予定している」というニュースを毎日新聞と中国新聞と比べてみました。ピンクの線は両方に共通して書かれていること、緑の線はその新聞にだけ書かれていないこと、青の線はこれを見ればどちらにも政府が法案提出の意思や方針を明らかにしたと判断できること、黄色の線は特別に注目すべき点であることを示しています。一方で、このニュースの大きな点として、朝日新聞では各党の立場についてそれぞれ表紙(朝日記者の考え)に入るスペース、天安門事件を確保していること、中国新聞では事実関係者の発言のみ書いていることが挙げられます。

( 3 ) 年 ( ■ ) 番 名前 ( ■ )

A

	予習課題のルーブリック(中学生3年用)	「情報収集・判断」
S	2種類の新新聞記事を切り抜き、比較して扱いの違いを発見することができる。	
A	新聞記事を切り抜き、その内容を正確に理解したコメントが書くことができる。	
B	新聞記事を切り抜き、簡単なコメントを書くことができる。	
C	予習課題を出すことができなかった。	

# (4) S ルーブリック


## 資質・能力のルーブリックの活用例6

社会科 復習課題 **情報収集・判断** **思考・表現**

(ねらい) 社会科では、自分で抱いた疑問に対し、仮説をたて、その仮説を検証するための調査を行い、仮説を検証する問題解決学習に取り組んでいる。授業時数の関係で、そのまとめの段階では復習課題として提出させる。来年度はSルーブリックを活用し、基準を明示することで、より生徒の意欲を高めると共に、回覧することで、お互いの良さを発見する機会を充実させたい。

地理ワークシート NO26

【世界のさまざまな地域の調査】

課題	なぜ日本とモンゴルの仲が良いのか。
仮説	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ずいぶん強い国だから、日本はモンゴルの外に、オファーする。</li> <li>○ モンゴルの日本は昔からの関係があるから。</li> <li>○ 宗教も同じで、植民地にならずに、日本と同じだから。</li> </ul>
調査内容	<p>～日本とモンゴルの関係～</p> <p>日本とモンゴルの歴史は、13世紀に起きた、<b>蒙古襲来</b>により、交流が始まった。両国は、<u>20世紀半まで正式な国交を結ぶことはなかった。</u></p> <p>～貿易～</p> <p>日本は、モンゴルのとて、中国・ロシア・アメリカ合衆国に次ぐ、<u>4番目の主要輸入相手国</u>となっている。<u>経済協力協定</u>は1977年に、貿易協定は1990年に、<u>投資保護協定</u>は2001年に結ばれたものの、日本企業の支店開設数は、2012年4月時点で0社、駐在出張所が<u>24社</u>と少ない。しかし投資をはじめとする経済協力を容易にするための、日本・モンゴル <u>経済連携協定 (EPA)</u> は、2016年6月12日に継続して明償された、2015年7月15日署名、2016年6月7日に、協定発効となった。</p> <p>～交流～</p> <p>2011年時点で在日モンゴル人は、約<u>400人</u>、在モンゴル人は<u>450人</u>となっている。文化面では、日本の<u>野球</u>とされる<u>相撲</u>分野において、元横綱の、<u>角青龍明徳</u>をはじめとして、<u>自薦翔</u>、<u>日馬富士</u>、<u>鶴巻</u>など、モンゴル人が<u>多数</u>活躍しています。</p> 
結論まとめ	<p>日本と、モンゴルの仲の良さは、<b>蒙古襲来</b>・<b>相撲</b>・<b>野球</b>は、モンゴルの、主要輸入相手国となっており、そこから、関係がある。</p> <p>☆貿易 ☆交流 ☆蒙古襲来</p>

2年A組 ( ) 番 名前 ( )

	復習課題のルーブリック (中学生用) 「情報収集・判断」 「思考・表現」
S	仮説の検証に必要な調査を行い、調査を根拠に誰もが納得する結論を導くことができる。
A	仮説の検証に必要な調査を行い、調査を根拠に自分なりの考えをまとめることができる。
B	仮説の検証に必要な調査を行うことができている。
C	仮説の検証に必要な調査を行うことができていない。



# (4) S ルーブリック

## 資質・能力のルーブリックの活用例7

音楽 復習課題 情報収集・判断

(ねらい) 復習課題として、授業で情報収集したことを、自分でまとめるパフォーマンス課題は、情報収集力・判断力をより一層向上させるとともに、楽曲を深く味わうための重要な基礎知識となる。作品を見ると、自分なりに工夫して作成していくことが伝わってくることから主体的な学びとなっていると考えられる。昨年度までは、A の中で、さらにすぐれた作品をA+と評価し、教室の後に掲示することで、他の生徒の目標とさせることをしてきた。今年度は、A+ではなく、Sと評価するとともに、Sの基準をしっかりと伝えることで、生徒の潜在的な資質・能力をさらに引き出していきたい。

能は音楽・舞踏・演劇の要素が  
つまっている、世界最高の歌舞劇です

### 能【羽衣】の魅力伝えよう!

能のはじまり…中国から伝わった芸能が「能」と「狂言」に分かれ、室町時代に観阿弥・世阿弥の父子によって基本的な能の形が作られた。

#### 能の基本情報

- ・能の舞台…舞台には背景がなく、「鏡板」と呼ばれる松の絵が描かれています。  
屋内でも屋根が川にたどり、小石がしきつめられており、これは昔、能は屋外でされたので、今の名残です。
- ・能では主人公のことを「シテ」といい、「シテ」の相手役のことを「ワキ」といいます。(脇役の由来はここからきています)  
「シテ」…現実離れした存在(神、幽霊など)。舞を舞う。「シテ」には神が宿るといわれ、たまりかたに「面」をつけ、  
「ワキ」…シテに問いかけ、話を引き出す。舞は舞わない。  
→見る角度によって表情が違う
- ・能で使われる楽器…能管、大鼓、小鼓、太鼓 →演奏する人「はやし」謡う「せせし」。

面をかけて演じるシテはとても大変です。面は目の部分にあり、穴が小さく、大変視野が狭いのです。更に、面は見る角度によって表情が違いため、微妙に角度を変えながら、感情を表現しなければいけません。逆に言うと、あお顔も動かしてはいけなりのです。それは、この「羽衣」でも同じこと。よく見ると、「ワキ」の漁師に比べ、「シテ」の天人は、ちゃんと頭を動かしています。これは、天人の絶妙な感情を表現するための、せむし。注目してみてください。



最後に…能の美しさとは、少ない動きで済ませることです。極限まで動きを少なくすることは、日本ならではの美しさなので、せむし能を見て日本の美に触れてみてください。

3A ( ) 番 名 前 ( )

A+

	復習 (パフォーマンス) 課題のルーブリック	「情報収集・判断」
S	能の基礎知識や歴史について視聴し、価値ある情報を判断し、工夫してまとめることができる。	
A	能の基礎知識や歴史について視聴し、価値ある情報を判断し、まとめることができる。	
B	能の基礎知識や歴史について視聴し、情報収集し、まとめることができる。	
C	能の基礎知識や歴史について視聴し、情報収集し、まとめることができない。	

# (4) S ルーブリック

## 資質・能力のルーブリックの活用例 8

音楽 復習課題 **思考・表現**

(ねらい) 復習課題として、授業での楽曲の鑑賞後のパフォーマンス課題は、思考力・表現力をより一層向上させるとともに、鑑賞分野での達成感を感じさせることができる。作品を見ると、なにより楽しんで作成していくことが伝わってくることから主体的な学びとなっていると考えられる。昨年度までは、Aの中で、さらにすぐれた作品をA+と評価し、教室の後に掲示することで、他の生徒の目標とさせることをしてきた。今年度は、A+ではなく、Sと評価するとともに、Sの基準をしっかりと伝えることで、生徒の**潜在的?**な資質・能力をさらに引き出していきたい。



	復習課題のルーブリック	「思考・表現」
S	管弦楽で表現される情景の音楽的要素の感受を基にして、スメタナの生き方や歴史的背景とつなげる等、工夫して楽曲の良さや美しさを表現できる。	
A	管弦楽で表現される情景の音楽的要素の感受を基にして、楽曲の良さや美しさを根拠をもって表現できる。	
B	管弦楽で表現される情景の音楽的要素の感受を基にして、楽曲の良さや美しさを表現できる。	
C	管弦楽で表現される情景の音楽的要素の感受を基にして、楽曲の良さや美しさを表現できない。	

## (4) S ルーブリック

資質・能力のルーブリックの活用例 9  
保健体育（持久走）の単元 **協力・協働**

（ねらい）持久走は、自分の目標ペースを設定し、粘り強く練習を重ねることで持久力を高めていくことがねらいであるが、生徒はややもすると、勝ち負けの方にこだわりがちである。体育科における競争は「手段」であって、競い合うことで、「お互いの力を引き出す」ことが目的である。生徒には、その見方・考え方を身に付けさせたいと考える。このことを意識させるために「協働」の資質・能力ルーブリックを活用することとした。Sの基準としては、特定のライバルを決めて高め合う関係をつくることとした。

### 協働的な態度

- ⑤ お互いライバルとして競いあうことでタイムを向上させることができた
- A いろいろな人の頑張りを励みに自分も頑張りが抜くことができた
  - B みんなが頑張るので最後まで自分も頑張ろうと思った
  - C 他の人といっしょにゆっくり走ればよいという誘惑に負けた

山へ走ったこともありましたが、私には [ ] さんというライバルがいます、持久走の時には負けていましたが、今回のシャトルランでは私の方が多く走れました。これは [ ] さんと一緒に成長できたからだと思います。そして、協働的に

また、ライバルがいることで「負けたくない」という気持ちが強くなっていくことができます。ライバルと競い合ったり、最後まで頑張れることで、タイムをのびることができたと思います。来年は絶対に、ベストタイムを出したいです。

持久走の単元のゴールに設定していた校内マラソン大会は雨のため、残念ながら中止となった。ほとんどの生徒が、お互いのライバルを見つけ、練習に熱心に取り組む、校内マラソン大会での勝負を楽しみにしていた。やむを得ず、シャトルランで最後の勝負を行うこととなったが、Sを意識させることで、自分自身のやる気を引き出し、休日でも山を走る自主練習をしたり、勝ち負けを悔しがることにより「ライバルをもつことでもに成長できた」という振り返りをみることができた。ルーブリックを提示することで「ともに成長する」という本来の「協働的な態度」の価値をあえて意識させることは有効であると考ええる。

## (5) 乗り入れ授業の価値

知る・つながる・貢献する

協力・協働

感謝・貢献

本学園では、「知る つながる 貢献する」を合い言葉に中学校の教職員は基本的に全員、小学校（特に中期）へ週1時間、特定の学級・教科へTT教諭として参加している。（音楽は専科として小3学年、小5学年を指導している）。「1学期は、お互いを知り合うことを目標に、2学期は、関係を深め、3学期には、どこかで貢献する場面をつくる」ゆるやかな目標です。ゆるやかな目標の中で、なによりの収穫は、教師通しの間に「つながり」が生まれることである。このことによって、乗り入れ授業場面以外でも、つながりの中で様々な場面で気軽に「貢献し合う」場面が生まれているところである。

乗り入れ授業の効果は、以下の教師達の声からもわかるが、基礎基本学習状況調査や全国学力テスト等に現れている中期・中後期の学力の伸びをささえている一因と考える。

### (小学校の教師の振り返りより)

- ・ 中学校の先生の専門性が高く、児童のやる気につながっていた。教師もとても勉強になっている。
- ・ 歴史など、児童にも分かりやすく話をしてくださり、児童も自分も興味深く聞くことができた。
- ・ 技術面について、個別に声をかけてくださり、児童も意欲的に取り組むことができた。
- ・ 英語では、ケリー先生と英会話で模範を示してくださり、児童の理解につながった。
- ・ 授業に向かう態度について、中学校目線で厳しく指導してくださり、6年生にとって効果的だった。
- ・ 体育科では、まず態度面の指導をしてくださったので助かった。
- ・ 時に厳しく指導して下さるので、よい姿を見せようと子どもたちも頑張ることができたと思います。
- ・ 国語科で学習をインタビュー形式を進めていく時に、モデリングを示してくださり学習のイメージを持たせることができました。
- ・ 今の学習が、中学校の学習につながっていることを話していただいたことで、子どもも「しっかり覚えておかなければ。」という言葉も聞こえてくるようになった。自分も小学校から中学校への系統性を意識することができた。
- ・ 児童の実態を知っていただくことで、指導や指導の仕方について連携を図ることができた。

### 中学校の先生方の「ソプラノリコーダー器楽発表会(小3)」への協力

お客さんがいると、子供は張り切るもの。ソプラノリコーダーの学習意欲を高めるため、ミニ発表会を企画。中学校の先生に招待状を持って行き、震えながら渡したり、取組みをすすめました。当日は、たくさんの小中学校の先生を前に、緊張しながらも、それぞれの役割を果たし、大きな達成感を得たようにみえました。中学校の先生が専科としてきていただくだけでなく、それをきっかけにこのような活躍の場ができたことに感謝です。



## (中学校の教師の振り返りより)

- ・指導が聞けない児童や低学力の児童を把握し、はじめは優しく近づき、話しかけてかかわりをつくった。
- ・小学生へ向けての声かけや対応についてどういう声かけがふさわしいかを考え実践するようになった。また、話し合いの話形や話し合い学習について発達段階に応じた仕掛けが必要だということを学びました。
- ・中学で学習する内容との関連が小学校の授業に出ることで分かった。
- ・小学校高学年の授業の進め方がわかった。
- ・担任の一貫した指導が大切。チームとしての取組。教室整備の大切さ。より丁寧な指導の大切さを感じた。
- ・中学生とは違う、教え方、伝え方の難しさに気づいた。繰り返し行うこと、中学生になるまでに、身に付けておいてほしい力など、小学生の段階がどれだけ大切な時期なのか改めて実感した。
- ・態度が悪かったり、私語をしたりしている児童に対しては、そばについて指導したり、学級全体に対して学習規律や児童の責任についての話をしたりした。また、低学力児童に対しては、個別に指導した。
- ・担任だけの指導では難しい児童の実態があるように思った。学習障害が疑われる児童は早い段階で一緒に考えていいと思う。
- ・小6の社会に参加させてもらっています。来年に向けて生徒の様子がよく分かった。
- ・小学校で学習する内容がわかり、中学校に繋げることができると思った。小学校の学習スタイルを取り入れたら大変だろうなと思いました。
- ・年齢に合わせてことばや説明を工夫することと中学校卒業までに身に付けさせたい力を、小学校の先生に授業を通して伝えていくことができると考えています。授業規律については中学校に合わせて5, 6年生では行うようにしている。

### 小学校の先生方の「8年生(中2) 起業企画への協力」

出資金の依頼に職員室にプレゼンに来た(かつての教え子である)生徒に、あえて、厳しい質問をいろいろとしてくださいませることで、甘く考えていた生徒達を本気に導いてくださいました。

#### <生徒の振り返りより>

小学校の先生に出資のお願いのプレゼンを行った時に、先生方から厳しい質問をされました。その質問のいくつかには答えられることができず、出直すことになりました。その時はとまどいしましたが、それもいざ社会に出ると実際に、このような厳しい質問はたくさんあり、それを乗り越えることが社長の自分の使命と考え、がんばりました。2回目は、きちんと質問に答えることができ、たくさんのお出資金をしていただくことができ、ほっとしました。何回かプレゼンや出資のお願いに行き、大きな声をこころがけていると、いつのまにか笑顔で自然と大きな声を出している自分に成長していました。この起業プロジェクトを通して私は、社会に出てとても役立つ経験をしたと思います。



## (6)地域の人材活用(中)

知る・つながる・貢献する

協力・協働

感謝・貢献

本校区においては、「蚊が0研究プロジェクト」でも言及したように、戦後、ハエや蚊が蔓延し不衛生であった長浜地区を、町民が協働し、お互いの知恵を振り絞って駆除し、その功績が認められ「厚生大臣賞」を受賞したという輝かしい歴史があり、学校教育に対しても協力的な町民の方が多い。また、「公務員ランナー」として著名で、ボストンマラソン優勝やミュンヘンオリンピック出場という輝かしい職歴を残した采谷義秋さんや、ジャズプレーヤーとして著名な坂田明さんを輩出した土地でもある。さらに、日本の伝統文化等においても、優れた能力や指導力を持つ人材も多く、教育的に大変恵まれた地域環境である。

### 1 地域の人材活用(中)

これまで、第2・3学年の「総合的な学習の時間」を活用して、日本の伝統文化の継承に主眼を置いた「日本文化講座」を開設してきたが、平成28年度は、その名称を「匠の時間」と改名し、「箏講座」、「尺八講座」、「書道講座」、「大和撫子(着物の着付け)講座」を開設し、地域の匠をゲストティチャーとして招き、各講座の知識・技能の習得を図った。さらに、その集大成として、「第5回広南劇場」で、演奏や展示を行うとともに、第3学年が小学校第5学年に「匠の技」を伝授するという「小中交流」を実施した。限られた時間の中で、いかに効果的に伝授できるかがポイントであったが、どの講座も中学3年生が手分けをし、児童一人ひとりに丁寧に優しく教え、音を出すのが難しい尺八も音が出たり、手がかかる着物の着付けもできたりするようになった。5年生の嬉しそうな顔と中学3年生の指導後の達成感に満ちた表情が大変印象的であった。



【大好評を博した初の箏と尺八の共演】 【受講者全員での書道パフォーマンス】 【采谷GTを招聘しての道徳授業】

また、道徳の時間においては、第2学年の「目標に向かう意志：『ランナー』」実施時に、上述した地元の著名なマラソンランナー采谷義秋さんを招聘し、輝かしい職歴の陰にあった挫折の日々を語っていただき、目標に向けて、困難に負けぬ強い意志を持つこと等、豊かな心の育成の一助となった。

### 2 成果と課題

- 学習指導要領にも謳われているように、グローバル人材の育成に向けては、まず、地域や我が国の伝統文化についての知識や理解が重要である。その意味で、地域の人材を活用し、日本の伝統文化の理解を図る取組は、郷土愛の育成や日本の伝統文化の継承に大いに意義ある企画・実践である。
- 本校の音楽科においては、第1学年で箏・尺八曲の鑑賞とともに器楽を取り入れ、実際に箏や尺八(塩ビ製)に触れる題材の設定を行ったり、国語科の書写の時間では行書まで習得したりする。それらの知識や技能を第2・3学年の「匠の時間」を活用し、より一層の習熟を図ることができ、「教科横断型課題解決学習」としても大きな意義がある。
- 「匠の時間」の集大成として、文化活動発表会での発表・展示を通して、地域への貢献心や自尊感情の高揚が図れる。さらに、「小中交流」において、小学生に「匠の技」を伝授する取組を通して知識・技能の定着や自己効力感の高揚が図れる。
- 昨年、講師の高齢化に伴い、「茶道講座」の閉講を余儀なくされた。同様に、長期的な展望において高齢化が進み、地域の人材確保が懸念される。

## 平成 28 年度「総合防災訓練・交通安全指導について」

### 1 防災訓練及び交通安全指導の必要性

本校は海に面しており、過去、台風による浸水により、校舎や体育館等の施設や教育資料等、甚大な被害を受けた。その時の様子を第17代 岡下印男校長が克明に撮影され、教職員の貴重な研修資料ともなっている。また、東日本大震災の生々しい記憶もまだ新しいところであるが、平成28年4月に熊本地震、10月に鳥取地震が発生し、南海トラフ地震の危惧も益々高まっているところである。一方、通勤道路として使用される長浜・小坪間の県道279号線は、本校舎と隣接し、自転車通学路である小坪から本校までの道路幅も狭いことから、常に交通事故が危惧されている。そのような中、生徒に防災や交通事故に対する意識の高揚と危険回避能力の育成を図ることが重要である。

### 2 平成28年度の取組について

#### ○「総合防災訓練～瞬時の判断が命を守る！～」開催

7月12日(火)に、呉市消防局東消防署 安浦出張所 葛原 朋幸消防司令補、木村 消防士、また、藤井同窓会副会長をお招きし、「総合防災訓練」を実施した。始めに、各学級で地震を想定した避難訓練を行った後、体育館で全校生徒が集合し、東日本大地震や阪神大震災、安芸灘地震の映像を視聴し、改めて地震の怖さやいざという時の対処方法を学んだ。次いで、2グループに分かれ、煙中体験・消火器の使用法、救急蘇生法とAEDの使用法、消防車や救急車の正しい呼び方等を学んだ。講話の中で、雑居ビル火災で、前日に講習を受け、煙の中を口を覆い、身を低くして避難し九死に一生を得た中学生の話や、今のようにAEDが普及していれば命が救われていたという我が子を亡くした母親の思いなど、身につまされる話もあり、改めて、自らの危険回避能力や人命救助の重要性について認識する貴重な講習会となった。



【地震を想定した避難訓練】



【暗い中での煙中体験】



【消火器の使用法と消化体験】



【心肺蘇生とAED使用実習】

#### ○知っておこう！自転車の危なさを！「自転車安全教室」開催

通勤道路として使用される長浜・小坪間の県道279号線は、本校舎と隣接し、小坪から本校までの道路幅も狭いことから県に改善要請を行うとともに、地域の方からも多大な尽力をいただき、この5月に長浜・小坪間の一部の道路溝のグレーチング設置工事が行われた。一方、生徒の登下校の安全確保については、毎月3回、自治会長を中心とした交通安全指導員、保護者の方、教職員で、生徒たちの安全確保に向けて、交通安全指導を行っている。さらに、生徒の交通安全に対する意識の高揚と危険回避能力の育成に向けて、5月18日(水)の13時30分より、本校の校庭において、広島県警主導・JA共済の支援により、スタントマンを使った本格的な「自転車安全教室」を開催した。



【スタントマンを使っての生々しい自転車事故のシミュレーション】

「事後の第1学年生活ノートより」**「5時間目、スタントマンが来て、交通安全について教えていただきました。本当に起こった事故を再現していました。トラックの後輪には気を付けたいです。」**、「**自転車を買ってもらいました。スタントマンのようにならないように気をつけて乗りたいです。」**

### 3 成果と課題

○「総合防災訓練」においては、貴重な「煙中体験」や「消火器の使用法と消化体験」、「119番通報の仕方」や身につまされる映像や講話もあり、生徒の防災意識の高揚に極めて有効であった。また、スタントマンを使った交通事故の疑似体験を含む「自転車安全教室」においても、改めて交通事故の怖さを認識させる良い機会となった。

●消火器やAEDの使用法、心肺蘇生法や119番への通報の仕方等、定期的な講習により、その技能の定着を図る必要性がある。

## (7) ICT の活用

「学びの変革」をすすめるにあたって、ICT の活用を推進することも重要なポイントと考え、整備および活用にとりくんできた。今後は小学校でも活用をすすめていく。

### 1 ICT の有効活用のための人材育成と授業実践での成果・実績

平成27年度は、ICT の有効活用のための基盤づくりとして、第一に、「ICT 活用のための環境整備」、第二に、「ICT 活用に向けた人材育成」に主眼を置いて福田教頭先生を中心に取り組んだ。

平成28年度は、その検証として音楽科と数学科の授業改善を広く他校に問うべく、6月30日(木)開催の「教育研究会」で公開授業を行った。以下、参加者の「授業アンケート」の一部を掲載する。

数 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT を活用した挑戦問題など、とても参考になりました。</li> <li>・生徒達とルーブリックを共有するために提示する手法は、生徒の評価や学びへの意欲を高め、効果的であったと考えます。ただ、活用する力がすぐには付かないことが分かり、時間があれば討議をさせたかったです。ICT も普通に活用されており、日常的に使われていることがよくわかりました。素晴らしいです。</li> <li>・パソコンで、単元を通して、生徒の意欲が続く工夫がしてあり、すごいと思いました。また、生徒の姿勢もとても良く驚きました。</li> <li>・どの資質・能力を身に付けさせることを狙った授業なのかを生徒にも意識付けることが新鮮でした。それに対する評価もあれば良かったです。ICT を効果的に活用した指導をしておられました。準備が大変だったと思います。</li> </ul>
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挑戦問題を提示する際の導入から、授業の流れがとてもスムーズで無駄なく流れていったことが印象的でした。ICT の活用やワークシート、発問、どれをとっても教材研究が深くされていることが分かり、「参考にさせていただきたい」と思うものばかりです。他教科と関わって、挑戦問題が設定されているところも素晴らしいと思いました。</li> <li>・ICT の活用は、生徒の意欲向上だけでなく、課題発見・解決学習において時間設定にも効果的であると実感しました。</li> <li>・挑戦問題では生徒の興味と課題意識を高ぶらせており、とてもスムーズに進まれていました。ICT を使われており、視覚支援はもちろん、時間短縮・テンポ良い授業展開が行われていました。比較聴取をたくさんされていたので、生徒も分かりやすかったと思います。先生の教材研究の素晴らしさを感じました。ありがとうございました。(自分も分かりやすかったです)</li> <li>・ICT を活用した授業、大変参考になりました。音楽を聴かせる場面も確保されており、すばらしい授業でした。</li> <li>・挑戦問題の具体例が分かり、大変参考になりました。ICT が充実されていていいなと思いました。授業の時間配分が綿密に考えられていて、TV の教養バラエティ番組みたいに展開されているように感じました。でもTV と違い、生徒は自分のワークシートに熱心に記入し、学びを深めていたと思います。</li> <li>・生徒が意欲的に取り組んでいた姿に日頃の指導を感じました。ICT の活用も効果的で参考になりました。先生の切り返し方などの確で、ゴールまで持っていけ、素晴らしかったです。ICT 活用等、大変勉強になり、とても充実した時間になりました。ありがとうございました。</li> </ul>

これらのアンケート結果から、ICT を有効活用した数学科と音楽科の授業が、呉市内外の同じ教科の教諭等からも高い評価を得たことが分かる。

研究会後、この成果を踏まえ、他教科での人材育成と ICT 機器の更なる充実を図ることとした。



【挑戦問題をアニメーションで提示し学習意欲を高めた数学科】



【鑑賞の映像やパワーポイントを効果的に活用した音楽科】

### 2 呉版「学びの変革」推進支援事業を活用したICT環境の充実

ICT 機器の更なる充実においては、呉版「学びの変革」推進支援事業の特別予算措置により、新たに高機能パソコンと電子黒板機能付きプロジェクター、映写対応ホワイトボードが購入でき、電子黒板機能付きプロジェクターの通常学級への据え置きや持ち出し用パソコンの自由利用等、ICT 環境のより一層の充実を図ることができた。本校の研究推進とその成果を認めていただいた呉市教育委員会のご配慮に心より感謝と敬意を表したい。



### 3 ICTの有効活用による授業改善実践事例

#### (1) 保健体育科における ICT 活用による学習意欲及び資質・能力の向上

○保健体育科では、第2学年の単元「日本チームから学ぶ～リレーは何をつなぐもの?～」において、リオ五輪日本男子 400m 日本代表リレーの臨場感溢れるビデオを生徒に視聴させ、単元への学習意欲の高揚を図った。さらに、短距離走において世界の強豪チームを相手に圧倒的に不利とされていた日本チームがなぜ銀メダルを取ることができたのかを、編集したビデオ視聴（スロー再生等の工夫による理想的なバトンパスの理解）を通して情報収集・分析させ、個人思考から集団思考の場面を設定し発表させることで、思考・表現力の向上を図った。



【保健体育科での ICT の有効活用】【リオ五輪の編集ビデオ視聴場面】

【生徒のバトンパスの視聴場面】



【生徒の振り返り】「リレーの学習で思考力・表現力がついたと思います。理由は日本代表選手のバトンパスを見て自分たちのバトンパスと何が違ったかを比較して考えました。例えば、「後ろを振り向かず走る」、「相手が「はい」といったら手を出す」、「バトンを渡す時にもう少し大きな声を出す」などです。

#### ○生徒のリレー練習のビデオ視聴による課題発見

生徒のバトンパスの練習場面をビデオ撮影・視聴することで、日本代表との違いを実感でき、挑戦問題を解決するためには何が必要かを考え、実践練習に向けても大いに役立った。



【生徒の振り返り】「リレーの学習で一番は育った資質・能力は情報収集力です。私たちが走ったリレーを先生にビデオに撮ってもらって、それを見て分析すると、バトンパスがうまくいっていませんでした。バトンを受けるときのスタートのタイミングを考える必要性を感じたのでそう思いました。

#### (2) 英語科におけるデジタルテキストの導入と実物投影機による授業改善

##### ○デジタル教科書による学習意欲・表現力の向上と学力の定着及び努力を要する生徒への視覚支援

デジタルテキストの扉や本文の動画が、字幕もあり、とても効果的で幅広く活用できる。生徒の発表手本としたり、新しい表現を導入したりすることができる。また、単語等の記憶を確認する場合、瞬時に写したり隠したりすることができる。ゲーム的感覚の強い活動にも役立っている。さらに、口頭説明では指示している部分が見えない生徒の支援にもつながっている。



【英語教室の ICT 機器を活用した ALT への学校紹介】

##### ○授業時間の有効活用

デジタルテキストにおいては、一定の速度でフラッシュカードを変えられるので、テンポ良く口頭練習ができる。さらに、フラッシュカードやピクチャーカードの整理整頓の時間削減になっている。また、実物投影機の活用においては、問題を黒板に書き写す時間を省いたり、クロスワード等の答え合わせにも解答プリント一枚で済ませたりできる。さらに、生徒の解答や絵を提示し、効果的な指導が可能になった。



【デジタルテキストを活用した教授場面】

#### 4 今年度の総括と次年度に向けて

ICT の環境整備においては、平成 27 年度から 2 年間で、既述の呉市教育委員会の支援等もあり、通常学級及び特別学級ともにほぼ完了したと考えている。一方、人材育成においては、昨年の音楽科及び数学科に続き、本年度、体育科、英語科での ICT の有効活用を図ることができた。また、その有効性についても、公開研究会での他校の教員の視察や生徒の振り返り等から明白である。次年度は新たな教科での更なる人材育成を図るとともに、教科の特性に応じた活用方法の模索や新たなデジタルコンテンツの開発を行いとともに小学校での活用も推進していきたい。

# Ⅲ 「指導力」向上部会

コーチング

勇気づける

認める

ほめる

他律

自律

自立

ミッション

小中9年間を見通した児童生徒の指導体制の確立

H29 研究テーマ

児童・生徒の主体性を育てる課題発見解決型指導の工夫

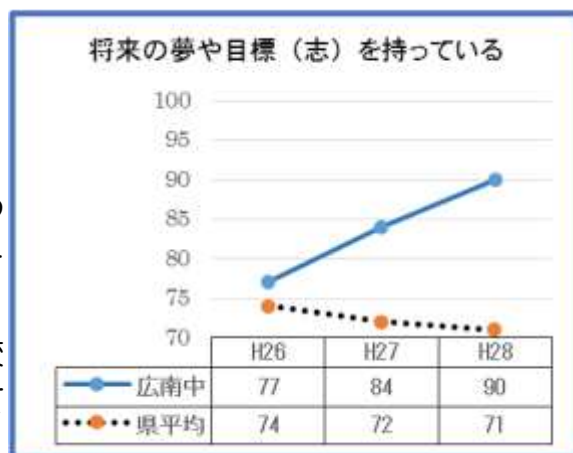
## 目 次

### Ⅲ「指導力向上」部会

広南中学校の生徒の生活面での成果と課題	Ⅲ- 1
課題発見解決型指導力の向上を目指して	Ⅲ- 2
生徒会活動の変革	Ⅲ- 5
〔異年齢交流の価値〕	
絆PROJECT	Ⅲ-17
合同行事	
① 小中合同運動会	Ⅲ-23
② せとうち海援隊	Ⅲ-24
③ いじめ撲滅キャンペーン	Ⅲ-25
④ 広南芸術鑑賞会	Ⅲ-26
⑤ 広南寄席	Ⅲ-27
⑥ 学園朝会	Ⅲ-28
学校別行事	
広南劇場（広南中文化活動発表会）	Ⅲ-29
〔保護者との連携〕	
休日開催を視野に入れた魅力ある行事の創造	Ⅲ-31

## (1) 広南中学校の生徒の生活面での成果と課題

資質・能力の変容の客観的な指標としては、広島県の「基礎・基本」定着状況調査の生徒アンケート項目の内、課題発見・解決学習の項目を指標として活用しているが、「感謝・貢献」に適應できる項目がないので、これについては、全国学力学習状況調査の生徒アンケートの以下の2項目を指標とすることとした。また、本校では、次のような項目も加え、学校教育目標の達成度を見取る指標として活用している。



これらの項目をみると、おおむね、生活面でも、生徒の挑戦心や責任・使命、感謝・貢献の資質・能力が育つとともに、学校教育目標である「志を持って生活する生徒」が増えていることがわかる。

### <過去の3年間の広南中学校の生徒の意識の変化>

	H26	H27	H28	H28 全国 平均
肯定的評価の割合				
学校へ行くのは楽しい	84	75	88	81
広南中学校の生徒の誇りと自信をもち生活している	84	81	95	
学校でよくあいさつをしている	93	84	100	
失敗を恐れなくて新しいことに挑戦しようと思っている <span style="border: 1px solid black;">挑戦心</span>	69	70	91	70
自分にはよいところや得意なことがある	74	69	79	69
将来の夢や目標（志）を持っている	77	84	90	71
校則やルールを守って生活している。 <span style="border: 1px solid black;">責任・使命</span>	99	94	98	95
自分は学校や学級のために役に立っていると思う <span style="border: 1px solid black;">責任・使命</span>	67	55	78	
自分の良さは周りの人から認められていると思う	55	48	76	
<span style="border: 2px solid red;">人や社会のために役立つ人間になりたいと思っている</span>	<span style="border: 2px solid red;">93</span>	<span style="border: 2px solid red;">97</span>	<span style="border: 2px solid red;">97</span>	<span style="border: 2px solid red;">93</span>
<span style="border: 2px solid red;">ボランティア活動や地域の行事に積極的に参加している</span>	<span style="border: 2px solid red;">71</span>	<span style="border: 2px solid red;">88</span>	<span style="border: 2px solid red;">97</span>	<span style="border: 2px solid red;">49</span>
地域でよくあいさつをしている <span style="border: 1px solid black;">感謝・貢献</span>	99	92	100	
「ありがとう」とよく声をかける <span style="border: 1px solid black;">感謝・貢献</span>	88	78	93	
「ありがとう」とよく言われる <span style="border: 1px solid black;">感謝・貢献</span>	73	67	88	
外国の人に積極的にコミュニケーションを図りたいです。		72	81	

中学校生徒アンケート（全校生徒対象）より

93の項目の平均を本学園では、「感謝・貢献」の資質・能力の変容を客観的に見取る指標としている。

## (2) 課題発見・解決型指導力の向上を目指して

研究をすすめる中で、児童生徒の主体的な学びは、一時間の授業の枠で成立するというより、教師のひとつひとつの声かけや指導によって生まれたり、壊されたりすることがわかってきた。その意味で、課題発見・解決学習は教材（単元開発）の問題ではなく、教師の指導技術の問題ともいえる。そこで、本校では生徒の主体性を育てる指導技術として「教育コーチング」や「アドラー心理学」などの研修を計画的に進め、その成果を日々の授業や生徒指導の中で生かす取組をすすめてきた。その中で、「これは課題発見解決につながる指導方法だ」と教師集団から評価を受けた指導方法を、あえて「課題発見・解決型指導」と呼び、みんなで共有しながら、指導力の向上に努めてきた。その結果、生徒会活動や行事の取組の中にまで課題発見・解決学習の考え方が活用され、生徒の主体的な活動が育ってきている。このことは、生徒指導の三機能を生かす、生徒指導の目標である「児童生徒が自ら判断し、行動し、その結果に責任をもつ自己指導能力の育成」にもつながっている。ここでは、2年間の研究の中での本校教諭の「課題発見・解決型指導」の事例の一部を紹介する。

### 事例1 自在ほうきのしまい方について指導したい

情報収集・判断

思考・表現

責任・使命

BEFORE



ほうきの先が痛むので、先を上にして置くようにしてください。

知識注入型指導？

生徒は何も思考しないので自分のものにならない。

AFTER



あなたはほうきをどのように置きますか？  
次のどちらか手を上げてみてください

課題を発見させる

では、このほうきをみてください。  
なぜ、先が痛んでいると思いますか？

思考させる

今気がついたことを、次からやってみてください。  
掃除道具箱を見てまわるのを楽しみにしています

解決策を実行させ評価する

事例2 朝のあいさつ指導をさぼった生徒を朝会でどう指導するか？

思考・表現 責任・使命

BEFORE



忘れた生徒は立ちなさい。(見せしめ)  
おまえたちは何をやっているんだ！(恫喝)  
無責任だろう！罰として〇〇しなさい(押しつけ)

AFTER

忘れずに参加した生徒ごくろんさん(承認)  
今日、忘れた生徒は、昼休憩に職員室に来なさい(指示)



君はどうしたい？



今日はすいませんでした(謝罪)

明日やっていいですか？(償いの方法の自己決定)

わかりました。君は  
明日、名誉挽回したいんですね。

失敗したときの問題解決の方法を自分で考え実行させる

事例3 面接の受け方の見本をみせにきてくれた先輩に対して評議委員に必要な対応を学ばせたい

感謝・貢献 思考・表現 責任・使命

BEFORE



はい、ではみなでお礼を言いましょう。起立！礼！ありがとうございました！  
評議委員さん、この会をしめてください

AFTER



今日はわざわざ、先輩がみなさんのためにこうして来ていただきました。  
評議委員さん、この会をしめてください

はい、お礼を言わせてください。  
今日は、ありがとうございました。

それでは、君個人のお礼になってしまいますね。評議委員さんとしてそれでいいですか？

あっ。わかりました。(考えて全員でのお礼の形に修正してお礼の気持ちを伝える)



<授業の中で>

事例4 情報収集・判断力を育てたい 情報収集・判断

BEFORE 教科書P234ページを開いて、図Iをみてください。これから、火山は、東北地方に多いことがわかりますね。

AFTER ところで火山はどんなところに分布しているのでしょうか。その情報を教科書から探して見付けてください。

はい、教科書P234ページの図1にその情報があります。

よく見付けましたね。火山の情報はそのあたりにあるみたいですね。他の人はどうですか？では、その図をみて、どんなことがわかりますか？火山の分布についてわかることを発表してください。

事例5 思考力・表現力を育てたい 思考・表現

BEFORE 1分間スピーチをします。内容はなんでもいいです。

AFTER 1分間スピーチをします。今、習っている故事成語をひとつ使うことが条件です。

事例6 授業をきちんと受けることの大切さを伝えたい 責任・使命

BEFORE ちゃんと授業を受けないと行く高校がなくなるぞ！

AFTER 先生には、みなさんの学力を付ける責任がある。だから今日の授業の準備を昨日、がんばってここに立っている。では、学ぶ側のみなさんの責任は何ですか？

事例7 協力・協働的な態度を育てたい 協力・協働

BEFORE では、班長さん、班の実験でわかったことを発表してください。

AFTER 班の実験でわかったことを今から五分後に、班のだれかに指名します。誰に指名してもよいように準備しておいてください。

事例8 知識・技能を生きた知識・技能として身に付けさせたい 知識・技能

BEFORE 市役所の組織は図のとおりです。まずは、…となっています。

AFTER 次の1～10の困りごとが生じました。これは、市役所に相談する内容でしょうか？またそうだとしたら、それぞれのどの窓口で相談すべきだと思いますか？市役所の組織図をみて答えなさい。

### (3) 生徒会活動の変革

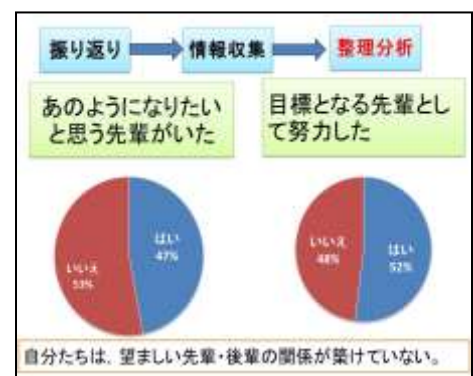
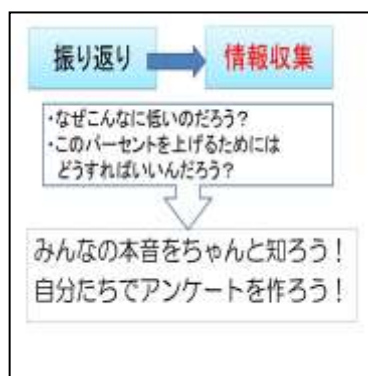
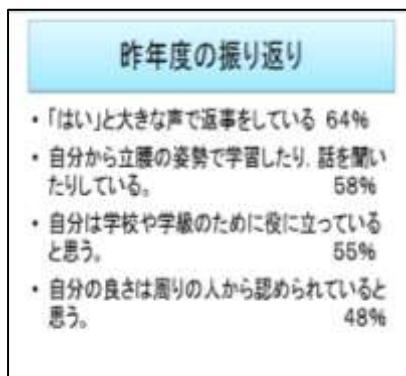
### 課題発見・解決型生徒会活動

(改善のポイント) これまでの生徒会活動では、生徒会執行部が行事で活躍しても、委員会活動では、毎回、思いつきで目標が決められ、振り返りも十分されないまま、自分たちで学校を変えるという動きが生まれてこなかった。そこで、0学期(3学期)に**新執行部には、生徒アンケートの分析させることで課題を見付けさせ、その課題解決のための取組を考えさせた。**4月の生徒総会で**全校生徒に提示し、学校全体で課題解決を目指す取組を考えさせた。**このような課題発見・解決型生徒会活動への変革に取り組むことで、生徒アンケートにおいて、各項目も大きく改善されたのは、何より生徒が自分たち自身の課題として意識して、主体的な取組を積み重ねたことが大きいと分析している。

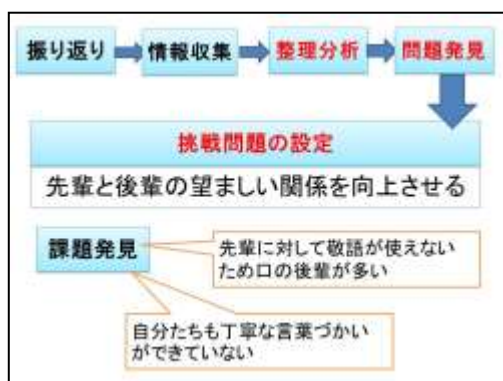
今年度、生徒会では、「夢に向かってONE UP!」というテーマをもとによりよい学校をつくっていくために、自分たちで課題を発見し、課題解決をしていく生徒会活動づくりに挑戦しました。

0学期(3学期)に、新執行部のメンバーで、まず、学校評価アンケート結果を自分たちで分析し、図1の項目に着目し、これらの項目の改善を自分たちの取組む課題として設定しました。

また、これらの項目がなぜ低いのか原因をはっきりさせるために、生徒会独自のアンケートを作成し、2月に実施しました。このアンケートから、さらに、「先輩・後輩のよりよい関係ができていない」という課題が明らかになりました。



生徒会作成のアンケート結果を踏まえ、3月の最後の生徒朝会で生徒会執行部から、全校生徒に来年度の目標として次の4つのことを呼びかけました。



**生徒会H28の目標**

- ・先生、地域、目上の人、仲間、に丁寧な言葉づかいをしよう。
- ・これは「やりきる」という目標を持とう。
- ・周りをよく見て行動しよう。
- ・自分ではない誰かのために、行動しよう。



さらに新入生を迎えた4月の生徒総会では、「相手を大切する礼節」というキーワードに、日々の自分たちの言動を見なおし、改善していくことを提案しました。このことをテーマに、毎月の生徒朝会では、生活の中で見付けた様々な問題をどう解決したらよいかをみんなで考える「before after」の寸劇を創作し、江戸しぐさの「うかつあやまり」などの提案などを重ねて行きました。7月に実施した学校評価生徒アンケートでは、次のような結果になりました。

生徒アンケートの項目	H27/12	H28/7
自分は学校や学級のために役に立っていると思う	55%	77%
自分の良さは周りの人から認められていると思う	48%	75%
「ありがとう」とよく声をかける	78%	88%
「ありがとう」とよく言われる	67%	82%
学校へ行くのは楽しい	75%	91%

また、運動会のアンケートでも、課題であった先輩・後輩の関係が改善している様子がみえました。これらの成果を元に、生徒会執行部は、生徒会執行部の新しいボランティア企画「池の掃除をして魚を救おう」を提案しました。



長年放置された池の掃除ボランティアを企画

今まで池の魚に興味をもつ生徒はほとんどいませんでしたが、当日は、たくさんの生徒有志が参加し、清掃が終わってからは、落ち葉が池に落ちないように掃除をする生徒や、小さな子供を連れた家族が休日に池に遊びにくるという光景が見られるようになりました。こうした取組の結果、12月の学校評価アンケートでは、さらに課題とした項目が改善し、達成感を得ました。また、この先輩の姿に憧れ、また志を受け継ごうと、12月の生徒会選挙ではたくさんの立候補者が出ました。

**H28年度の生徒会の具体的な目標**

・先生、地域、目上の人、仲間、に丁寧な言葉づかいをしよう。

生徒総会H28.4.26

**実行**

ある日の生徒朝会

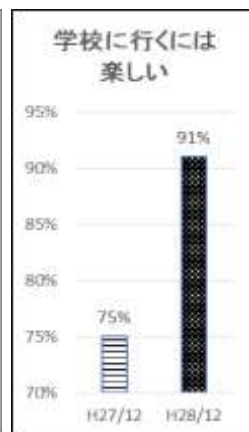
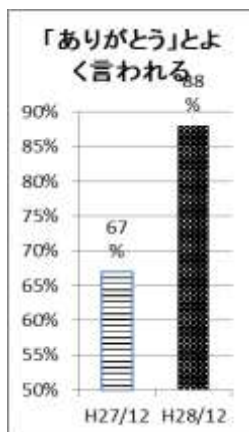
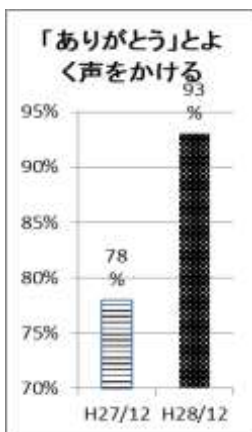
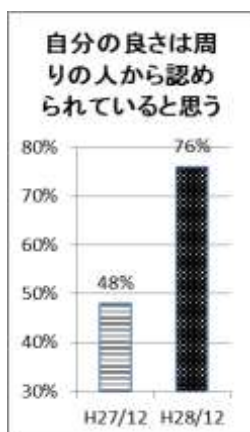
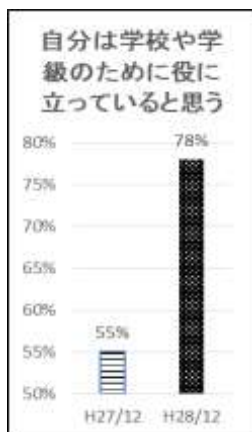
**おわりに**

ソーランの指導で後輩にしつこくアドバイスをしすぎたのかあと反省していると、グラウンドからソーランの自主練習をしている声が聞こえてきてうれしかったです。最高の後輩と先生方のもと最高の運動会ができて僕はとても幸せだなあと思いました。(3年)

後輩を一生懸命やさしく教えている先輩の姿をみていて私「私もこんな風になりたいな」と思いました。(2年)

3年生はソーランの練習で放課後を使ってまで僕たちを教えてくださいました。とてもお世話になりました。感謝しています。(1年)

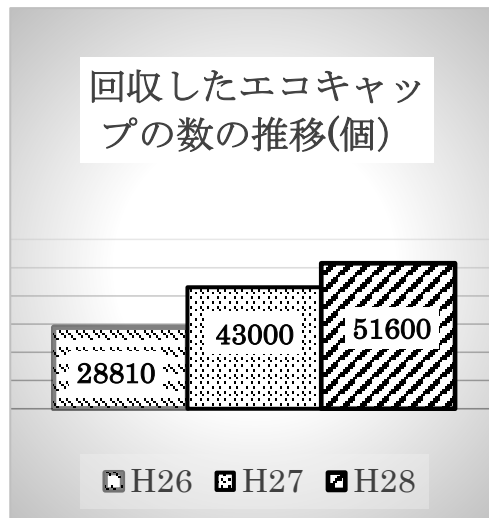
自分は最初あまりやる気がなかったけど先輩の熱い思いを知って、火が付きました。先輩のためにもがんばろうと思い、家でもソーランの練習をしたりしました。(1年)



### (3) 生徒会活動—各委員会の主な取組①（生活委員会）

（改善のポイント）以前の生活委員会では、伝統としてエコキャップの回収に取り組んできたが、集めてエコキャップ推進協会に送るだけになっており、生徒自身に、社会貢献している実感もてなかった。その課題を受け委員会での取組を見直し、年度当初にエコキャップ回収の意義を伝え、回収方法を明示した。回収したエコキャップについては、どれだけの貢献活動になったかを全校に報告した。

このことが、生徒の社会貢献への意欲と達成感につながり、回収できたエコキャップの数も年々増加してきた。



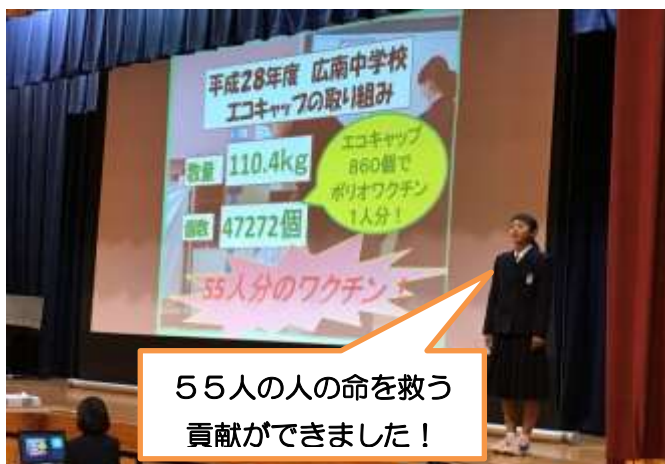
年度はじめの生徒朝会で、エコキャップ回収がどんな社会貢献につながるかを伝え、回収を呼びかける生徒会執行部



「どうやって数を数えたらいいだろう？」  
数学の考え方を活用する大切な学習の機会になり、この場面は数学のテストで活用問題として出題されることに…



有志で、エコキャップのクリーニングを行いました。不要な物を取り除く作業を行うことで出す側のマナーについて考えることができました。



年度末の学校朝会で、生徒のみんなに今年の成果を報告し、達成感を共有しました。

### (3) 生徒会活動—各委員会の主な取組②（図書委員会）

（改善のポイント）図書委員会では、昨年度の貸出冊数を確認し、図書室の利用を促進するために、どんな取組が必要かを話し合った。平成 27 年度は、貸出冊数が 251 冊、一人平均 3.9 冊であった。しかし、本を借りる人が、一部の人に偏っていることが課題であることがわかった。そこで、その解決に向けて、「もっと多くの人に図書室を利用し、本を借りてほしい」という目標を立て、図書室に来てもらえるような取組としてブックトークや図書館祭りなどを企画した。課題発見・解決の方法を、委員会活動を通して図書委員会のメンバーは学ぶ場となり、達成感を味わった。

#### <各月にテーマを設けて、ブックトーク>

5月「夢」、6月「夏に向けて」、9月「芸術について」、10月「勉強について」



昼休憩 ブックトークを聞きに集まった生徒達

テーマに基づいたものを選んで紹介します



ブックトークコーナーを設置

一人一人、読んでくれそうな本を紹介します



#### <12月に「図書館祭り」と銘打って、イベントを開催>

図書館クイズ、本探しゲーム、呉市中学校図書館利用の実態報告、先生方の「学生時代の図書館の思い出」インタビュービデオ上映を行い、図書館利用の活性化を訴える内容でした。40名以上の参加があり、大いに賑わいました。



図書委員長から「今日は楽しんでください」という挨拶



まずはアクティブに、図書館に関わる〇×クイズ!!



呉市と広南中の図書館利用と読書の実態報告！



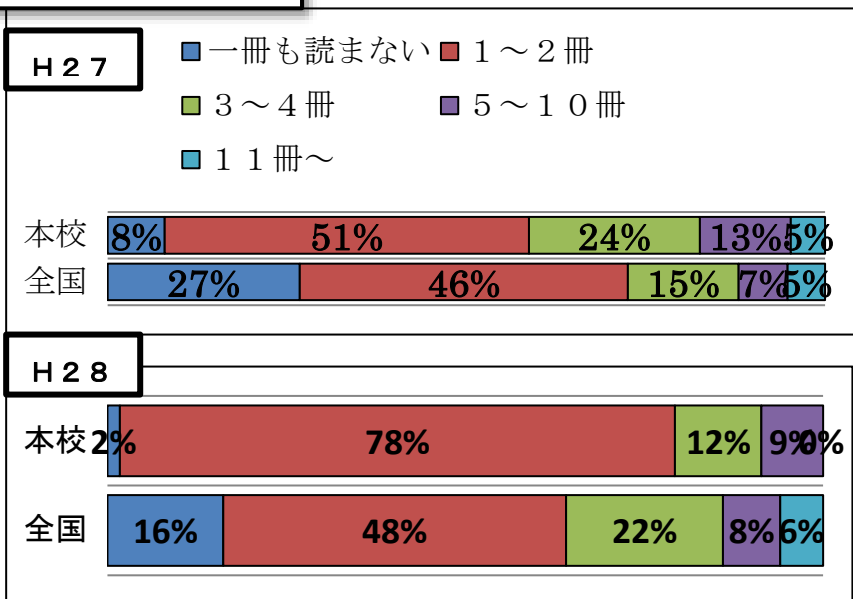
先生方の、図書室にまつわる思い出エピソードのインタビュービデオの上映

図書館祭りの生徒の感想より

○図書委員として初めて図書館祭りができて良かったです。先生方のインタビューも練習して撮影し、無事上映することができてほっとしました。  
 ○委員長として、呉市の実態と比較して広南中の現状を報告しました。もっと図書館を利用してほしいと思いました。今日は、みんなに伝えるように発表できました。

アンケート結果の分析（学校生活アンケートから。）

平成 27 年度学校生活アンケート（12月）と平成 28 年度学校生活アンケート（12月）を比較すると、1冊も読まない人の割合が減少していると言える。しかし、1冊以上読む人の割合も減少していることから、まだまだ読書に対する意識は高いとは言えない結果である。



**成果：**ブックトークや図書館祭りは総勢 40 名超の参加者があり、全校生徒がいずれかのイベントに参加し、図書室を訪れ本に触れることができた。偏りがあった図書の貸し出しについても、全校生徒が一人一冊以上は借りるにことにつながった。

**課題：**偏りがあったとはいえ、平成 27 年度の貸出冊数の総計が 251 冊だったのに対し、平成 28 年度は貸し出し冊数の総計が 159 冊に減少した。一人平均 2.65 冊となり、昨年度を下回る結果となった。また、1冊以上読む生徒も減少していることが課題である。

今後はイベントを定期的に関くとともに、図書委員とも話し合い、推薦図書の設定や、継続的に本を読み続けることができる環境を整備し、貸出冊数の伸びにつながる企画を行っていく予定である。

### (3) 生徒会活動—各委員会の主な取組③（保健委員会）

（改善のポイント）生徒会の保健委員会の活動は、健康生活を送るため、毎月初めに発行する「ほけんだより」の内容にあわせて、定例委員会で月間目標を決めた。それを生徒全員が理解して実践ができるように、委員会でできることを考え、掲示物の作成などに取組んでいる。月初めの生徒朝会で保健委員長が月間目標とその達成のために作成した掲示物を知らせた。次の保健委員会の時に、その月の目標をみんなが出来ていたかを振り返る。単に、月間目標を決めて、呼びかけるだけでなく、掲示物を工夫やイベントを企画するなどの取組を行うことで、生徒の責任・使命感が育つとともに、達成感を感じることができる。

平成28年度の主な掲示物の活動は、1学期は「食中毒予防」、2学期は「保健についてのクイズラリー」、3学期は「手洗いについて」「換気について」を行った。

#### <食中毒への注意喚起の掲示物の工夫>

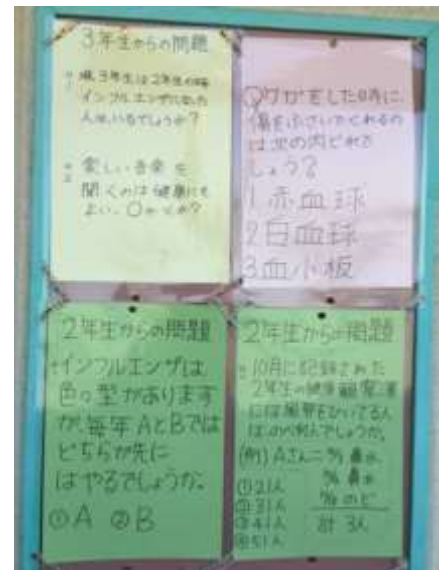
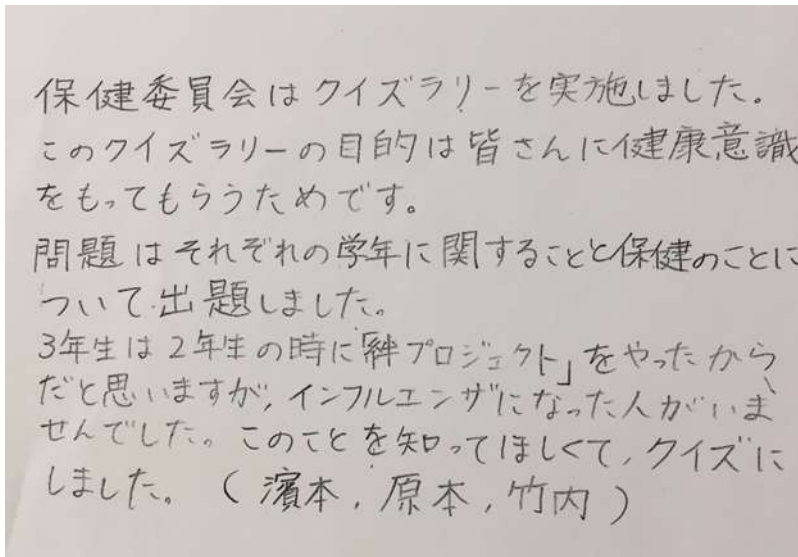


生徒には、まず、食中毒を起こす細菌の名前、特徴・症状を生徒が調べさせた。すると、生徒達は、細菌の姿の気味悪さに驚き、それを効果的に伝える工夫を考えさせた。掲示物には、特徴、症状とともに、細菌の姿はあえて、ピンクの蓋で隠し、「〇〇菌は、どんな姿をしているのだろうか？」と問いかけ、興味をもった生徒が、その蓋を開けると見られるように工夫した。

（ピンクの蓋は、ウエットティッシュ用に販売されていて、何度も開閉できます。）生徒の情報収集・判断および思考・表現の資質能力を育てる取組になった。

### <保健クイズラリーの取組>

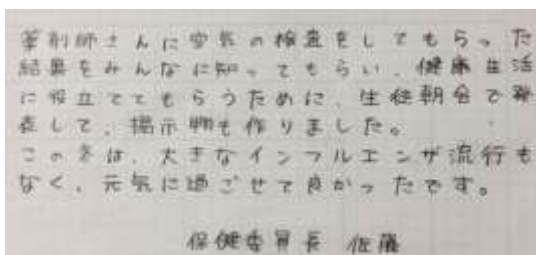
保健に関する知識を単に知らせるだけでは、なかなか自分のものになりにくい。そこで、クイズにすることで、自分に何がわかっていて、何がわかっていないのかを気づかせる取組として保健クイズラリーを企画した。保健委員には自分たちがこれまでに学んだ保健に関する知識をもとに2問ずつの各学年で問題を考えさせ、それに教師からの問題を加え、計8問で、1問はその学年に関する内容にし、問題を掲示後、生徒に回答用紙を配布した。終了後、回答と解説を保健室前に掲示するとともに、生徒朝会で正解が多かった人を発表した。保健委員の生徒は、楽しんで取組んでいた。



### <風邪予防・喚起の取組>

3学期は、昨年に引き続き「インフルエンザの流行のない学校にしたい。」という目標のもと、教室に手洗い用アルコール消毒を置き、容器に保健委員からの呼びかけを貼りつけて、手洗いの励行を呼びかける取組みを行った。あわせて教室の空気検査の結果を活用して、換気の必要を呼びかけて、休憩時間の換気を心がける取組みを行った。インフルエンザは呉市内ではかなり流行していたが、幸い本校では大きな流行もなく、2年生も全員修学旅行に参加でき、自分たちが意識して生活したことで、目標が達成できたと感じている様子である。

このように、教員側からの保健指導だけでなく、保健委員会の生徒による主体的な課題解決の取組を行わせることが生徒の主体性を育てる上で大切であると考えます。



消毒用アルコールスプレーの容器には保健委員から風邪予防のメッセージが貼りつけてあります。

### (3) 生徒会活動—各委員会の主な取組④（評議委員会）

(改善のポイント) 礼節指導については、子供たち自身が学園文化として意識し、自分たちで守っていく校風をつくりあげることを目指してきた。「社会に通用する礼節を身に付ける」ことを目標に、「心をこめた深い礼」は2代目生徒会長の呼びかけを受けて、広南学園の伝統文化として定着を図ってきた。また、「立腰」は、小学校の企画委員会の提案という形ではじまり、学園朝会や合同行事などの場を通じて、定着を図ってきた。しかしながら、日常の授業ではじまりの挨拶がいかげんになっている問題が取り上げられた。評議委員会では、「時を大切にし、礼を正す」ことを目標に、その解決の方法として、「学級全員が深い礼や挨拶ができていいる」を基準にし、各学年で号令の時の態度を教師に5段階で評価してもらい、1ヶ月ごとの集計で1番点数が高かった学年を表彰する取組を企画するなどして自分たちで課題解決を図る取組を継続している。その中で、「学級全員が深い礼や挨拶ができていいる」ためには「落ち着いた雰囲気の中で黙想や授業の号令をかける」ことが必要であることが分かった。そこで、「時計を見て3分前に着席しよう。」を新たな目標にすることになり、評議委員は授業開始前に周囲に呼びかけをすることになった。最初は呼びかけに反応してくれなかったり、評議委員自体が忘れていたりした。また、教室移動や体育の着替えなどを理由に、授業開始直前にならないと生徒が集合できない実態も明らかになった。そこで、1週間の授業開始状況を客観的に見取るチェック表を作成し、各学年で集計した結果を生徒朝会で報告するなどの取組の中で、教室移動の際には速く移動する等の改善がみられた。

生徒朝会でのみんなへの呼びかけ



時計を見て3分前に着席しよう。

朝会の時には、全員 体育座りをして無言で教師を待つのがあたりまえになっている。

授業開始の心を込めた深い礼の実践



教師は、生徒の礼をしっかりみて、返礼し、呼名して授業を始める。

**成果：**評議委員が3分前に呼びかけをすることで、教室移動を含めて殆どの授業開始の2分前に着席することができるようになった。この習慣は授業だけでなく、学校朝会や学校行事等での集合時にも生かされ、落ち着いた雰囲気の中で諸活動を行うことができ、活動内容の質の向上にもつながった。

**課題：**評議委員が呼びかけをしないと着席しきれなかった場面もある。来年度は生活ルーブリックを活用し、しっかり自分自身を振り返らせる中で、生徒ひとりひとりが集団の一員としての責任と使命をしっかり考え、行動できる資質能力を高めていきたい。

## (4) 広南学園生活ルーブリックの活用について

(ねらい) これまで広南学園では、「時を守り，場を清め，礼を正し，学びを求める」をめざすこども像とし，中学校では，それを「生徒の心得」の中で示すとともに，その中で共通に取り組む礼節指導，たとえば，「心を込めた深い礼」や「立腰指導」を「広南しぐさ」ということばで子供に伝えることで，意識付けを図ってきた。

しかしながら，児童生徒が自分の状態を見取り，また，教師から，その評価を返すことはしていなかった。このたび，ルーブリックの研究を進める中で，生活の振り返りにおいてもルーブリックを活用し，学期ごとに，児童生徒の自己評価に合わせ，教師の評価を加え，学期を振り返る機会をもつこととした。このルーブリックについては，元警固屋中学校長 芦谷先生がつくられたものをもとに作成した。また，そのことを生徒・保護者・教職員で共有する方法として「5つの合い言葉，2つの約束」を作成した。なお，これは，三次市立塩町中学校区のものをもとに作成した。

### ◇生徒心得◇

呉市立広南中学校

自立に向かって主体的に生きるとともに社会に貢献できる自分と仲間をつくるため，広南中学校の生徒の一員としての自覚と誇りを持ち，次の4箇条を心に置いて，ルールを守り，みんなが楽しく生活できる学校づくりに貢献することを誓います。

1. 「ノーチャイム」の意味を理解し「時を守る」ことを大切にします。
1. 「清潔」「整理整頓」を心に「場を清める」ことを大切にします。
1. 「礼節と思いやり」の伝統を守り，「礼を正す」ことを大切にします。
1. 校訓「不かく尋ね高く志す」を胸に「学びを求める」ことを大切にします。





広南学園 生活目標「時を守り，場を清め，礼を正し，学びを求める」ルーブリック

年 組 氏名 ( )

	<時を守る人> 時を大切にすることができる	1学期		2学期		3学期	
		自己評価	評価	自己評価	評価	自己評価	評価
S	授業開始時間の前に授業の準備を終え，授業の予習・復習をしながら待つことができる						
A	授業開始時間には授業の準備を終えて座ることができる						
B	授業開始時間には着席することができる						
C	授業開始時間に時々，遅刻することがある						

	<場を清める人> まわりを美しく整えることができる。	1学期		2学期		3学期	
		自己評価	評価	自己評価	評価	自己評価	評価
S	学び生活する場所を美しくすることで自分の心も磨かれるので，掃除が苦にならない						
A	担当の場所でなくてもゴミが落ちていたら自分で拾い，環境を整えることができる						
B	そうじ場所を少しでも美しくするために，誠実にそうじに取り組んでいる						
C	そうじの場所に行くが，しかたなくそうじに取り組んでいる						

	<礼を正す人> 相手を大切にする礼節が身についている人	1学期		2学期		3学期	
		自己評価	評価	自己評価	評価	自己評価	評価
S	時と場に応じた相手を大切にする礼節を身に付けている						
A	礼儀正しくあいさつができ，敬語がきちんと言える						
B	自分から目上の人や友達にあいさつができる						
C	自分から目上の人や友達にあいさつができない						

	<学びを求める> 学び続ける大切を理解し，求め続ける人	1学期		2学期		3学期	
		自己評価	評価	自己評価	評価	自己評価	評価
S	興味を持ったことには自主的に調べたりすることで学びを深めたりすることができる						
A	誠実な態度で授業に取り組み，学習内容を理解するためによく努力している						
B	先生の指示に従って学習（授業・提出物等）に取り組んでいる						
C	学習道具を整えて授業に取り組むことができない						

広南学園 5つの合言葉・2つの約束

5つの合言葉

- 「時間を大切に」子ども
- 「整理整頓ができる」子ども
- 「あいさつをする」子ども

「時を守り、場を清め、礼を正し、学びを求め人になろう」  
2つの約束

- 「話をよく聞く」子ども
- 「自分の思いを伝える」子ども
- 「家庭学習を毎日する」子ども
- 「テレビ・ゲーム・SNS利用のルールを守る」子ども

広南学園 ほめる・認める・勇気づける「5つの言葉・2つの約束」

携 5つの合言葉	低学年			中学年			高学年			中学校			
	小1	小2	小3	小4	小4	小5	小6	中1	中2	中3	後期		
	初期			前期			中期			後期			
5つの言葉	① 時間を大切に	きめたじかんにねるおきる・食する	時計を見て次のじゅんびをする	使ったものをあつたところにきれいに	決めた時間を守り時間内にやりきる	決めた時間を守り時間内にやりきる	必要なものを取り出しやすく	周辺のものを分類し使いやすく	次の予定に応じて計画的に行動する	次	次	次	次
	② 整理整頓できる	つかったものをあつたところ	使ったものをあつたところにきれいに	自分から進んで顔をみて	自分から進んで相手に雇くように	自分から進んで相手に雇くように	必要なものを取り出しやすく	周辺のものを分類し使いやすく	次の予定に応じて計画的に行動する	次	次	次	次
	③ あいさつをする	じぶんからげんきよく	自分から進んで顔をみて	自分から進んで顔をみて	自分から進んで相手に雇くように	自分から進んで相手に雇くように	必要なものを取り出しやすく	周辺のものを分類し使いやすく	次の予定に応じて計画的に行動する	次	次	次	次
	④ 話をよく聞く	はなす人にからだをむけてさいごまで	自分から進んで顔をみて	自分から進んで顔をみて	自分から進んで相手に雇くように	自分から進んで相手に雇くように	必要なものを取り出しやすく	周辺のものを分類し使いやすく	次の予定に応じて計画的に行動する	次	次	次	次
	⑤ 自分の思いを伝える	あいてのかおをみながら	自分から進んで顔をみて	自分から進んで顔をみて	自分から進んで相手に雇くように	自分から進んで相手に雇くように	必要なものを取り出しやすく	周辺のものを分類し使いやすく	次の予定に応じて計画的に行動する	次	次	次	次
2つの約束	⑥ 家庭学習を毎日する	じかきをきめてやりきる(よみ・かき・計さん)	復習・予習の習慣	復習・予習の習慣	復習・予習・自主学習を計画的に	復習・予習・自主学習を計画的に	必要なものを取り出しやすく	周辺のものを分類し使いやすく	次の予定に応じて計画的に行動する	次	次	次	次
	⑦ テレビ・ゲームSNS利用のルールを守る	親子で話し、使うルールを守る	復習・予習の習慣	復習・予習の習慣	復習・予習・自主学習を計画的に	復習・予習・自主学習を計画的に	必要なものを取り出しやすく	周辺のものを分類し使いやすく	次の予定に応じて計画的に行動する	次	次	次	次

## 「**脳の解析データを**見て**絶句し**、**自分の子どもにスマホを与えたことを後悔しま**した。」

(脳科学者 川島隆太) 『2時間の学習効果が消える！やっではいけない脳の習慣』(青春出版社) 前書きより

テレビやゲーム、あるいはスマホが脳に与える影響について、小中高生7万人のデータを集め、解析するとともに実際に脳にどのような影響を与えるのか医学的に研究している脳科学者がいます。ここでは、その本の中で紹介されている内容の一部を紹介いたします。詳しくは、上に紹介した本に書いてあるので、ぜひ読んでみてください。

(スマホ・LINEを長時間使用していると、) **家庭で平均2時間以上も勉強している子が、ほとんど勉強していない子より成績が悪い**という衝撃的な結果。」(P18)

「LINEを長時間、習慣的に使用することで、**脳の形が変わってしまい、集中力や注意力の低下**につながったと考えられる。」(P40)

「**どんなに長時間勉強してもゲームをしてしまうと、勉強した効果が打ち消されてしまう。**」(P66)

「**ゲームプレイ時間が長い子どもの脳は、脳内の各組織の発達に遅れが見られる。**」(P72)

「テレビを見る時間が長い子どもほど**言語性知能が低く**、3年後の変化量も小さいことから、**その後の言語能力の発達が遅くなってしまう**」(P80)

『2時間の学習効果が消える！やっではいけない脳の習慣 小中高生7万人の実証データによる衝撃レポート』

川島隆太【監修】横田晋務【著】

青春出版社 出版 2016年 発行

注・・・太字、( )は筆者

## 異年齢交流の価値

### あこがれの先輩・絆づくり

責任・使命

協力・協働

感謝・貢献

(ねらい) 小中一貫教育において異学年交流を行うことの価値は、「あこがれの先輩」として、小学生・中学生が相互にモチベーションを高める互惠効果があることである。そして、広南学園の一員として、自分たちが誇りに思う校風を自分たちで創っていく責任・使命感を自覚し、感謝・貢献する関係を先輩・後輩として、あるいは地域へ感謝・貢献するボランティア活動を協働して行うことで絆を深める機会となる。また、地域の人材を活用し、地域の先輩にいろいろと教えを受ける異年齢交流の機会を充実することも、同様に地域との絆を深め、社会に開かれた学校づくりにつながる。

本学園では、異学年交流および地域の方との交流を「絆PROJECT」と呼んでいる。小学校段階では、教科や総合的な学習の時間において地域の方をゲストティーチャーとして招き、いろいろな指導をしていただく中で、「感謝」の気持ちを育てることをねらいとして行っている。しかし、中学校段階で、同様に地域の方をゲストティーチャーとして活用するとともに、異学年交流、または地域との交流を年間行事に位置づけると、教師も児童・生徒もやらされ感を持ったり形骸化したりしてしまうことが考えられる。そこで、本学園では中学校段階においては「自分たちが学んだことを生かして小学校、または中学校に貢献し絆を深める」という目的だけを決めて、誰が何をいつ、どの学年に対して行うかは、学年ごとに任せている。学年の教師と子供達がアイデアを出し合い、企画・調整を行い、実行する。平成28年度に各学年が企画・実施した異学年交流および異年齢交流、あわせて合同行事について紹介する。

## 絆 PROJECT

先輩・後輩としての学びを通して感謝・貢献、絆を深める

<中学校第3学年の絆PROJECT>①

### 日本文化挑戦講座の企画・実施（小学校第5学年を迎えて）

「匠の時間」で、地域の方から学んだことを活用し、5年生児童を対象に「日本文化挑戦講座」を企画し運営することで、挑戦・探究、思考・表現の資質・能力を高めるとともに、日本文化に対する理解を深め、受け継いでいく使命感を高めています。

書道講座



尺八講座



箏講座



着付け講座



<中学校第3学年の絆PROJECT>②

保育所訪問（保育体験）の企画・実施（家庭科の授業の中で）

よし！保育所のこどもたちを楽しませるぞ！



長浜東保育所訪問



準備（おもちゃづくり）

どんなおもちゃをつくれれば楽しんでもらえるかな？

臨海保育所訪問



<中学校第3学年の絆PROJECT>③

自分たちが身に付けた礼節を伝える（学園朝会のお礼をかねて）

小学校企画の学園朝会「9年生を送る会」の開催に対し、中学3年生（9年生）が礼状を作成し、感謝の気持ちを伝えるに小学校各学年に伺いました。感謝の気持ちを持ち、児童たちに責任感や使命感を持って学校生活を送ってほしいという願いを込めて、各自が挨拶の言葉を添えて、小学校に伝えてきました。



これからもお友達と仲良く過ごしてください。



川口先生と仲良く、体を鍛えて頑張りましょう。

中学校のお兄さん、お姉さんはなんて礼儀正しいんだろう



中学校に入学したら、いろんなことに挑戦しましょう！

私たちと教室の入り方から全然ちがう。声も大きいし、私たちも中学生になったらあんなふうになれるかな？

<中学校第2学年の絆PROJECT>①

小学校学習発表会での合唱披露

小学校からの依頼を受け、昨年度まで学習発表会へ合唱の披露に出向いていた中学3年生が受験のため参加できなくなったため、2年生が小学校の学習発表会で合唱を披露することに決めました。2年生は、中学校代表として使命感を持って参加しました。



中学3年生に負けな  
い私たち2年生の自  
慢の歌声を聞いてく  
ださい。

<中学校第2学年の絆PROJECT>②

起業家に学ぶ

起業家を招いて、2年生が起業するための情報収集を行います。初めての体験である起業について、その意義を理解し、困難なことに挑戦しようとする意識をもたせることを目的としています。さらに、起業に必要なものなどを聞き取り、今後の取組に生かしていきます。



日本で初めてのブリュレトース  
トの店を大学生のときにオープ  
ンされた方です。人の何倍も努  
力したそうです。

これから起業する上で、とても参  
考になることが聞けました。作っ  
ていただいたスイーツもとてもお  
いしかったです。



## <中学校第2学年の絆PROJECT>③

### 起業プロジェクトへの協力依頼へ 学園朝会、6年生、5年生への協力依頼

8年生の起業プロジェクトで、広南に関連する商品の販売を行うことについて学園朝会で宣伝しました。宣伝部では、宇都宮黙霖の生き方を歌と踊りにして、みんなに披露しました。また、11月の広の教育祭で販売協力の依頼もしました。



社長が中心となり出資金を集め、商品開発部で5種類の商品を開発し、宣伝部では、「もくりんさん」の歌と踊りをつくりました。

地域の偉人 宇都宮黙霖を多くの人に知ってもらうことで広南の活性化につなげようと思います。

## <中学校第2学年の絆PROJECT>④

### ゲストティーチャー 采谷先生 道徳の授業

高校生のときの挫折を乗り越え、ボストンマラソンで優勝、ミュンヘンオリンピックに出場した采谷さんの生き方から、諦めず、最後までやり抜く強い意志をもつことの大切さを学びました。



挫折してしまったときに、どうやって立ち直ったか等、いろいろな話を聞くことができました。貴重な体験でした。

高校3年間つけていた日記を見て、自分を励ます言葉や厳しい言葉を書いていて、本当に努力した人ということが伝わりました。



＜中学校第1学年の絆PROJECT＞①

出前落語 平成28年10月～1月 実施

一学期末から総合的な学習の時間で、「落語でたくさんの人を笑顔にしよう」を挑戦問題に落語に取り組みました。「時そば」「長短」「化け物使い」の中から一つずつ演目を選択し、講師の先生の指導のもと、扇子、手ぬぐいの使い方、上下の付け方など落語のポイントをマスターし、最後に小学校3～6年生、地域のふれあいサロン、広南劇場（文化発表会）、呉市文化ホールでのくれしん笑芸会爆笑寄席で披露し、聞いて下さる方を笑顔にできました。



6年生落語会



ふれあい長浜落語会



ふれあい小坪落語



広南劇場







第一九回 くれしん笑芸会 爆笑寄席

<7年生（中学校第1学年）の絆PROJECT>②  
**読み聞かせボランティア** 今まで育ててくれた小学校への感謝・貢献, 個人の表現力UP

地域の方の協力依頼を受け, 振替休日を利用して小学校へ読み聞かせボランティアに行きました。ボランティアで参加し, 小学生に頑張っている姿を見せると同時に, 自分の表現力を高める効果が出ています。



七・一 読み聞かせ



一〇・一七 読み聞かせ



## (5) 合同行事

志をひとつに自分たちに何ができるか考える

責任・使命 感謝・貢献 協力・協働

(ねらい) 本校では、運動会を始め、様々な合同行事があるが、その共通の目標は「地域の方に感謝の気持ちを伝える 貢献する」という目標のもとに行うことを伝統としている。したがって、たとえば合同運動会でも、「感謝の気持ちを伝えるために、自分たちはどうすべきか?」という志を立て、その志を実現するために自分たちは何をしなければならぬか、毎時間の練習の振り返りを活用し、児童生徒自身に課題を発見させながら、その志の実現にむけて一歩、一歩、準備を重ねる。

したがって、これらの行事の振り返りにおいても、感謝・貢献できたかどうかという視点で振り返りをさせる。このような振り返りを通して、広南学園の先輩・後輩としての連帯感とともに、地域との絆を深めていく。

### ① 小中合同運動会



小学生の平成源平応援合戦に9年生が巫女で参加



小中一貫スーパーリレーで6年生から7年生へ



1年生から9年生でみんなでジャンプ。1年生のサポートを9年生でしています。



最後の競技はオクラホマミクサーを小・中学生&地域の方で楽しみました。

## ② せとうち海援隊

### ① 目的

- ・瀬戸内海を臨む地域に住む児童生徒が、せとうち海援隊のメンバーとして美化活動を行うことにより、瀬戸内海的环境美化に努める心と態度を育てる。
- ・美化活動を通して、「ボランティアの精神」を身に付けさせると共に、地域を大切に思い行動できる態度を育てる。

### ② 年間活動計画

平成26年 第1回 7月 7日 (金)

第2回 9月16日 (火) ※中止

第3回 12月 7日 (水)

※夏休み期間中に中学校では部活動単位で三角浜の清掃活動を行っている。

### ③ 集合・活動場所

- ・小坪地区 旧小坪小学校校庭 集合15時40分, 解散16時20分
  - ・長浜地区 広南中学校グラウンド 集合15時40分, 解散16時20分
- 活動場所 小坪地区 小坪防波堤と小坪港の広場周辺  
長浜地区 三角浜周辺, バス停・ローソン周辺
- ※ (第1は長浜周辺のみ)

#### 【長浜地区】



#### 【小坪地区】



### ④ 成果と課題

小中の縦割り班を活用することで、中学生にリーダーとしての自覚が出てきている。また、参加した児童、生徒の多くは生き生きと活動し、地域に貢献できたことに満足していた。

課題としては、小学校と中学校で日程の調整が難しく、小学校の児童の活動時間の確保が不十分であった。来年度は、合同で行うのは年1回とする。

### ③ いじめ撲滅キャンペーン

(1) いじめ撲滅決起集会 6月14日(火)

「いじめを絶対許さない」という強い思いを児童、生徒全員が持ち、保護者、地域もその思いを共有していることをメッセージにして発表してもらいました。



PTA会長・自治会長のメッセージ



小学校・中学校代表による決意表明



(2) いじめ撲滅あいさつ運動

第1回 6月20日(月)～6月23日(木)

第2回 10月24日(月)～10月27日(木)

縦割り班を利用し、朝小中の4か所の門に立ち、いじめをなくす思いと決意を込めて、あいさつと呼びかけを行った。



小学校・中学校の縦割り班によるあいさつ・呼びかけ運動



(3) いじめ撲滅標語コンクール

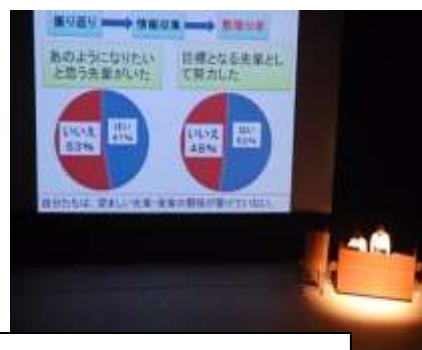
児童、生徒よりいじめ撲滅のために標語を募集し、優秀作品の表彰を行った。また、保護者にも標語の作成をお願いし、学校通信で発表した。

中学校最優秀賞 『遊びだから』 違うよそれは いじめだよ

小学校最優秀賞 うれしいな みんなで あそぼと さそわれた

(4) いじめ撲滅プロジェクトチーム研究大会での発表 8月27日(土)

呉市内の学校代表、地域代表による研究発表大会で、中学校生徒会が「相手を大切にする礼節」の寸劇 を発表した。



絆ホールでの「相手を大切にする礼節」の舞台発表の様子



## ⑤ 広南寄席

7月9日（金）

参観授業の後、「第2回広南寄席」を開催しました。保護者・地域の方にもたくさん参加してくださいました。会場は笑いで一杯になり、心も幸せで一杯となりました。また、寄席には、9年生の広南亭ひよこさんも出演し、昨年度、総合的な学習の時間で会得した「つる」を見事に演じ切りました。



ジャンボ衣笠さんによる「ぼやき酒屋」



全部で5つの演目がありました！



会場は拍手と笑顔であふれました。



広南亭ひよこさんもがんばりました！

## ⑥ 学園朝会

4月14日（火）広南学園運動会について

- ・広南学園運動会に向けての結団式を行いました。

5月11日（月）広南学園運動会全体練習

- ・気を付けの姿勢と深い礼，立腰の正しいやり方を示し，練習をしました。
- ・運動会のテーマとスローガンの発表を行いました。

6月16日（火）いじめ撲滅決起集会

- ・第1回いじめ撲滅キャンペーンの取り組みについて

9月13日（火）小中合同遊び②

1年生から9年生まで全員で楽しめる「ボール回し」と「じゃんけんリレー」をみんなで楽しみました。

小中縦割のチームごとに作戦を考え，声援を送りながら競い合う姿が見られました。



上手にボールを回す作戦を立てました！



じゃんけんリレーに興じる児童生徒たち

1月17日（金）小中合同遊び④

1年生から9年生まで全員で楽しめるゲームを考え，みんなで楽しみました。

しっぽとりゲームや風船運び等，小中混合のチームで協力して競い合いました。



中学生のしっぽとりに走り回る児童たち



チームで協力して風船を運んでいます！

## (6) 学校別行事

### ① 広南劇場（広南中文化活動発表会）

#### 1 目的

- (1) 総合的な学習の時間の取組を中心に、文化的な活動の成果を発表することで、保護者・地域の人に感謝・貢献の気持ちを伝えるとともに、広南中教育に対する理解を得る。(感謝・貢献)
- (2) 総合的な学習の時間における新たなことへの挑戦や、探求的な学習を中心に、その成果を「学年アピール」として発表する過程を通して、生徒の表現活動に対する意欲・関心を育てるとともに、総合的な表現力を高める。(思考力・表現力) (情報収集力) (協働的な態度) (挑戦心・探究心)
- (3) 「広南劇場」というネーミングのもと、地域に愛される特色ある文化活動発表会にすることで、達成感を味わわせるとともに広南中学校の生徒としての誇りと自信をもたせる。(責任感・使命感)

2 日時 平成28年10月15日(土) 9:00~14:30

3 テーマ 『夢に向かって ONE UP』

#### 4 日程

##### 第1部 舞台発表の部「広南劇場」

【オープニング】書道パフォーマンス(映像)



箏と尺八の演奏



【合唱コンクールの部】クラス合唱



全校合唱



【舞台発表の部】意見発表「はじめて見えたもの」



文化活動部による発表「SNSについて」





【1 学年アピール】「落語」



「幕間の出し物」(手品・ダンス等)



【2 学年アピール】「起業企画プロジェクト」もくりんダンス



販売ブース



【3 学年アピール】「(創作劇) いつかみんなで守るべき未来を・・・」



## 第2部 展示発表の部

校舎内で美術・技術家庭等の授業で制作した作品や匠の時間で作成した掲示物，小学生の作品などを体育館や図書室で展示

### 【生徒の感想】

○取り組みを通して，こうやって頑張りを積み重ねることによって，信頼が生まれてくることを学びました。頑張ることは大切だということを改めて知りました。

○今年の広南劇場の取組を通して，地域の方に尺八を教えてもらったり，衣装を作ってもらったりとたくさんの迷惑をかけていることに気が付きました。そして，地域の人たちにやってもらったことに気づき，「いつもありがとう」という気持ちを伝えたいと思えるようになったので，この感謝・貢献という能力は大きく成長したと思います。この思いは，協働的な態度にも少しつながっていると思います。なぜなら今まで自分のことばかり考えていた僕が人の気持ちを考え，人のために動こうという気持ちになっているからです。みんなと取り組むうちに，少しずつ自分の考えや行動が変化していくのがわかりました。

○今回の広南劇場では自分が成長しただけではなく，クラスの雰囲気もよくなり，友達の良い所を新たに見つけられたし，さらに団結したりすることができました。

## 平成 28 年度「保護者との連携～休日開催を視野に入れた魅力ある行事の創造～」

### 1 本校の教育活動推進上の課題

本校の教育活動推進上の課題のひとつとして、保護者との連携において、「近年、共稼ぎの家庭が多く、保護者の学校教育への参画意識がやや乏しい」ことが挙げられる。その課題の克服に向けて、本年度は、「休業日開催を視野に入れた『魅力ある行事の創造』」に取り組んだ。

### 2 平成 28 年度の取組について

#### (1) PTA 総会及び授業参観の休日開催

本校においては、これまで PTA 総会及び年度初めの授業参観を平日開催としてきたが、生徒数の減少と仕事を持つ保護者の増加に伴い、その参加率は年々減少している。

年度初めの「PTA 総会と授業参観」は、保護者と教職員が初めて顔を合わせ極めて重要な行事であるため、平成 28 年度から休日開催にすることとした。その結果、保護者の出席率が昨年度の 64% から 85% 大幅に向上し、PTA 総会も大変盛り上がった。



【第1学年授業参観の様子】 【第2学年授業参観の様子】 【第3学年授業参観の様子】 【部活参観の様子(文化活動部)】

#### (2) 「学校へ行こう週間」を意識した「PTC レクを含む魅力ある行事の創造」

広島県では、11月1日からの1週間を「学校へ行こう週間」とし、保護者や地域の方々の学校に対する理解をより一層深め、「開かれた学校づくり」の推進に向けた取組の発信を全県的に進めている。

本校では、11月6日(日)に、「参観・学校説明会・PTC レク」を開催した。第1校時を全学年「道徳」とし、TT 指導による「豊かな心」の育成に向けた授業を保護者・地域の方に参観していただいた。第2校時は、「学校説明会」とし、第1・2学年は、「学力調査結果」、「新たな学力観」を基にして、これから生徒・保護者・教職員が取り組むべきことについて教務主任及び研究主任が説明を行い共通理解を図った。第3学年は、「入試に向けての心構えや手続き上の諸注意」について進路指導主事が説明を行った。特に、第1・2学年の保護者は、新たな学力観や入試問題傾向について知る貴重な機会となった。さらに、第3・4校時では、誰もが気軽に楽しめる「ビーチボールバレー大会」を開催し、生徒・保護者・教職員の絆を、より一層深めた。この新たな取組は保護者にも大好評で、また是非実施してほしいという意見が多く、「知・徳・体」の育成に向けて大変有意義な催しとなった。



【第1学年道徳の TT 授業】 【1・2 年生・保護者合同説明会】 【3 年生・保護者合同入試説明会】 【大好評を博した PTC レク】

### 3 平成 29 年度に向けて

29年度も、保護者と教職員の初顔合わせである「PTA 総会」や学校へ行こう週間の「授業参観」等、28年度の出席率の向上を踏まえ、休日開催とする。さらに、大好評を博した「PTC レクリエーション」の継続とともに、魅力的な行事を企画・実施する。

# IV 付録

○平成27・28年度開発単元の紹介

○平成29年度「資質・能力」の育成に係る  
年間指導計画

学習指導案やワークシートは、広南中学校HP (<http://www.kure-city.jp/~hirmc/>) に掲載しています。ダウンロードできますので、多くの方に活用して頂き、ご意見等頂けますと幸いです。

## 目次

### 開発した教科の単元（中学校）

国語科	「伝統文化を楽しもう 平家物語 那須与一」(H27年度開発)	IV-1
国語科	「図表を使って、自分の意見を書く」(H28年度開発)	IV-2
社会科	「地方自治と住民」(H28年度開発)	IV-3
数学科	「比例と反比例」(H27年度開発)	IV-4
数学科	「確率」(H28年度開発)	IV-5
理科	「火山活動と火成岩」(H27年度開発)	IV-6
理科	「光の世界(身のまわりの現象)」(H28年度開発)	IV-7
理科	「天気とその変化」(H28年度開発)	IV-8
音楽科	「日本の伝統音楽・楽器に親しもう」(H27年度開発)	IV-9
音楽科	「日本の伝統芸能を味わおう『能』一羽衣」(H28年度開発)	IV-10
保健体育科	「陸上競技(リレー走)」(H28年度開発)	IV-11
外国語科	「Lesson 4 Enjoy Sushi & Project③」(H28年度開発)	IV-12
職業・家庭科	「地域の食材を使ったおいしい料理で 家族をもてなそう」(H27年度開発)	IV-13

### 開発した総合的な学習の時間の単元（中学校）

第1学年	「魅力的な生き方探し」(H27年度開発)	IV-14
第1学年	「伝統文化を受け継ごう」(H28年度開発)	IV-17
第2学年	「運命の仕事に出会うために」(H27年度開発)	IV-20
第2学年	「広南起業PROJECT」(H28年度開発)	IV-23
第3学年	「FOR THE NEXT STEP」(H27年度開発)	IV-26
第3学年	「未来貢献PROJECT」(H28年度開発)	IV-29

### 平成29年度「資質・能力」の育成に係る年間指導計画

第1学年	IV-32
第2学年	IV-33
第3学年	IV-34

## 「伝統文化を楽しもう 平家物語 那須与一」

## 挑戦問題 『平家物語の書評文に挑戦』

本単元で育成する資質・能力

情報収集能力、思考力・表現力、挑戦心・探究心、責任感・使命感

## 期待される生徒の変容

挑戦問題として「一年生のために『平家物語』の書評文を書く」ということを目標にすることで、挑戦心や使命感を持って、作品の要素をしっかりと読み取っていく活動とする。また、学んだことを自分の言葉で表現することで、表現力の向上を期待できる。さらには、本作品だけでなく文学作品からメッセージを読み取ろうとする学びの意欲が高まることが期待できる。

## 平成28年度 of 取組より

## Before【初発の生徒の振り返りより】

- ・「平家物語」に伝えたいメッセージがあるのかなあと思いました。
- ・冒頭の「無常観」がちよっと難しいなあと思いました。
- ・平家の女の人が、「射てみる」と出てきたのが、なぜだろうかと思いました。
- ・小学校の時に冒頭を覚えていたけど、深い意味があるなあと思いました。



## After【生徒の振り返りより】

- ・書評文を書くことで、「平家物語」のことを深く知ることができました。自分の思いを人に伝えることで、どのようにすると伝わるか等いろいろ工夫することができ、人に意見を述べる時に役に立つと思いました。
- ・集めた情報を使って書評文を書くことで、もう一度頭の中が整理できて良かったです。平家物語からのメッセージが分かるようになってきて面白くなってきました。人の考えや価値観は一人一人違うのだなあと思いました。
- ・最初は何を書くのか分かりませんでした。教科書や資料を見て情報を集めたり、友だちからアドバイスをもらったりすることで、よりよい書評文を書くことができました。
- ・当時の人が書いたものでも、現代の私たちが読んで共感できるものがたくさんあることが、情報を集めていくうちに分かってきました。私たちの世代でも、未来に残す作品ができるといいなと思いました。
- ・何を伝えたかったのかを考え、言葉にして書くことが難しかったけど、言葉にすることでよりはっきり理解することができました。

与一のすごさを実感するために、弓を引いてみる場面



## 平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

- ・四つの場面を読むことで、平家物語の奥深さに触れることができているが、さらに、普遍的な価値へ近づけた書評文を完成にするためには、発問の工夫や、「平家物語」に関する他の資料を効果的に使い、複数の資料から「平家物語」の読解に迫る場面を取り入れた指導案にする必要がある。
- ・ループリックを入れた振り返りシートを作成して、本時の授業がどのような資質・能力を高めているかを生徒自身で意識していけるように改善する。



『平家物語』からのメッセージについて、グループで意見交換する場面

## 「図表を使って、自分の意見を書く」

**挑戦問題** 『ドランプ氏(仮名)を説得するために意見文を書こう!』

本単元で育成する資質・能力

挑戦・探究 知識・技能 情報収集・判断 思考・表現 協力・協働 感謝・貢献

## 期待される生徒の変容

「地球温暖化はデタラメである。」という某国大統領ドランプ氏を説得させるためには、どのような意見文にしなければいけないか、という視点を持ち意見文を作成する。「虎の巻」を作成することで意見文を書くために必要な知識を身につけ、ドランプ氏を説得するためにあらゆる資料やデータを収集することで情報収集・判断、一つのまとまった文章を書くことで、思考・表現の資質・能力を育成することが期待できる。

## 平成28年度取組より

## Before 【初発の生徒の振り返りより】

- ・「虎の巻」を作ると、しっかりした意見文が書けそうな気がしてきました。
- ・どんな意見文ができるのか楽しみです。
- ・「虎の巻」だけで良い意見文が書けるのか、不安です。



情報を分析し「虎の巻」作成中

## After 【生徒の振り返りより】

- ・この学習を通して、情報収集力・判断力が付きました。複数の資料・グラフ等から「今、どの資料が必要なのか」「どんなグラフを使えば分かりやすいか」を考えて選ぶことができ、また自分の考えも広がったと思います。
- ・説得力のある意見文を書くためには、たくさんの資料、そして適切なデータが必要だということが分かりました。
- ・本当に、二酸化炭素の排出量が主な原因で温暖化が進んでいるのか、もっと調べないといけないと思いました。
- ・こんなにたくさんの資料を見ることはなかったので、とても良い経験になりました。どうやったら調べられるのかということが分かるようになりました。インターネットの資料より、本の方が分かりやすいということも実感でき、新しい発見になりました。



図書室での情報収集

## 平成29年度指導計画・ワークシート改善のポイント

- ・完成した意見文を別のグループと交流したので、意見文を再考させることが不完全となってしまった。今回は、意見文を完成させる前に他グループと交流することで意見文の改善点や良い点を指摘し合い、交流後に再度自分のグループで意見文を完成するように計画を立てる。

- ・2年次では、「虎の巻第2弾」として、「説得力のある意見文を書く」ために「虎の巻」の内容を深めていく学習に取り組む。

- ・資料の提供を充実させ、専門書等書籍のある図書館に行くことや、新聞を活用することを適宜準備する。



作成した「虎の巻」



作成した意見文

# 「地方自治と住民」

挑戦問題 『広南校区内の課題を解決するための具体的方法を考える』

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情報収集・判断 思考・表現 挑戦・探究 協力・協働 感謝・貢献

## 期待される生徒の変容

地方自治に関わる情報を整理・分析する中で、自分たちの暮らす地域の課題を解決するための方法を調査する中で、将来の有権者としての自治意識を持つことが期待できる。

## 平成28年度の取組より

### Before 【生徒の振り返りシートより】

- ・なぜ、今までエアコンがつかなかったのか。だれも「つけてくれと言わなかったのかな」と思った。
- ・学校で使えるお金が少ないからだと思うので、教育費を増やしてもらえるようにしてほしい。
- ・呉市立なので呉市がつけてくれると思うが、あまり暑いとは思わないので、なくても構わない。
- ・自分たちで募金をして、そのお金でエアコンをつけてもらう。
- ・エアコンをつけてくれるように署名運動をして市長さんをお願いすればいい。



グループで情報交流する姿

### After 【振り返りシートより】

- ・教育委員会などの学校に関わる部署をお願いをするために、理由などをちゃんと考えていく必要があることがわかった。
- ・近くにいる市議会議員は予算を承認したりする権限を持っているので、直接必要な理由とともにお願いする。
- ・市長や市議会議員の選挙をする時に、エアコンをつけてくれるという約束をしてくれる人に投票してもらう。
- ・他の市では住民投票で、エアコンを設置してくれるよう保護者達が要望していた。住民の権利として直接請求権を利用できることがわかった。



発表の準備をする姿

## 平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

「エアコンを学校に付ける」という身近な課題を解決するために、自分たちにできることを考える中で、地方自治体の仕事としくみ、さらに住民の権利について、インターネット等を使って調べて、交流した。来年度は地域の中にある課題を挑戦問題とすることで、より身近なものとなるよう改善した。また、地域の人で実際に活動している方の取組をしっかりと聞き取り、自分たちの取組と比較させ、実社会における問題解決の方法を学ばせる。

単元名

「比例と反比例」

挑戦問題 『関数を利用して地球を救え！』

本単元で育成する資質・能力

思考・表現

協力・協働

期待される生徒の変容

数の範囲が拡大されたことにより、未来や過去など未知の数量をも推測することができる関数の良さに気付かせることにより、生活の中での2つの数量関係に興味を持ったり、比例・反比例がどの場面で使われているかを考えたりする姿が期待できる。

平成28年度の取組より

Before 【生徒の振り返りシートより】

- ・今日から比例・反比例の学習に入った。小学校でも習ったし、まあまあ覚えていたけど、グラフのことは忘れていました。中学校では新しく何をするのか疑問に思います。
- ・久しぶりに比例・反比例の勉強をした。小学校のときに習ったのに、何で中学生になってもするんだろう。
- ・小学校のときの学習の復習をした。しっかり振り返ることができたのでよかった。この問題を解決するのはまだ先のことだけど楽しみ。
- ・比例・反比例の勉強になった。小学校で習ったことがたくさん出てきたけど、半分以上覚えていなかったので頑張りたい。



年間共通のキャラクターによる挑戦問題の提示

After 【振り返りシートより】

- ・問題を解くときには、グラフや式、対応表を使えることが分かりました。また、式がとても便利だということが分かりました。SAWAI博士を助けることができて本当によかったです。
- ・挑戦問題が無事に解けてよかったです。物語がとても面白くてとても楽しく授業ができてよかったです。SAWAI博士が助かってよかったです！
- ・SAWAI博士を救えてうれしいです。それと同時に比例・反比例の勉強もできてとても分かりやすくてすごかったです。比例・反比例を日頃から探してみたいです。
- ・とても面白かったです。式を使えばいろいろなことが予測できることが分かりました。また挑戦問題を解きたいです！
- ・挑戦問題解決できてよかったです。一人ではできなかったけれど、班で話し合っ解決できたし、よく分かりました。



挑戦問題解決に意欲的に取り組み発表する姿

平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

挑戦問題解決に向けて、知識や技能の習得を積み重ねてきた。来年度は単元内の随所で挑戦問題との関連や解決への道のり等を示すとともに、Sループリックの提示を行い、単元を貫く意欲を持続させたい。また、問題解決の場面で数量関係の式の活用が予想・予測の場面で有効であることに気付かせ、関数の式の利便性を実感させたい。さらに章末では、広南算額にふさわしい問題を作成し、学校に貢献する活動に挑戦させたい。



## 「確率」

## 挑戦問題 『どの箱を選ぶ？確率で考えよう！』

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情報収集・判断 思考・表現 挑戦・探究 協力・協働 感謝・貢献

## 期待される生徒の変容

実験に基づく「統計的な確率」と数学的な表現を用いて根拠をもった「数学的な確率」を比較させながら、確率の概念を育て、確率の求め方を知識・技能として習得させる。さらに事象について、確率の考え方で論理的に考え、予測や判断ができるようになることが期待できる。

## 平成28年度の取組より

## Before 【生徒の振り返りシートより】

- ・今日は新しい勉強をしました。こんなことも勉強することにびっくりしました。本当にできるかどうかわかりません。
- ・こういうのは運だと思ったけど、これがわかると色々有利になるかなと思いました。これから自分たちで考えて求められるように頑張りたいです。
- ・どうやったら確率を求めるのかが全くわかりません。早くどうやって求めるのかを知りたいです。
- ・最初、簡単だと思っていたけれど、じっくり考えると、わけがわからなくなりました。次の時間の実験からしっかり学習して求められるようになりたい。



挑戦問題を提示したときの笑顔一杯の生徒の反応

## After 【振り返りシートより】

- ・少し変えただけで確率が変わってしまうことに驚いた。確率はいろんなところで使えそうなので、これから役立てることができそうです。
- ・確率は色々な所で活用できることがわかってびっくりしました。日常生活の中でも確率を見つけて、解いてみたいと思います。ケンジくんが元の姿に戻ってよかったです。
- ・はじめは全然わからなかったけど、1つ1つカギを手に入れていくと少しずつわかるようになっていきました。「こういうのも勉強？」とすごく疑問に思ったけど、今では日頃の生活に生かしたらいいなと思います。挑戦問題がすごく楽しかったです。
- ・班の話し合いで、自分とは違う意見を聞いたり、みんなで話し合ったりすると、新しい考えが浮かんできたことがよかったです。また次の挑戦問題を解きたいです。



協働して問題を解決する生徒の姿

## 平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

平成29年度も引き続き「どの箱を選ぶ？確率で考えよう！」という挑戦問題を提示し、ベースになる3つの問題を協働して考える学習で3つのカギ（ポイント）を手に入れる学習を通じて、確率の学習の必要性や確率の考え方を身に付けさせる。その際、Sルーブリックを明確に示すことにより、生徒らの意欲を高く持続させる。

また、事象の予測判断においては、直観や状況判断ではなく、論理的思考に基づいて考えることの大切さを日常でも意識できるように指導したい。さらに章末において確率の活用に、広南算額にふさわしい問題を作成し、学校に貢献する活動に挑戦させたい。

## 「火山活動と火成岩」

挑戦問題 『灰ヶ峰は火山か?』

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

協働的な態度

挑戦心・探究心

## 期待される生徒の変容

教科書に載っている火山だけではなく、自分たちが住む地域の山が火山であるかどうかについての「挑戦問題」を提示することによって、生徒に興味・関心をもたせ、課題を「自分事」として捉えさせることができた。そのことから、意欲をもって学習していく姿が見られるようになった。

## 平成 28 年度 の 取組 より

## Before 【生徒の振り返りより】

- ・法事で親戚が集まった時、親戚の人から「あの山は昔、火山だったんだ」と聞いたことがあったので、灰ヶ峰は火山だと思う。
- ・広島にも世羅町に火山があることが分かった。火山が急に噴火したら怖いなあと思いました。
- ・呉市の山が火山どうかなんて、考えたこともなかった。もし、灰ヶ峰が火山だったら、びっくりです！



灰ヶ峰山頂付近で採取された岩石を、真剣に鑑定している生徒



## After 【生徒の振り返りより】

- ・私は、灰ヶ峰は火山だと言えると思います。理由は火山岩のなかまの流紋岩があったからです。活火山じゃないけど大・大・大昔には噴火をしていたかもしれないと思いました。
- ・火山か火山でないか、みんなそれぞれの意見を持っていてすごいなあと思いました。
- ・野呂山は火山なのかどうか、灰ヶ峰と関連はあるかを知りたい。
- ・花崗岩と流紋岩がくっついているのは、盛り上がった噴火だからという意見に「ああ、なるほど!」と思いました。野呂山からも岩石をとってきたら、本当のことがかなり分かると思います。
- ・僕は、灰ヶ峰は火山だと思う。それは岩石が流紋岩だったので爆発的な噴火を起こしたと考えられるから。そして火山灰が積もったので「灰ヶ峰」というのだと思う。

## 平成 29 年度 指導計画・ワークシートの改善のポイント

- ・毎時間設定する予習課題や復習課題を、図書室の理科事典による調べ学習の充実により学習内容を定着させたり、次回の授業に興味をもたせたりする。
- ・ワークシートの改善やICTの活用で、説明時間を短縮し、岩石や鉱物などの観察時間を十分に確保することで、今以上に生徒の「観察眼」を育てることができる。
- ・レポート作成を夏季休業中の課題として出題したため、学習内容を忘れてしまい、十分なレポートの作成には至らなかった。来年度は、早いタイミングでレポート作成にとりかからせる。

## 「光の世界(身のまわりの現象)」

挑戦問題 『望遠鏡のしくみを解明しよう』

本単元で育成する資質・能力

感謝・貢献 責任・使命 挑戦・探究 協力・協働 思考・表現 情報収集・判断 知識・技能

## 期待される生徒の変容

身のまわりの光に関する現象から実験や観察を通して法則性を見出すとともに、知識・技能を活用して、望遠鏡でものが大きく見えるしくみを説明できる姿。

## 平成28年度の取組より

最初に望遠鏡を制作する過程の中で凸レンズによる様々な視覚現象を体験させながら、挑戦問題を提示した。これを受け、解決するためには凸レンズなどを光がどのように進むのかなど、光の進み方についての法則性を見出し、光の進路を予測できるようになる力が問題解決に必要なであることに気づかせた(課題発見)。そして、反射や屈折、凸レンズなど、課題設定を行い、実験を通して規則性や法則性を見出させ、その法則を活用して、反射や屈折、凸レンズなどの光の進路を自由に予測できる力を付けることで、問題解決の力を育てた。最後に、挑戦問題を解かせることで問題解決を図り、発展問題として、顕微鏡のしくみなどの解明へもつなげた。

## Before 【生徒の振り返りより】

- ・望遠鏡を作って外の建物を見たら、物が拡大して見えた。
- ・手元の時には上下左右が同じに見えるけど、遠くのもの上下左右が逆に見える。
- ・1つのレンズだけで見ると通常通りだったけど、2つのレンズでやると上下が逆に見える。
- ・見ようとするものが、遠すぎたらピントが合わないし、近すぎてもピントが合わない。
- ・凸レンズで自分の手を見ると大きく見えたが、遠ざけていくとぼやけて見えた。
- ・凸レンズを使うと外の景色を映すことができ、びっくりした。なぜ、映ったのだろう。



望遠鏡づくりを通して、凸レンズの疑問を発見！

## After 【生徒の振り返りより】

- ・望遠鏡の仕組みを、自分たちが習った知識だけで解明することができることが驚いた！顕微鏡の仕組みも分かったのでうれしい！
- ・望遠鏡の仕組みを自分の言葉で説明できなかったけど、先に合格した班の人に教えてもらって言えるようになったのでよかったです。
- ・望遠鏡の仕組みについて知ることができました。顕微鏡も分かりそうなので、考えていきたいです。
- ・望遠鏡の仕組みを解明できたけど、顕微鏡の仕組みが説明できなかったの、早く解いてスッキリしたいです。



先に合格した生徒が、班員に仕組みを教える。

## 平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

- ・本時の「めあて」に対する「資質・能力」を見取るルーブリックを作成し、毎時間、自己評価させるとともに教師評価をつけたものを返す取り組みを行う。
- ・各授業においてSルーブリックを明確に示すことにより、生徒の学習意欲を高く持続させる。

## 「天気とその変化」

挑戦問題

『雲はどのようにしてできるのか?』

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情報収集・判断 思考・表現 挑戦・探究 協力・協働

## 期待される生徒の変容

気象に関わる情報を収集し、整理・分析する中で、雲が発生する原理や天気の変化の規則性を見つけ出し、それらを活用して、自ら毎日の天気を予測しようとするようになることが期待できる。

## 平成28年度の取組より

## Before 【生徒の振り返りシートより】

- ・雲にはいろんな種類があることが分かった。でも、まだ「積雲」くらいしか分かりません。
- ・今日から天気の勉強に入りました。なぜ雲はいろんな形に変わるのか、とても疑問に思います。私は雲を見るのが好きなので、毎日見て、雲の名前を完璧に覚えられるように頑張ります。
- ・最終目標の天気図が読めるようになりたいです。
- ・天気図は、いろんなことが書いてあって、ごちゃごちゃしていましたが、それだけたくさんの情報があると思うので、情報を正しく理解して、天気図が読めるようになりたいです。



雲をつくる実験

## After 【振り返りシートより】

- ・最初は、雲の名前すら知らなかったのに、勉強を通して今では雲の名前が言えるし、雲を見ただけで明日、明後日の天気がある程度予想できるようになったことがすごいです。
- ・今まで、天気予報のマークだけを見ていたのが、天気図を見ただけで天気が分かるようになった。そして、天気の学習はこれからも役に立つので、学べてよかったです。
- ・はじめは、テレビで天気概況を見たり、聞いたりしても、難しい言葉や図でよく分からなかったけど、今では天気図や雲を見て、これからの天気や雲の動きを自分で予測することができます。
- ・天気図をはじめから書くなど、他の学校ではやらないことに挑戦できたのでよかったです。
- ・天気図をかくとき、はじめは難しかったけど、友だちに聞いたり、自分で考えたりしながらやっていくうちに、かけるようになりました。
- ・テレビで天気図を見ても、まったく分からなかったのが、今では天気図を見たら、「明日雨が降るな。」とか予想できるようになりました。



天気図を作成しているところ

## 平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

雲の発生や気温の急激な変化など、身近な気象現象について天気図を見ながら自ら予測しようとする生徒が見られたり、天気を予測することで役立ち感を得た生徒が見られたりした。そこで、これまでのルーブリックを見直し、これまでの知識・技能を活用し、根拠をもって天気の予測ができるというSレベルを設定することで、さらに多くの生徒の挑戦意欲を高めていく。

## 単元名

## 「日本の伝統音楽・楽器に親しもう！」

挑戦問題 『日本の伝統楽器「尺八」の素晴らしさを伝えられるようになろう』

## 本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情方収集・判断 思考・表現 探究・挑戦 使命・責任 協働・協力 感謝・貢献

## 期待される生徒の変容

日本という国に生まれながら、「日本の伝統音楽」に触れる機会が少ない生徒たちに、本題材を通して、尺八の音色に親しみ、様々な奏法による音色の変化を感じ取り、尺八の魅力を味わわせるとともに、実際に和楽器に触れ、体験することで、我が国の伝統音楽への理解の深化を図ることが期待できる。さらに、第2・3学年の総合的な学習の時間「匠の時間」での尺八・箏のより一層の技能の習得や第3学年の英語の時間での「我が国の伝統文化を外国の人に伝えよう」等、教科横断型課題解決学習を通して、グローバル人材の育成を図ることが期待できる。

## 平成28年度取組より

## Before 【初発の生徒の振り返りより】

- ・尺八には今まで習ってきたリコーダーなどの楽器と違って、とても沢山の奏法があることが分かった。
- ・低い音が出るのかと思っていたので、意外と音が高かったことに、驚きました。
- ・昔は一般人が扱うことができない楽器だったことを知りました。
- ・尺八の音の変化や、奏法を予想することが楽しかった。



【ICTを活用しての情報収集】

## After 【生徒の振り返りより】

- ・尺八は穴が大きいので指でおさえるのがとても難しく良い音は出なかったけど、練習すると吹けるようになってとても楽しかった。
- ・指導の先生から、何度間違っても「ばっちり」と言ってもらえたことがうれしくて、尺八が面白いと思った。
- ・最初はなかなか吹けませんでしたでしたが、音が出るようになると達成感が大きかったです。
- ・今回、尺八を経験して日本の文化の一つでも多く知り、広めたいと思いました。



【音楽的な感受での尺八活用】

## 平成29年度指導計画改善のポイント

- ・次年度は、新たに開発した目標に準拠したSループリックを活用することで、学習意欲の高揚と指導と評価の一体化を図りたい。また、そのためにも、ICTの有効活用を踏襲・発展させ、効果的な情報収集と知識の深化を図るとともに、個人・集団思考や「振り返り」の時間の確保と充実を図る。
- ・今年度より、尺八の講師（岩城先生）を招いて器楽と鑑賞の一体化を試みた。歴史や尺八の奥深さについての学習後に器楽を行うことで、生徒の関心を高めたり、演奏できた喜びや楽しさを味わわせたりすることができた。次年度については、奏法のポイント等のより効果的な習得に向けて、授業時数の再考や講師との密接な連携が必要である。
- ・グローバル人材の育成に向けて、まず、地域や我が国の伝統文化の理解が重要であることを生徒により意識させるとともに、「匠の時間」講師や英語科との連携を密にし、「教科横断型課題解決学習」の内容の充実を図ることが重要である。 【「鑑賞と器楽の一体化」講師の指導による尺八の練習場面】



単元名

## 「日本の伝統芸能を味わおう『能』一羽衣」

挑戦問題 『能の魅力を伝えよう』

本単元で育成する資質・能力

情報収集・判断 思考力・表現力 探究・挑戦 責任感・使命感

## 期待される生徒の変容

授業の初めに、「ALTに能の魅力を伝えよう」という挑戦問題を設定し、日本人でありながら「日本の伝統音楽」に触れる機会が少ない生徒の学習意欲の高揚を図るとともに、既習事項である狂言と能の相違点を発見させることで、それぞれの特徴や音楽的な工夫について感じ取らせる。次に、能の基礎知識や謡・囃子についての知覚・感受を基にして、「羽衣」の場面を絞って鑑賞し、能の魅力を味わわせ、その良さについて根拠をもって批評させることを通して、古くから今日まで受け継がれてきたその価値について気付かせることが期待できる。さらに、英語の時間での「我が国の伝統文化を外国の人に伝えよう」等、教科横断型課題解決学習を通して、グローバル人材の育成を図ることが期待できる。

## 平成28年度取組より

## After【生徒の振り返りより】

- ・狂言と違い、能は謡いで表現していることが分かった。楽器が入るだけで雰囲気が変わりました。
- ・能では主人公ではあるシテが面をつけて演じること、明るい場面では謡いかけ声が入り、雰囲気を盛り上げているなど感じました。
- ・場面1と場面2の違いをたくさん見つけることができ、暗いイメージから明るいイメージが変わったり場面の雰囲気を想像できた。
- ・狂言には地謡がなく、一人一人の掛け合いで表現していたけど、能には場面が変わると複数で謡い音楽にしていた。
- ・能は謡い方や謡いの人数、リズムや音色などで人物の気持ちが表現されていることがわかった。
- ・謡と言っても、楽器があるときは本当に歌っているようだが、楽器が無いとセリフのように聞こえる。
- ・登場人物の感情を謡で表現していることが凄いなと思った。また、面の工夫など細かなところがとても不思議で日本の伝統を感じる。



【ICTを活用しての情報収集】

## After【生徒の振り返りより】

- ・羽衣では、天人の独特な謡と囃子、地謡の歌い方の変化によって天人のいろいろな感情を表現している。
- ・能は、能楽師、囃子、地謡が揃って支え合って初めて良い作品を作ることができるのだとおもいます。
- ・能の舞台はさまざまな場面に変化するのでイメージすることが大切だと感じました。狂言と違い能の話はドラマのような感じで進行していくので、そこも魅力だと思う。
- ・能の美しさは、少ない動きで演じることです。極限まで動きを少なくするという事は日本ならではの美しさなのです。ぜひ、多くの人に日本の美を広めたいと思った。



【鑑賞での情報収集後の「復習課題」】

## 平成29年度指導計画改善のポイント

- ・次年度は、新たに開発した目標に準拠したSループリックを活用することで、学習意欲の高揚と指導と評価の一体化を図りたい。また、そのためにも、ICTの活用を踏襲・発展させ、効果的な情報収集と知識の深化を図るとともに、個人・集団思考での謡の微妙な変化を感受するための有効活用や「振り返り」の時間の確保と充実を図る。
- ・グローバル人材の育成に向けて、学年を増すごとに、地域や我が国の伝統文化の理解が重要であることを生徒により意識化させるとともに、英語科との連携を密にし、「教科横断型課題解決学習」の内容の充実を図ることが重要である。
- ・能の魅力について、生徒にしっかりと伝えたり、発表させたりするためにも、指導者自身が本物の能舞台を鑑賞するなどして、能の魅力を深く理解しておく必要がある。

単元名

## 「陸上競技(リレー走)」

挑戦問題 『目指せ世界一のリレー！』

本単元で育成する資質・能力

挑戦・探究 協力・協働 思考・表現 情報収集・判断 知識・技能

## 期待される生徒の変容

リオ五輪男子400mリレーでの日本代表チームの活躍を知らせ、銀メダルを獲得した日本代表チームを誇りとし、お家芸であるバトンパスの向上に挑戦する。リオ五輪や自分達のリレーのビデオを見て、情報を収集しながら、バトンパスについて思考力・表現力の育成を図る。その中で意見を交わし仲間と協力・協働することでチーム力、バトンパス技能を磨き、助け合いながら全員で挑戦問題クリアに向けて取り組む挑戦・探究の資質・能力の向上が期待できる。

## 平成28年度の取組より

## Before 【生徒の振り返りより】

- ・挑戦問題「2. 78秒を超えろ」を聞いて、「これ、無理」です。
- ・リレーは好きじゃないので、遅くなくても「アラー」という感じにしか思いません。
- ・1人1人の短距離走のベストタイムの合計より、リレーはバトンパスがあるので遅くなります。
- ・リレーはチーム全員が全力を出さないといけないから大変だなと思います。
- ・チームワークを大切にしながら、タイムを伸ばしていきたい。



## After 【振り返り】

- ・リレーの学習で育った資質・能力は全てであると思う。その中でも一番は情報収集力です。私たちが走ったリレーを先生にビデオに撮ってもらって、それを見て分析すると、バトンパスがうまくいっていなかったの、バトンを受けるときのスタートのタイミングを考える必要性を感じたのでそう思いました。
- ・リレーの学習で思考力・表現力がついたと思います。理由は日本代表選手のバトンパスを見て自分たちのバトンパスと何が違ったかとことと比較して考えました。例えば、「後ろを振り向かず走る」「相手が“はいっ”といったら手を出す」「バトンを渡す時にもう少し大きな声を出す」などです。
- ・私は協働的な態度が身についたと思います。「バトンパスを速くするためにはどうすればいいか」と自分たちのグループで話しあったり、兄弟チームからアドバイスをもらって、練習すると本当に速くなったので嬉しかったし、「こういうことは大切なんだな」と思いました。
- ・挑戦心・探求心の能力が高まったと思います。キャプテンということもあって、自分の中では挑戦問題「2. 78秒を超えろ」を意識し、アドバイスをもらったり、話し合ったりできたからです。
- ・うまくできなかった資質・能力もある。「思考力・表現力」だ。特に友達や先生にアドバイスしてもらったことをうまく実行できなかったところだ。しかし、次回もリレーがあれば今回のことを思い出して、2. 78秒の壁を超えるように頑張りたい。



## 平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

- ・平成28年度は、リレーのタイムを上げるためにバトンパスの受け渡し技術向上に着目をした。しかし実際取組んでみると、「渡す選手は次走者を追い越す」「受ける選手は前走者から逃げる」くらいの感覚で走る意識をもたせることが技術・タイミングの向上にもつながる一番の近道ではないかと考えた。そのことを考慮してワークシートを作成していく。
- ・「脚が速い～遅い」、「バトンパスの仕方について理解が高い～低い」をクロスして4つのタイプに分け、生徒のタイプの特徴を見分けながらすすめていくことも資質・能力を上げるための重要なポイントと考える。
- ・挑戦問題の達成ができなかったの、挑戦問題を「超えろ2. 78秒」から「目指せ世界一のリレー」にし、知識・技能の評価基準を短距離走の4人のベストタイムの合計からリレーで2. 78秒（日本代表）速くなるとS, 1. 62秒（ジャマイカ代表）速くなるとA, 4人のベストの合計より速くなるとB, 同タイムより遅ければCと修正する。

## 「Lesson 4 Enjoy Sushi &amp; Project③」

挑戦問題 『ALTの友だちに自分たちの町を紹介しよう』

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情報収集・判断 思考・表現 挑戦・探究 責任・使命 協力・協働 感謝・貢献

## 期待される生徒の変容

日本の食文化や自分の町に関心を深めるとともに、There + be 動詞+～や動名詞を活用し、外国人の関心・興味に合わせて自分たちの町について紹介する力が身に付くことが期待できる。

## 平成28年度の取組より

## Before 【生徒の振り返りシートより】

- ・英語で質問したりまとめたりするのは大変だなと思います。でも、今まで勉強したことを使ったら、何とかできそうな気がします。
- ・初めて会う外国の人にどうコミュニケーションをとればいいのかと思います。
- ・外国と日本の違いを知りたいと思います。



## After 【振り返りシートより】

- ・どこが大事でこういうときに使えるということがよりわかるようになった気がします。それに、授業中も、この言葉が使えるなどになりました。言葉がどんどんうまっていくと、うれしいし楽し

いと感じられました。

- ・以前は、文の意味がわからなくてもとりあえず暗唱していたが、意味をしっかりと理解しないと表現をまとめられないし、わからないところも出てきて、先生に質問するようになりました。今までぼーっと読んでいたのが変わりました。
- ・準備をしていくうちに自分たちの町で知らないところや物事を知ることができて、だんだん楽しくなりました。
- ・教科書に載っている表現を「ふーん」という感じで知るだけでしたが、どんなふうに使えば、どんな場面で使えるかなと意識することが多くなりました。
- ・紹介する場所に、前より興味をもつようになりました。英語にも「こんなふうにするんだ」などと思うようになり、案外おもしろいと思いました。人に興味をもたせるために、自分の知らなかったことや初めてのこともあって楽しかったです。
- ・外国の人と話すことに興味がなかったけど、自分の言葉が通じるのでうれしくなりました。
- ・みんなの説明を聞いて、自分の説明を工夫したり参考にしたりすることができました。



呉名物を試食し、好みを尋ねる



狂言「附子」を英語で演じる

## 平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

前年度と比較すると創意工夫のあるグループが少なく、教師のアドバイスが必要となり改善に時間がかかった。学級集団によっては、前年度の上手なグループの紹介をビデオに残して見せ、他のグループとの競争心を奮い起こす工夫も必要である。これまでに総合的な学習の時間等で身に付けたことを生かすことで、さらに生徒の協力・協働の姿を高めていきたい。指導案においては、評価基準に資質・能力のルーブリックが活用できるよう改善した。



単元名

# 「地域の食材をつかったおいしい料理で家族をもてなそう」

**挑戦問題** 『家族のための究極の甘夏みかんゼリーを作ろう!』

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情報収集 思考・表現 挑戦・探究 責任・使命協力・協働 感謝・貢献 感謝・貢献 責任感・使命感

## 期待される生徒の変容

なかなか表現しにくい「家族への感謝の気落ち」を、自分の作ったゼリーを多くの人に食べてもらい、様々な意見を集めたいうで究極のゼリーを決定することで、自信をもって家族をもてなし、感謝の気持ちを表現することができる。

## 平成28年度の取組より

### Before 【初発の生徒の感想より】

- ・「広島や呉のもので作ってみたらどうだろう。」
- ・「家でおじいちゃんを作っているところてんの材料はゼリーになるかな。」
- ・「ぼくが作ったものを喜んでくれるのかなあ。」
- ・「いろんな人に食べてみてもらったら、どうなるかな。」



レシピや寒天とゼラチンの違いについて情報収集している。

### After 【研究終了後の生徒の感想より】

- ・「海藻の天草がゼリーになるので、びっくりした。」
- ・「寒天とゼラチンの違いがよく分かった。」
- ・「どちらが好きな人が多いかなあと考えながら作るのは楽しかった。」
- ・「好みが人によって違うこともわかった。」
- ・「いろんな人の意見が聞けてよかった。」
- ・「家でも作って家族に食べてもらいたいです。」
- ・「一人で作れるようになったのでよかったです。」

## 平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

- ・ワークシートは写真や図を用いてイメージしやすいよう工夫した。また、文章を書くことは、あまり得意ではないので、質問や記入欄はシンプルにわかりやすくして、思考の邪魔にならないようにして、一連の流れがわかりやすくてよかったことがよかった。他教科でも今回のことを生かして、視覚的にわかりやすいものを用意するようになっていきたい。



サンプルづくり

ワークシートの一部とインタビューカード (女性)

	ゼラチン	寒天
見た目	白っぽい	つかへん
味	「ワカメかえん」	
食感	ごりごり	うまい
作りかた	「オレジン」でめん	おぼん
その他	あとでとれた感じ!	ばつえんかえん

インタビューカード

あなたの年齢は? 10代 20代以上

好みのゼリーはどっち?

A B

それはなぜですか?

# 「魅力的な生き方がし」

**挑戦問題** 『あなたはいくつの人生を知っていますか？』

本単元で育成する資質・能力

情報収集力 思考・表現力 協働的な態度 挑戦心・探究心 感謝と貢献 使命感

## 期待される生徒の変容

単元の最初に出会う「運命の本」は、あえて生徒の興味の対象外の本とし、その本の中の人物の生き方を深く読み取らせる。収集した情報もとにしたビブリオトークの取組では、思考・表現力の向上が期待される。ビブリオトークでの表現活動を通して、他の人の「運命の本」で出会った様々な生き方を知り、考え方の視野を広げることで、自分の生き方につなげて考えようとする態度を育てる。

## 平成28年度取組より

### Before【初発の生徒の振り返りより】

- ・私はいつも自分の気になる本ばかり読んでいたので、野球の本は読んだことがなかった。でもこれも運命だと思いしっかり読みたい。
- ・私の運命の本は平和を訴える本でした。今度広島にオバマ大統領が来られる予定なので、平和の大切さを知ってほしいです。ビブリオトークでしっかりみんなに伝えたいです。
- ・自分が選ぶことはそうそうないだろうという本を読むことになりました。ガリレオ・ガリレイについてしっかり伝わる文を書きたい。



出会った運命の本に没頭する生徒

### After【ビブリオトーク終了後の生徒の振り返りより】

- ・本を読んで大切な所には付箋を貼り、本から生き方のキーワードを見付ける情報収集力が伸びた。フリップを使って上手にまとめる思考力・表現力も伸びたと思う。
- ・この学習を通して伸ばせたことは「感謝・貢献」です。私が地域・家族に貢献するには「お祭りに積極的に参加」したり、「お年寄りの家に行って話し相手になる」ということが大切だと思います。
- ・たくさん練習することで、協働的な態度もずいぶん伸びたと思う。これから社会に出て、仕事でプレゼンテーションをすることがあると思う。その時にどれだけ聞き手にわかりやすくできるかで変わってくるのでもっと発表して思考・表現の力を伸ばしていきたい。



フリップを試行錯誤して作成

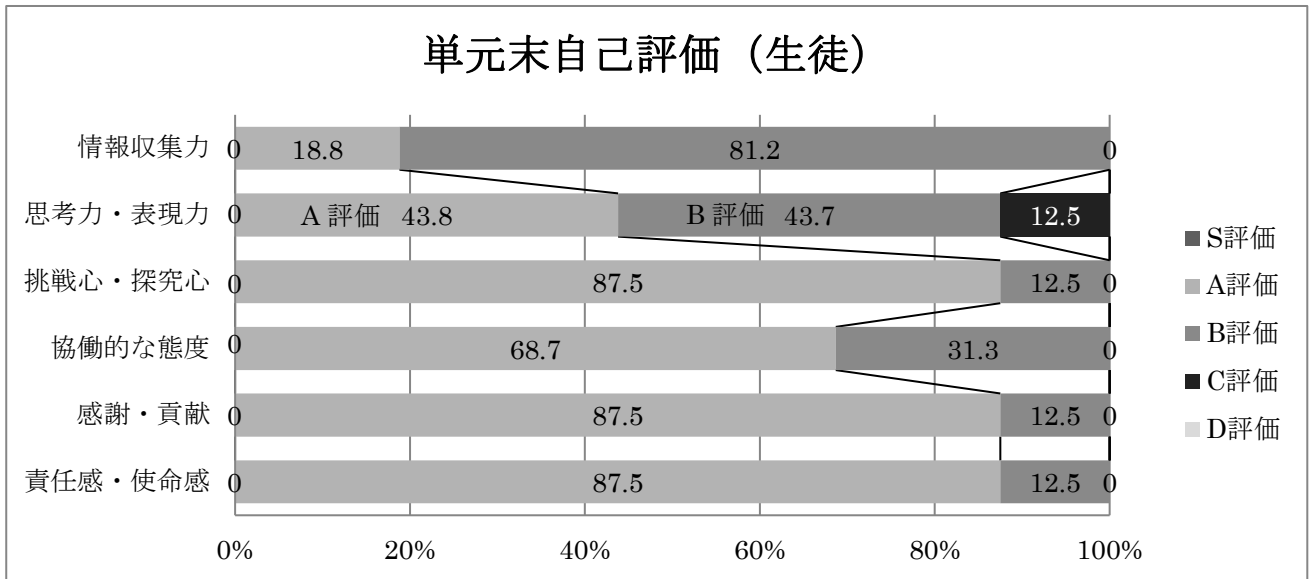
## 平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

- ・今年度は本の選定については前年度よりも生徒に適したレベルのものを準備することができたのでスムーズに進行することができた。生徒の実態把握がとても重要であることがわかった。
- ・限られた時間内での取り組みであることから、テーマで何人かの人物の生き方を紹介している本よりも、一人の人物の生き様に絞った内容の本が適しているのので、選定の際に注意する。
- ・本を読み終わった後もその人物についてインターネットや別の本で調べることが、その人物の生き様を理解する上で大切なので、運命の本にはできるだけ早く出会わせることが必要である。
- ・生き方を伝える原稿作成が重要になってくるが、聞き手を意識した表現をするためのフリップ構成や人を引き付けるプレゼンテーションの仕掛けの工夫も大いに考えさせたい。



ビブリオトークで堂々と発表！

平成28年度「魅力的な生き方がし」の取組の振り返り



### 単元で使用したルーブリック

資質・能力及び態度	評価基準
① 情報収集力	A 課題の書籍で疑問に思ったことについて自分で調べたりしてすることができた。 B 課題の書籍の中から生き方のキーワードを見つけることができた。 C 課題の書籍に興味を持って、付箋をつけながら読むことができた。
② 思考力・表現力	A フリップだけでなく、話し方など相手を引きつける工夫することができた。 B 自分の考えを加えて原稿やフリップにまとめることができた。 C わかったことを原稿やフリップにまとめることができた。
③ 挑戦心・探究心	A 難しい本でも役に立つ本であれば読んでみたい。 B 少し努力すれば読める本であれば読んでみたい。 C 自分が読めるような本であれば読んでみたい。
④ 協働的な態度	A 自分や友達の発表だけでなく、先生や保護者などいろいろな人の力も借りることで、考えをより深めることができた。 B いろいろな友だちの発表も聞くことで、考えを深めることができた。 C いろいろな友だちの発表もがんばって聞くことができた。
⑤ 感謝・貢献	A 将来は、仕事をするを通して家族・地域・社会に貢献したい。 B 自分が、いろいろな人のおかげで生活できていることに感謝したい。 C 自分は、いろいろな人のおかげで生活できていると思う。
⑥ 責任感・使命感	A ビブリオトークを通して学んだことを自分の生き方に生かしていきたい。 B ビブリオトークを通して学んだことは、自分の生き方にとって有効だと思う。 C ビブリオトークを通して学んだことは大切だと思う。

#### ○成果

第1学年の総合的な学習の時間の単元「魅力的な生き方探し」は、本校でつけた資質・能力のうち、「感謝・貢献」では「将来は、仕事をするを通して家族・地域・社会に貢献したい。」「責任感・使命感」では「ビブリオトークを通して学んだことを自分の生き方に生かしていきたい。」「挑戦心・探究心」では「難しい本でも役に立つ本であれば読んでみたい。」という生徒が80%を上回り、「協働的な態度」では「自分や友達の発表だけでなく、先生や保護者などいろいろな人の力も借りることで、考えをより深めることができた。」の項目でも60%を超えている。このことから本単元は生徒にとって資質・能力の成長を感じられる学びがいのある単元であったと考えられる。

●課題

「情報収集力」では付箋読みの指導の結果、B評価の「課題の書籍の中から生き方のキーワードを見つけることができた。」については生徒の割合は80%以上もいたが、A評価の「課題の書籍で疑問に思ったことについて自分で調べたりしてすることができた。」については生徒の割合は低かった。これは、調べ学習の時間を確保していなかったことに原因があり、インターネットや書籍で調べた生徒のみがA評価をつけたためと考えられる。また「思考力・表現力」ではC評価の「わかったことを原稿やフリップにまとめることができた。」にとどまった生徒もおり、今後は「自分の考えを加える」ための指導や、「相手を引きつける工夫」の指導も充実させる必要があると考えられる。

第1学年の生徒の自己評価（一部抜粋）

僕は「魅力的な生き方」を、の学習を終えて、自分が良くなったと思う所があります。まず、本を読んで大切な所には付箋を貼り、本から生き方のキーワードを見つける情報収集力が伸びたという所です。**きちんとまとめた成果です。Good**

次は、フリップを使って上手にまとめる思考力・表現力が伸びたという所です。最後は、友だちと練習をして、思ったことを言ったり、先生方にアドバイスをもらったりする協力的な態度が伸びた所です。**本によく勉強して、この機会もこの調子で!!**

この学習を終えて、これからみんなが紹介したり、自分が紹介した本の人物の生き方・人生を参考に、目標にして、元気でいたいと思います。

友人のアドバイスを<sup>上手に</sup>とり入れることで、よりよい発表にできたとグレートアップしてよかったよ!!

この学習を通して伸ばせたことは「感謝・貢献」です。この物語にも世界に貢献しているお話なので「感謝・貢献」だと思います。

私が地域・家族に貢献するには「お祭りに積極的に参加したりお年よりの家に行き話し相手になる」ということが大切だと思います。**大切なのは、実行です。**

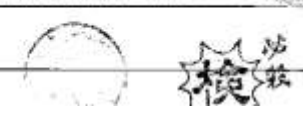
それからたくさん練習もする事ができた。①の協力的な態度もずいぶん伸びたと思う。**いろいろな人の意見をきくから、工夫ができた。**

これから社会へ出て、仕事でプレゼンテーションをする事があると思う。その時にこの学習の分かった事や本で学んだ事が役に立つので、もっと勉強して②をくんと伸ばしていきたい。

きまぐれを克服した改善。よりよいものを生み出すことに役に立ったよ!

今回の取組みはと26良-69でした。

次の報告の内容も工夫してがんばってね!



# 「伝統文化を受け継ごう」～落語に挑戦～

挑戦問題 『たくさんの人を笑顔にできる新しい自分づくりに挑戦しよう！』

本単元で育成する資質・能力

感謝・貢献 責任・使命 挑戦・探究 協力・協働 思考・表現 情報収集・判断 知識・技能

## 期待される生徒の変容

日本の伝統芸能である落語に挑戦し、日本の伝統文化を理解するとともに、表現力の育成を図り、「笑い」や「人を楽しませる」ことの価値に気づくこと、稽古を通して友達と切磋琢磨を行いながら、人を楽しませることのできる自分の成長を感じる中で、主体性を育成する。

最後に、習得した落語を、日頃からお世話になっている方々へ感謝の気持ちを込め、家族や友人、地域の人などの前で披露して楽しんでもらうことで、表現活動の醍醐味を味わうとともに、後期の様々な表現活動へ主体的に取り組むためのさらなる挑戦心を育む。

## 平成28年度の取組より

### Before 【初発の生徒の振り返りより】

- ・正直やる気になっていない。でもとりあえず、できるかぎりがんばろうと思った。
- ・落語をやると聞いて「え～っ？」と思ったけど、笑福亭鶴笑さんのように人を笑わせるというとても良いことがあることがわかりました。みんなの前でやるのは、とても緊張すると思うけど、とてもおもしろそうでした。
- ・私は最初「落語」と聞いて「本当にやるの？」と思った。でも落語を見たり聞いたりしてみて、落語というものに好奇心がわいてきた。本番はどこでやるか分からないけど、成功させたい。
- ・最初は興味がなかったけれど、ジャンボさんの話を聞くとおもしろそうでした。夏休みにしっかり覚えて地域の方をぜひ笑顔にしたいと思います。感謝・貢献できるようになりたいです。



落語の成り立ちや歴史を学ぶ生徒たち



### After 【振り返り】

- ・自分が成長したと思うことは、恥ずかしがらずに堂々と演じることができたということです。最初は落語をするのが恥ずかしくて、恥ずかしそうに落語していました。でも、練習をするうちに恥ずかしさも次第にとけていき、文化祭では堂々と落語を演じ、たくさんの方々の地域の方々の笑顔にすることができました。
- ・本番を演じて感じたことは、落語を聞いてもらう人の年齢によって笑うところが違うということです。中学校で披露したときに爆笑だったところがおじいちゃん、おばあちゃん方には反応がよくありませんでした。逆に中学生の人では笑わないところを大笑いしてくれたり、拍手をしたりしてくれました。
- ・「協働的な態度」も身についたと思います。落語はグループに分かれてやりました。同じグループの友達ももし何かを間違えていたら教えてあげ、逆に私がもし間違えていたら友達に教えてもらいました。もし私が1から10まで全部やるとしたら無理だと思います。先生や友達、ジャンボさん、水龍さんがいてくれたからこそできたことなので感謝しています。また、一人でやるのではなく、グループで助け合いながらやると良いということが分かりました。
- ・私が課題だと思ったところは「思考力・表現力」です。今日、小学生の前で落語をやったときとても緊張して細かい動作を忘れてしまったので、少しだけ後悔しています。でも、終わったときの達成感はとても大きかったです。今までにないような感じでした。

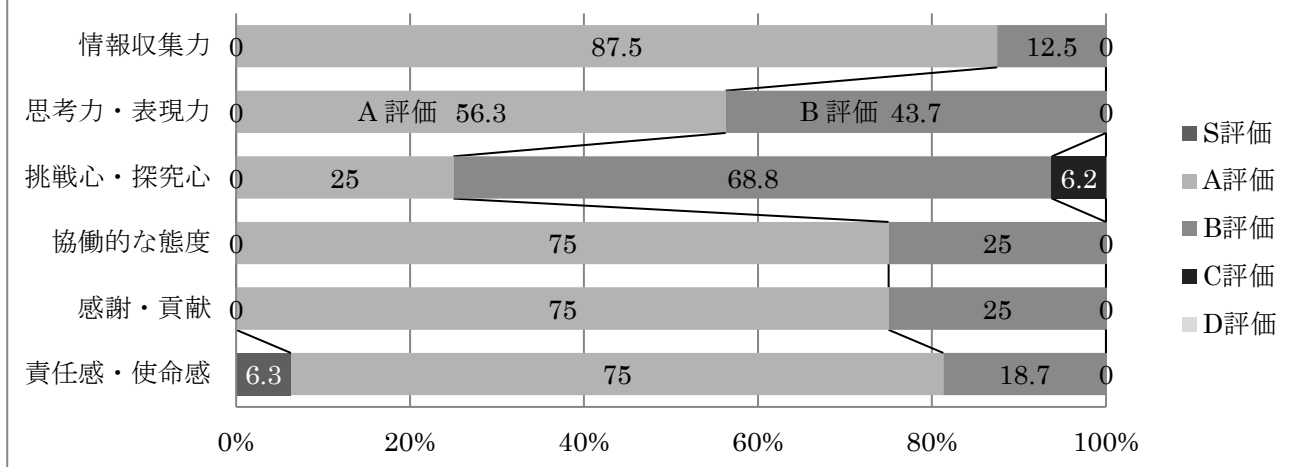


扇子の使い方の指導を受けるようす

## 平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

- ・平成28年度の取組では、ほぼねらい通りの成果を上げることができたが、当初「落語に挑戦！」というタイトルが先行し、挑戦問題も「落語でたくさんの人を笑顔にしよう」と提示したため、上記のような初発の振り返りとなった。来年度は今年以上に「今のままでは、たくさんの人を笑顔にできない自分」に気付かせ（課題発見）、「新しい自分づくり」に挑戦していく（課題解決）過程を前面に押し出したワークシートに改訂し、単元内容を充実させたい。

### 単元末自己評価（生徒）



### 単元で使用したルーブリック

資質・能力及び態度	評価基準
① 情報収集力	A 落語の細かい動作や話し方のコツも覚えることができた。 B 落語を覚えることができた。 C 落語の内容を理解することができた。
② 思考力・表現力	A 落語の技を自分のものにして、上手に演じることができた。 B 落語の技を取り入れて大きな声ではっきりと演じることができた。 C 落語の技を理解することができた。
③ 挑戦心・探究心	A 落語を覚え、どうせなら文化ホールで演じてみたいと思う。 B 落語を覚え、人前で演じることに挑戦したいと思う。 C 落語を頑張って覚えたいと思う。
④ 協働的な態度	A 友だちだけでなく、先生や落語家からの助言を求め、よりよい落語にしようとしている。 B 友だちの演技を参考にしたり、アドバイスをし合うことで、よりよい落語に高め合おうとしている。 C 友だちと教え合うことで、落語を覚えようとしている。
⑤ 感謝・貢献	A 落語を通して、大勢の人を笑顔にできた。 B 落語を通して、大勢の人を笑顔にしようとした。 C 落語を通して、大勢の人を笑顔にしたいと思っている。
⑥ 責任感・使命感	A 落語の良さを大切にしていこうとしている。 B 落語の良さを大切にしていきたいと思っている。 C 落語の良さを理解している。

#### ○成果

第1学年の総合的な学習の時間の単元「伝統文化を受け継ごう ～落語に挑戦～」は、本校でつけた資質・能力のうち、「情報収集力」では「落語の細かい動作や話し方のコツも覚えることができた。

「責任感・使命感」では「落語の良さを大切にしていこうとしている。」という生徒が80%を上回っている。また、「協働的な態度」や「感謝・貢献」の項目でも70%以上の生徒がA評価をつけている。このことから本単元は資質・能力の育成において一定の効果があったと考えられる。

●課題

「思考力・表現力」では、演目別の少人数指導の結果、大きな声ではっきりと演じることはできたが、半数近くの生徒が「落語を自分のものにして演じている」実感が得られていない。そういう意味では「落語」の習得は難度の高い課題とも考えられる。

「挑戦心・探究心」では、A評価をしている生徒が少ないが、これはルーブリックの内容に問題があったと考える。

第1学年の生徒の自己評価（一部抜粋）

6つの資質・能力を評価した内容について、具体的に書いてみよう。  
(自分が成長したと思うこと、課題と思うこと など)

自分が成長したと思うことは、はずかしがらずに堂々と演じることができたこと、  
ということです。最初は落語をするのがはずかしくて、はずかしそうに落語を行って  
いました。でも、練習をするうちにはずかしさも次第にとけていき、文化祭では堂々と  
落語を演じ、たくさんの地域の方々を笑あすことができました。  
落語は、「はずかしいな」、「や、何の意味があるんだらう」と、最初は思  
文化祭で落語をしたら、「落語は人を笑顔にさせる」と、いう意味があること  
を通して、分かった。落語は日本の伝統なので、これからも大切にしていきたい。  
日本の伝統の笑いの力をしっかり理解できました!! 堂々と演じることができました。

⑤感謝・貢献…本番の「おれおれ長流」で、言っ  
ている途中に、ニコニコして聞いてくれるおばあちゃんや  
おいしいちゃんかいて、なにかうれしくて、おちを言っ  
て礼をしたら、笑ってくれたので、「良かった。笑ってくれた、お  
もしろかった人だな」と思った。あなたの元氣張りがこうやって笑いの力  
になって、おばあちゃんたちに届いたんですね!!  
文化祭ではしななかったけど、おいしいちゃん  
おばあちゃんの笑顔が見れて良かった。

2つ目は、思考力・表現力です。どう表現したら見ている人  
に伝えられるのかみんなで考えました。それを表現することは  
相手を分かりやすくするためや、おもしろくするためのものだ  
と、思いました。表現することで笑うところが増えたので良かったです。

## 「運命の仕事に出会うために」

挑戦問題 『いくつの職業の魅力を知っていますか？』

本単元で育成する資質・能力

情報収集力 思考力・表現力 協働的な態度 挑戦心・探究心 感謝・貢献 責任感・使命感

## 期待される生徒の変容

生徒たちは、職業について多くを知らないし、知っているも自分の興味のある範囲の職業や単なる憧れで留まっている場合が少なくない。本単元では、「運命の本」として、あえて生徒の興味の対象外の本と向き合わせ、その本の中の人物の生き方を職業という視点から深く読み取らせたい。また、ビブリオトークを通して交流させることで、職業観を広げ、深めあうとともに思考・表現力の向上が期待される。さらに、本の中に「起業家」のものをいれることで、夏季休業中の職業体験や2学期の起業企画 PROJECT への事前指導としての効果も期待できる。

## 平成28年度の取組より

## Before 【初発の生徒の振り返りより】

- ・これからの将来のためにも選択肢が広がるように色々な職業を知れたらいいなと思います。いざ職業をあげてみると、まだまだ知らないことがあることに気がきました。
- ・どんな仕事があるのか、その魅力について考えましたが、班で話してみると考えが広がりました。それぞれの仕事の魅力はたくさんあると思うので調べていきたい。
- ・運命の本を選びましたが、意外と面白そうな本だなと思いました。しっかり読んで、仕事について知りたいと思います。
- ・職業の魅力を聞かれてもよくわかりませんでした。なので、今日渡された本をしっかり読んで魅力を知ろうと思います。



本から情報収集をする生徒

## After 【生徒の振り返りより】

- ・私が知らない職業があり、たくさん知ることができて良かったし、フリップが上手な人がいたので、次回機会があれば真似をしたいと思います。
- ・情報収集に時間がかかったので、家で作業をした時もありました。自分なりにとても良い発表ができたと思います。話し方も工夫しました。
- ・この本と出会ったとき、嫌で読む気がなかったけど、最後まで読むと「なるほど」と思うことができました。難しい内容を、どうすれば相手に分かりやすく伝えられるかと工夫することが大切だと気づきました。
- ・それぞれの仕事に魅力があり、自分の夢を叶えた人は皆諦めなかったのだと気づき、夢を叶えることは簡単ではないけれど、私も諦めずに頑張ろうと思いました。



集めた情報を原稿にしてい

## 平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

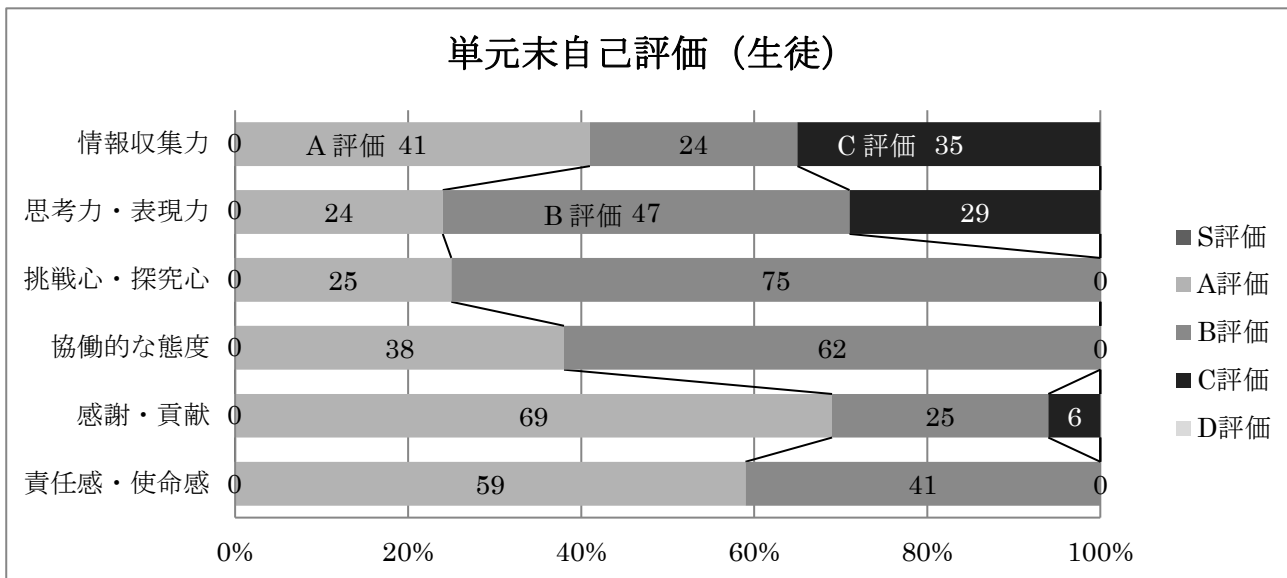


- ・平成28年度は、「職種やその魅力」という挑戦課題を提示したため、上記のような振り返りとなった。課題としては、ビブリオトークを経て職場体験、起業 PROJECT につながらない内容の本もあり、職場体験や起業 PROJECT へ向けての意識づけが徹底されない点があった。次年度は一連の流れを意識した本の選択が必要である。



平成28年度「運命の仕事に出会うために」の取組の振り返り

単元末自己評価（生徒）



単元で使用したルーブリック

資質・能力及び態度	評価基準
① 情報収集力	A 本でわかったことだけでなく、自分が疑問に思ったことなども調べ、その職業の魅力について自分なりの発見をすることができる。 B 本を読んで自分が疑問に思ったことなどについて調べることができる。 C 本の中でわかったことをまとめることができる。
② 思考力・表現力	A 情報収集したことをもとに自分の考えをまとめ、フリップだけでなく、話し方なども工夫して聞き手を引き込む伝え方ができる。 B 情報集したことに自分の考えを加え、フリップを使ってわかりやすく相手に伝えることができる。 C 情報収集したことを、フリップを使って相手に伝えることができる。
③ 挑戦心・探究心	A 起業企画では企画段階からリーダーの一人として関わろうとしている。 B 起業企画では自分から積極的に協力していこうとしている。 C 起業企画では自分に与えられた役割は責任をもってがんばろうとしている。
④ 協働的な態度	A 自分や友達の発表だけでなく、先生や保護者などいろいろな人の力も借りることで、考えをより深めようとしている。 B いろいろな友だちの発表も聞くことで、考えを深めようとしている。 C いろいろな友だちの発表もがんばって聞こうとしている。
⑤ 感謝・貢献	A 将来は、仕事をするを通して家族・地域・社会に貢献しようとしている。 B 自分が、いろいろな人のおかげで生活できていることに感謝したいと思っている。 C 自分は、いろいろな人のおかげで生活できていると思う。
⑥ 責任感・使命感	A 本から学んだ大切なことを、しっかりと実践していこうとしている。 B 本から学んだことは、自分にとって大切なことだと思っている。 C 本から学んだ大切なことは何か、知っている。

○成果

「感謝・貢献」ではA評価の「将来は、仕事をするを通して家族・地域・社会に貢献しようとしている。」、 「責任感・使命感」でもA評価の「本から学んだ大切なことを、しっかりと実践していこうとしている。」生徒が50%を超えている。また、「協働的な態度」ではB評価の「いろいろな友だちの発表も聞くことで、考えを深めようとしている。」、同じく「挑戦心・探究心」ではB評価の「起業企画では自分から積極的に協力していこうとしている。」生徒の生徒が60%を超えている。このことから本単元は生徒にとって学びがいのある単元であったと考えられる。

●課題

「情報収集力」ではA評価の「本でわかったことだけでなく、自分が疑問に思ったことなども調べ、その職業の魅力について自分なりの発見をすることができる。」生徒が40%以上いた反面、C評価の「本の中でわかったことをまとめることができる。」だけにとどまった生徒も35%いた。これは、B評価の「本を読んで自分が疑問に思ったことなどについて調べる」学習を十分に行えなかったことに課題があり、来年度は、この活動をどう仕組み、どう支援すべきか考える必要がある。同様に、「思考力・表現力」でもC評価の「情報収集したことを、フリップを使って相手に伝えることができる。」だけにとどまった生徒も30%近くおり、「わかりやすく相手に伝える工夫のため」の学習を十分に行えなかったことが課題となった。

第2学年の生徒の自己評価（一部抜粋）

この取り組みを通しての感想（学んだこと・友だちの新しい面を発見したことなど）

私が知らなかった職業がいくつかあり、またそれぞれの仕事にも魅力というものがあり、自分の夢をかなえた人はみんなあきらめなかったなと思いました。夢をかなえることは決して簡単ではないけれど、私もあきらめずに元氣長そうに思いました。1冊の本をこうしてまとめるのは大変だと改めて感じました。

チェックしよう

	項目	自己評価	先生から
①	情報収集力	C	調べたことが聞き身に効果的に伝わるように、フリップや説明のしかたを試行錯誤しただけで工夫することばかりです。 相手に伝わるにはどうすればいいの職業の魅力を伝える工夫をしました。フリップだけでなく、話し方や話し内容も伝わるように、試行錯誤しながら頑張っていました。
②	思考力・表現力	A	
③	挑戦心・探究心	A	
④	協働的な態度	B	
⑤	感謝・貢献	A	
⑥	使命感・責任感	A	

	項目	自己評価	先生から
①	情報収集力	A	主人公について情報収集する中で、その人の生き方から地道に努力することの大切さや成果が得られることを学び、発表で表現することばかりでした。自分だけでなく、相手に伝わるように工夫がみられました。 練習をくりかえして、改善できたので、時間短縮と上手いのも大歓迎ね。自信も発表できています。
②	思考力・表現力	B	
③	挑戦心・探究心	B	
④	協働的な態度	A	
⑤	感謝・貢献	A	
⑥	使命感・責任感	A	

この取り組みを通しての感想（学んだこと・友だちの新しい面を発見したことなど）

自分が知っているのは、たまたまにすぎただけで、仕事ははたな仕事から裏などで働く人ばかり仕事もあるけど、そのじみ仕事があったらこの日本が世界がなっているのだと学びました。ほくも、日本は世界の中心にいたいです。

単元名

## 「広南起業プロジェクト」

挑戦問題 『ふるさとに貢献する起業に挑戦しよう』

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情報収集力 思考力・表現力 協働的な態度 挑戦心・探究心 感謝・貢献 責任感・使命感

## 期待される生徒の変容

本単元は、「ふるさと貢献」をテーマとし、生徒たちは、起業のための資金集めや商品開発、広報宣伝等、これまで経験したことがない未知なる課題に挑戦する。仲間と協働しながら課題解決を進めていく中で、様々な課題に向けて主体的に取り組み、将来、自らの力で進路を切り開こうとする実践的な態度を身に付けることを目的にしている。また、探究の過程で、地域の「人・もの・こと」に関わることで、地域への愛着や地域の一員としての自覚が深まると考える。さらに、プロジェクトで得た利益を日本赤十字社に全額寄付することで、社会に貢献することの意義や喜びを実感できると考え、本単元を設定した。

## 平成28年度の取組より

## Before【初発の生徒の振り返りより】

- ・本当に売れる商品が作れるのか不安ですが、楽しみです。
- ・宣伝部になったけど、どんなことをすればいいのかイメージがでないけど、多くの人に広めたい。
- ・社長として、去年よりもいいものが出るように頑張りたい。



起業家に質問をする生徒

## After【生徒の振り返りより】

- ・今回の起業企画は将来必ず役に立つと実感するような取り組みだった。
- ・日頃お世話になっている地域の方々や保護者に感謝の気持ちも伝えられたと思います。起業プロジェクトをしてよかった。
- ・自分が担当する部門で何をすれば良いかを考えて動きました。
- ・宣伝をするためにはどうすればよいか情報収集の方法が身に付きました。



小学校の職員室で起業企画をプレゼンし、出資金をお願いする生徒たち

## 平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

- ・ビブリオトーク→職場体験→起業プロジェクトという流れで生徒に説明をしたので、職場体験についての意識づけはできたが、職場の体験と起業プロジェクトがつながりにくい職種もあり、来年度は職種の再検討をしていく。
- ・「地域貢献」を掲げて取り組んだが、実際には、地域に貢献できていたのかという課題が残った。収益を地域に活用したり、地域の企業と関わったりするなどの改善をしていく。具体例として、印刷会社では、名刺やチラシを作る体験をさせてもらえるので、それを活用して、起業PROJECTのポスター等を作るように業者に依頼する。

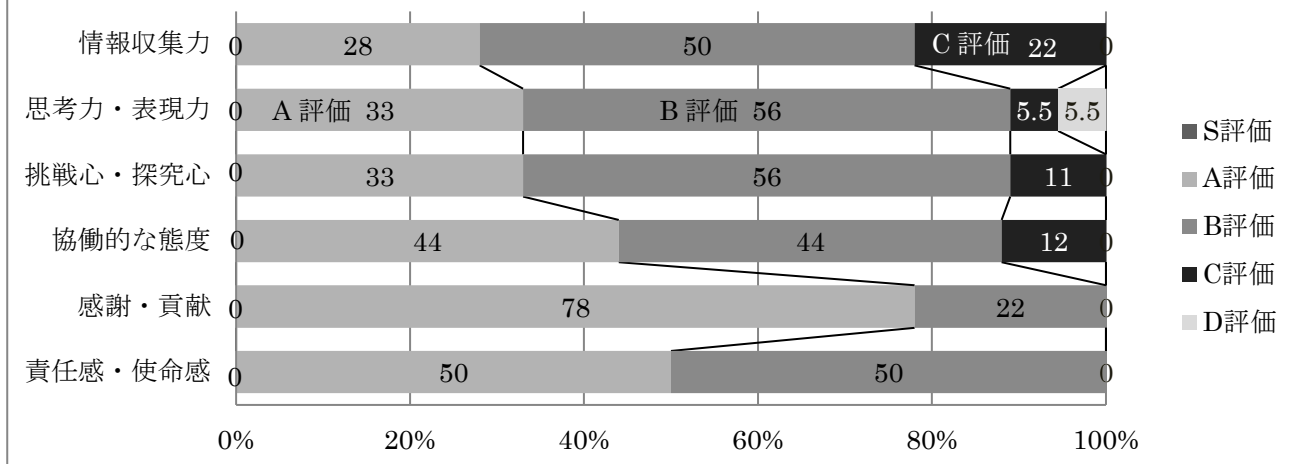


商品製作場面



体育館の一角を販売ブースとして利用

### 単元末自己評価（生徒）



### 単元で使用したルーブリック

資質・能力及び態度	評価基準
①情報収集力	A 起業に向けて、それぞれの部門で活動するために、起業家の話やこれまでの経験を生かし、問題解決に向けて課題を設定し、課題解決へ向けて必要な情報を収集することができる。 B 起業に向けて自分が疑問に思ったことなどについて調べることができる。 C 起業に向けて情報を集めることができる。
②思考力・表現力	A 起業に向けて集めた情報からそれぞれの部門の目的にそって整理・分析を行い、自分の考えをまとめ、分かりやすく表現することができる。 B 集めた情報を整理し、どうすればよいかアイデアを出すことができる。 C 起業に向けて、アイデアを考えることができる。
③挑戦心・探究心	A 起業企画では企画段階からリーダーの一人として関わろうとしている。 B 起業企画では自分から積極的に協力していこうとしている。 C 起業企画では自分に与えられた役割は責任をもってがんばろうとしている。
④協働的な態度	A 課題解決に向け、他者の意見も取り入れ、連携をとりながら企業企画をすすめていく態度である。 B 課題解決に向け、他者の意見を取り入れ考えを深めようとしている。 C 課題解決に向け、周りの意見を聞こうとしている。
⑤感謝・貢献	A 自分が、多くの人の支えの中で生活できていることに感謝し、将来、仕事をすることを通して家族・地域・社会に貢献したい。 B 自分が、多くの人の支えで生活できていることに感謝している。 C 自分は、多くの人の支えで生活できていることを感じている。
⑥責任感・使命感	A 社会の一員として、起業体験から学んだ大切なことを生かし、未来の担い手としての自覚と高い志をもっている。 B 起業体験で学んだことは、自分にとって大切なことだと自覚している。 C 起業体験で学んだ大切なことは何かを理解している。

#### ○成果

2学年の総合的な学習の時間の単元「広南起業プロジェクト」は、本校でつけた資質・能力のうち、「感謝・貢献」の項目でA評価が最も多く、78%の生徒が「自分が、多くの人の支えの中で生活できていることに感謝し、将来、仕事をすることを通して家族・地域・社会に貢献したい」と資質・能力の成長を実感していることがわかる。「責任感・使命感」でも50%の生徒がA評価をつけており、起業体験がそのような資質・能力を育成する効果があることがわかる。

●課題

「情報収集力」ではA評価をつけた生徒が最も少なく、全体の28%だった。これについては、職場体験と並行しての取組みだったため、もう少し、生徒自身に情報収集させる場面設定をする方向で指導計画を練り直したい。

第2学年の生徒の自己評価（一部抜粋）

たと思います。感謝・貢献ではAだと思います。商品の中にもくりんさんを取り入れたり、人形を作ったりして広南をいろんな所に宣伝でき、貢献できたと思います。また、買ってきてくださる地域の方や親、おばあちゃんおじいちゃんに感謝しながらできたと思います。責任感と使命感もAです。この広南中学校

4つ目は、「感謝・貢献」です。私達が起業プロジェクトをすることによって、利益が出て、それを、自然災害にあつたところを赤十字を通して、支援することが出来るとおもっているので社会貢献できたのではないかと思います。（まだ、赤字ですが…）それに、日頃お世話になっている、地域の方々や保護者に感謝の気持ちを少しでも伝えられたとおもいます。起業プロジェクトしてよかったです。

感謝・貢献では、キャリアウィークや起業PROJECTを通して、自分の周りにはたくさんの人、会社があって、それで成り立っていることを感じました。実際に働いてみて、とても大変だということも分かりましたし、それで生活させてくれている家族にも感謝です。

①情報収集力では、Bになってしまいました。理由は、ほとんどの情報を収集してくれたのが先生と部長だったからです。何かいい案があったら教えてお、と言わなかったのに調べていなかったので次からは、しっかりと調べて情報収集力をAにして、オールAにしていきたいです。

## 「FOR THE NEXT STEP」

挑戦問題 『みんなによるみんなのための道探し』

本単元で育成する資質・能力

情報収集力 思考力・表現力 協働的な態度 挑戦心・探究心 感謝・貢献 責任感・使命感

## 期待される生徒の変容

よりよい生き方探しに向け、仲間と協働して情報収集・整理分析することを通して進路に対する視野を広げることが期待できる。また、得られた情報を保護者やクラスメートへの報告会を催し、プレゼンテーションやスピーチを通して思考力・表現力を向上することができる。それぞれの進路選択に向けての自立的な態度と支援的環境を向上させる効果も期待できる。

## 平成28年度取組より

## Before 【初発の生徒の振り返りより】

- ・進学については、うわさより、自分で調べることが重要だと分かりました。両親としっかり話し合うことや、学校の情報を事前に調べるのが大切だと分かりました。
- ・広島県内にこんなにたくさん的高校があることを知りませんでした。それぞれの高校を調べるのは大変そうだと思います。
- ・進路決定に向けて、きちんと調べ、情報を集めておくことが必要だと思います。
- ・高校の情報をしっかり集めておくことが大事だと思います。呉市付近だけでも20校以上もあって、調べられるか不安です。

高等学校の先生を迎えての  
真剣な情報収集

## After 【生徒の振り返りより】

- ・情報収集力がついたと思います。インターネットや、先生方の説明会から得た情報を整理して、みんなに発表することができたからです。
- ・高校説明会で得た情報や自分で調べた情報から、文章を推敲し、その学校の魅力をまとめることができ、表現力がつきました。行きたい進路先を定め、なぜそこに行きたいかが今回の説明会によってはっきりしました。みんなの発表を聞くことから、さらに各学校の特徴を知ることによって、自分に合いそうな進路先を改めて考えることができました。
- ・発表会では、発表する速さが速くなりがちだったので、練習して本番はゆっくり話そうと心がけましたが、本番は速くなってしまいました。次に同じような機会があったら表現力を磨き、だんだん速くならないようにしたいと思います。この発表会を通して高等学校の特色の違いが分かり、どんなことが学べるかがはっきりしました。まだ分からないところもあるので、オープンスクールに参加して、情報を集めたいと思いました。



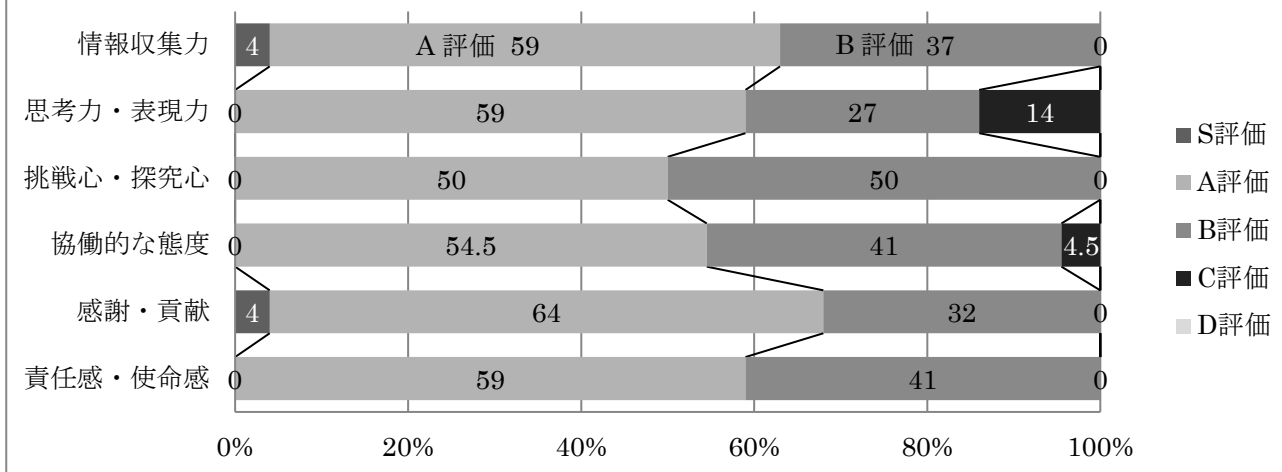
保護者に向け、わかりやすく工夫したプレゼン

## 平成29年度指導計画・ワークシート改善のポイント

- ・生徒たちが自ら企画、実行する機会として捉え、高校説明会の企画の時間数を確保し、説明会の時間数を調整する。
- ・企画、準備では送迎、司会、挨拶、質問等の分担をし、その係毎に原稿や動きを確認、練習する等の時間が必要である。

平成28年度「FOR THE NEXT STEP」の取組の振り返り

### 単元末自己評価（生徒）



### 単元で使ったルーブリック

資質・能力及び態度	評価基準
① 情報収集力	A OSなどにも参加して、資料ではわからなかったことも情報収集できた。 B 知りたいことをパソコンで調べたりして情報収集することができた。 C 進路に関する資料をみたりすることで情報収集することができた。
② 思考力・表現力	A 相手を意識して工夫して表現することができた。 B 調べた内容に自分の疑問や考えも加えて発表することができた。 C 調べた内容はしっかり発表することができた。
③ 挑戦心・探究心	A 困難に思えることでもやる価値のあることには挑戦していきたい。 B 少しがんばればできそうなことには挑戦していきたい。 C 今の自分でもできそうなことには挑戦していきたい。
④ 協働的な態度	A 先輩や先生、家族などの協力も得ることで成果をあげることができた。 B グループで分担し、協力・助け合うことで成果をあげることができた。 C 友達と話し合うことで成果をあげることができた。
⑤ 感謝・貢献	A 将来は、仕事をするを通して家族・地域・社会に貢献しようとしている。 B 自分が、いろいろな人のおかげで生活できていることに感謝したいと思っている。 C 自分は、いろいろな人のおかげで生活できていると思う。
⑥ 責任感・使命感	A この説明会で学んだ大切なことを、しっかりと実践していこうとしている。 B この説明会で学んだことは、自分にとって大切なことだと思っている。 C 本から学んだ大切なことは何か、知っている。

#### ○成果

第3学年の総合的な学習の時間の単元「FOR THE NEXT STEP」は、本校でつけた資質・能力のうち、「情報収集力」では、A評価の「OSなどにも参加して、資料ではわからなかったことも情報収集できた。」「感謝・貢献」でもA評価の「将来は、仕事をするを通して家族・地域・社会に貢献しようとしている。」が60%を超える評価だった。その他の項目でも50%以上がA評価を示しており、本単元は生徒にとって学びがいのある単元であったと考えられる。

#### ●課題

しかし、「思考力・表現力」ではC評価の「調べた内容をしっかり発表することができた。」でとどまっている生徒もおり、「自分の疑問や考えも加えて発表する」準備の時間の確保を十分に行えなかったことが課題となった。

## これからの取組

- ・単元計画とルーブリックをマッチングさせていくために、ルーブリックの再検討が必要。
- ・自己評価でCをつけた生徒への声かけをしていくことが必要。
- ・授業中、ルーブリックの評価を意識した学習展開が必要。

## 第3学年の生徒の自己評価（一部抜粋）

高校説明会で得た情報や、自分で調べた情報から、  
文章を推敲し、その学校の魅力をまとめることができました。  
行きたり、進路先を定め、なぜそこに行きたいかが、今回の説明  
会によりハッキリした。  
各高校の様々な特徴を知ることにより、自分に合いそうな  
進路先を改めて考えることができました。  
高校から先の進路のことも分かりました。  
弊校の自分の進路選択についてしっかりと学習できたと  
すばらしい情報集め力と表現力を身に付けてきました。  
的確な情報収集し、自分が理解したことを工夫して、  
発表につなげる表現もできていました。

今日みんなの発表を聞いて、2分以内で分かりやすくまとめてあ  
らうよ、と、たいては、私は、発表する速さが速いと練習中に言われま  
した。なので、本番や、くり話そうと思いましたが、最初はゆっくり読  
めていたけど、だんだん速くなってしまい、最後では練習よりも速  
くなっていました。  
次このような機会があれば、だんだん速くならないようにしたい  
です。

高校の違いは、あまり分からなかつたけど、高校説明会などで、ど  
のように違うのか、どこにあるのか、どんなことを学べるのかか  
が、だいた  
い分かりました。

高校説明会で分からなかつたことは、オープンスクールに行  
って、知りた  
いと思  
いました。

どんな力がついたらと思  
っているか  
常に探求心をもって物事を考える力がつ  
いています。  
自分や周りの人にとって必要な情報  
を、的確に収集し、  
分かりやすくまとめること  
ができました。



## 「未来貢献プロジェクト」

**挑戦問題** 『ふるさとのために、創作劇を作ろう』

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情報収集・判断 思考・表現 挑戦・探究 責任・使命 協力・協働 感謝・貢献

## 期待される生徒の変容

文化活動発表会の創作劇において、自分たちが育ってきたふるさをテーマにすることによって、地域に感謝を伝える場として設定する。テーマについて情報収集・整理分析することを通して地域や世界におけるさまざまな諸問題に対する視野を広げることが期待できる。また、脚本を考えること、舞台演出、舞台装置を準備することで、協働的に実践していく態度や、誰もが責任を持って役割を果たさなければならないという使命感や責任感を学ぶ効果が期待できる。

## 平成28年度の取組より

## Before 【初発の生徒の振り返りより】

- ・創作劇はたくさんの人がいないとできないので、今から自分たちがやることはとてもすごいことだと思った。
- ・先輩たちの劇を見て、自分たちにもおなじことができるか、難しいなあと思いました。
- ・環境問題や地域の問題などが入ってくるので、できるかなあと不安です。
- ・先輩たちのいいところをしっかりと学んで自分たちの芝居に生かしたいです。



最初のスタッフ打ち合わせ

## After 【生徒の振り返りより】

- ・「こんな台詞覚えられないわけがない」「こんな大きな道具つくれるわけがない」と思ったけど、やってみると台詞も覚えられたし、道具も完成して、気持ちさえあればできるんだなあと思いました。自分のことばかり考えていた自分が、人の為に動こうという気持ちになったことが自分の成長だと思いました。
- ・衣装はどうしたらいいか、とか小道具はどのように準備したらスムーズに出せるかなど、みんなと話し合いをして、責任を持って役割を果たすことができました。
- ・これまでは先生の指示に従うことや頼ることが多かったけど、自分たちで作ったり話し合ったりすることも多く、自分たちでできるようになったこともあったし、クラスの雰囲気もよくなったと思います。
- ・今回の文化活動発表会では地域の方に尺人を教えていただいたり、衣装を作っていたりして地域の方にお世話になっていることを実感したし、感謝の気持ちを伝えなければと思って劇に取り組むことができました。



クラス全員での大道具製作

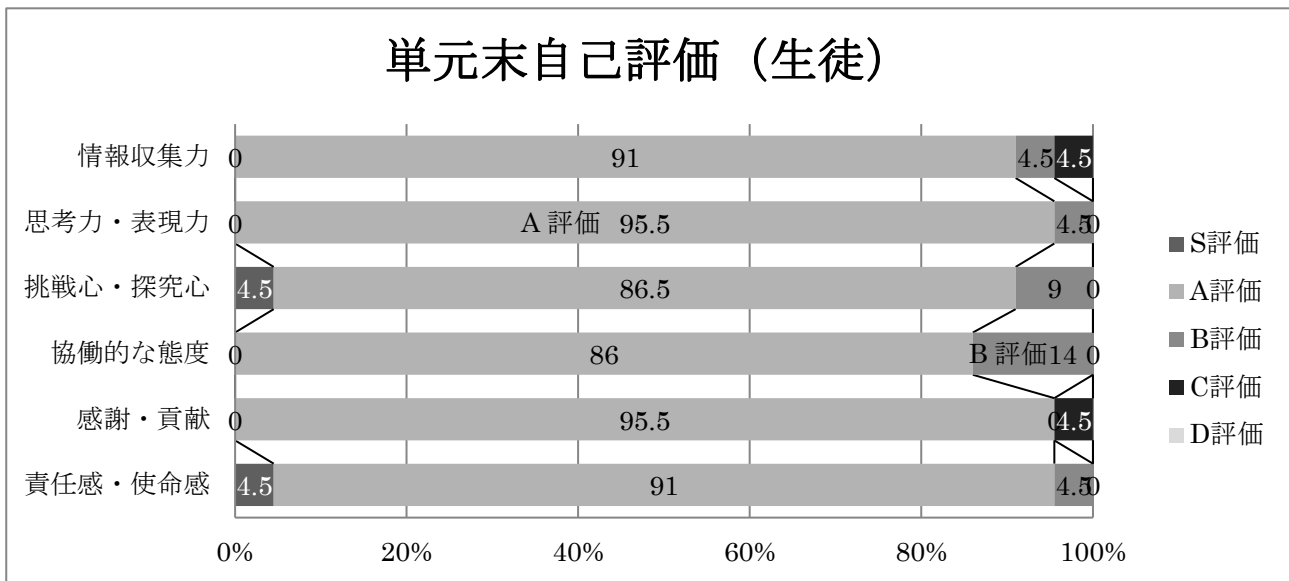
## 平成29年度指導計画・ワークシート改善のポイント

- ・今回は生徒アンケートを元に脚本を作成したが、生徒の思いを脚本化できるか等、制作の流れがまだ明確化されていないので、今後は準備する必要があると考える。
- ・今回は細部にわたって、スケジュールを先に立てて、スケジュール管理を徹底した。生徒や指導者に負担にならないようなスケジュール管理と時間の確保が必要となる。

文化活動発表会の本番



平成28年度「未来貢献プロジェクト」の取組の振り返り



### 単元で使用したルーブリック

資質・能力及び態度	評価基準
①情報収集力	A 課題について、目的に応じて適切な手段を選択し、より深い情報を収集することができる。 B 課題について、目的に応じて適切な手段を選択し、必要な情報を収集することができる。 C 課題に関する情報収集をすることができる。
②思考力・表現力	A 創作劇全体のテーマを自分なりに考え、それに合わせて工夫して表現できる。 B 創作劇全体のテーマを自分なりに考え、それに合わせて表現できる。 C 創作劇全体のテーマを理解し、表現することができる。
③挑戦心・探究心	A 困難でもやる価値のあることには挑戦・探究しようとしている。 B 少しがんばればできそうなことには挑戦・探究しようとしている。 C 今の自分でもできそうなことには挑戦・探究しようとしている。
④協働的な態度	A 立場や考えの異なる人ともつながることで課題を解決しようとしている。 B 考えの異なる人とも協力し、助け合うことで課題を解決しようとしている。 C 友達と話し合うことで課題を解決しようとしている。
⑤感謝・貢献	A 家族・地域・社会に感謝・貢献しようとしている。 B 家族・地域・社会に感謝・貢献したいと思っている。 C 家族・地域・社会に支えられていることを自覚している。
⑥責任感・使命感	A 地域の良さや伝統を受け継ぎ、よりよくしていこうとしている。 B 地域の良さや伝統を受け継ぎ、よりよくしていきたいと思っている。 C 地域の良さや伝統を理解している。

○成果

第3学年の総合的な学習の時間の単元「未来貢献 PROJECT」は、「学んだことを生かして、地域の方々に感謝の思いを伝える芝居をしよう」を合い言葉に取り組んだ。自己評価では、本校でつけた資質・能力のほぼ全ての項目で90%以上の生徒がA評価を示しており、本単元は生徒にとって資質・能力の成長を実感できる取組みになったと考えられる。

生徒の振り返りからも、地域の伝統や環境問題について関心が高まったことや、地球温暖化について真剣に考えるようになった記述が見られる。

●課題

自己評価でCをつけた生徒については、活躍の場をつくってやれなかった責任を感じている。そういう生徒が出ないように、しっかり教師集団でひとりひとりの生徒を見守っていきたい。

第3学年の生徒の自己評価（一部抜粋）

練習中にもどんな動きをすれば観客に 倒れるかを考え、挑戦心・探究心を伸ばそうと努力しました。そのような努力により、本番で観客から大きな拍手をもらった時にはとても嬉しく、大きな達成感を得ることができました。そして内容的には、「お話を聞きたい」と思い行動を起こす中絶せよと書いてあり、故郷への感謝・貢献をするところが描かれました。この文化祭を通じて、目的である地域の感謝・貢献ができて、さらには、6つの資質・能力をつけることができた 今年3年間の 中で 最もよい文化活動発表会にすることができた と思います。

**先生より**  
あなたが一着セリフ多いのには一番初めに全部覚えられました。その責任感・使命感の強さにびっくりしました。合唱でも、裏方でも、みんな協働的に取り組んで、いろんな意見もあって、おこしよとしてこの舞台は立派でした。  
自分の責任を果たしていかねばならぬ人から信頼されています。貢献しようとする態度もみんなを動かす力になっていました。

人の前にたって演技をすることは大変です。いかにたてを自分なりに考え、もつと、いいものにしていこうとする態度がより発表に結びついたのでと思います。

僕が、この文化祭で成長したと思うことは、劇を始める前の 環境破壊 についてや広南地区の伝統である小坪神楽の事を様々な手段で調べ をやらについて調べたことを劇にとりいれるという、6つの資質能力の中の1つ である情報収集をする力。そして、期間が短く、困難な挑戦ではあったけど、自分の中でやれると思ったことは最後までやる、挑戦心・探究心、 そして何より 自分達の手で劇をより良い形にしていこうという気持ちである 思考力・表現力や、協働的な態度。  
これらの力が今までよりもついたのではないかと感じました。

劇を通して、地域の伝統や環境問題についても、今までより 真剣に向き合うようになりました。私が生まれてくる何年も前から 続いてきた、地域の祭りなどは伝統として大切に、これからも 伝えていかねばいけない と思いました。そして、地球温暖化 などの問題は、自分が思っている以上に深刻だ ということが分かりました。だから、人まかせにせず、自分のできる身近なことを どんどんやっっていこう と思いました。どうせやっても無駄だ、と思わずに 1人1人が気を付けていけば、大きな動きになる と思いました。

平成29年度 資質・能力の育成に係る年間指導計画 第1学年

育てようとする資質・能力 【知識・技能】①知識・表現力・判断力 ②情報収集・判断力 ③思考・表現・表出 ④読解・探究 ⑤責任・使命 ⑥協力・協働 ⑦感動・貢献

Table with columns for month (月), activity (行事), unit name (単元名), learning course (学習課程), main content (主な内容), and a grid for months 4-12. The grid contains detailed lesson plans for subjects like Japanese, Social Studies, Math, Science, Music, Art, Health, Physical Education, Technology, Home Economics, English, and Moral Education.

総合的な学習の時間

育てようとする資質・能力と各教科との関連

平成29年度 資質・能力の育成に係る年間指導計画 第2学年

育てようとする資質・能力 【知識・技能】①知識・技能 【思考力・表現力】②情報収集・判断 ③思考・表現 【学びに向かう力・人間性】④読解・探究 ⑤責任・使命 ⑥協力・協働 ⑦感謝・貢献

Table with columns for month (月), activity (行事), unit name (単元名), learning course (学習課程), main content (主な内容), and subject (教科). Rows include Japanese Language (国語), Social Studies (社会), Mathematics (数学), Science (理科), Music (音楽), Art (美術), Health (保健), Physical Education (体育), Technology (技術), Home Economics (家庭), English (英語), and Moral Education (道徳).

育てようとする資質・能力と各教科との関連

# 平成29年度 資質・能力の育成に係る年間指導計画 第3学年

育てようとする資質・能力 【知識・技能】①知識・技能 【思考力・判断力・表現力】②情報収集・判断 ③思考・表現 【学びに向かう力・人間性】④挑戦・探究 ⑤責任・使命 ⑥協力・協働 ⑦感謝・貢献

月	4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2	3
行事	始業式 入学式 交通安全教室 せとうち合唱隊 家庭訪問・授業参観	合同運動会	運動会(上場参加) 体育祭 文化祭	せとうち合唱隊 大掃除 終業式 部活会	授業式 せとうち合唱隊 部活会	文化活動発表会	校外学習 総合文化行事 授業参観・進路説明会 進路相談	広地区クッキング活動 大掃除 終業式 懇話 授業参観・懇話会	授業式 授業参観・懇話会	終業式 大掃除 進路式	卒業式 大掃除 進路式
単元名	オリエンテーション	FOR THE NEXT STEP	北前「未来を創る」PROJECT	北前「未来を創る」PROJECT	北前「未来を創る」PROJECT	北前「未来を創る」PROJECT	北前「未来を創る」PROJECT	北前「未来を創る」PROJECT	北前「未来を創る」PROJECT	北前「未来を創る」PROJECT	北前「未来を創る」PROJECT
学習課程	課題発見 課題解決	課題発見 課題解決	課題発見 課題解決	課題発見 課題解決	課題発見 課題解決	課題発見 課題解決	課題発見 課題解決	課題発見 課題解決	課題発見 課題解決	課題発見 課題解決	課題発見 課題解決
主な内容	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り
知識・技能	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り
資質・能力	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り
国語	生命は二つのアザミ①②	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③
社会	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③	第二次世界大戦後の日本と世界③
数学	式の計算①	平方根①③	平方根①③	平方根①③	平方根①③	平方根①③	平方根①③	平方根①③	平方根①③	平方根①③	平方根①③
理科	【生命】 生命の連続性①	【物質】 化学変化とイオン②	【エネルギー】 運動とエネルギー②	【エネルギー】 運動とエネルギー②	【エネルギー】 運動とエネルギー②	【エネルギー】 運動とエネルギー②	【エネルギー】 運動とエネルギー②	【エネルギー】 運動とエネルギー②	【エネルギー】 運動とエネルギー②	【エネルギー】 運動とエネルギー②	【エネルギー】 運動とエネルギー②
音楽	歌詞の内容を理解して、強弱を生かした表現を工夫しよう④	オーケストラの響きを感じながら作曲者の思いを感じ取りよう①	オーケストラの響きを感じながら作曲者の思いを感じ取りよう①	オーケストラの響きを感じながら作曲者の思いを感じ取りよう①	オーケストラの響きを感じながら作曲者の思いを感じ取りよう①	オーケストラの響きを感じながら作曲者の思いを感じ取りよう①	オーケストラの響きを感じながら作曲者の思いを感じ取りよう①	オーケストラの響きを感じながら作曲者の思いを感じ取りよう①	オーケストラの響きを感じながら作曲者の思いを感じ取りよう①	オーケストラの響きを感じながら作曲者の思いを感じ取りよう①	オーケストラの響きを感じながら作曲者の思いを感じ取りよう①
美術	【絵画】 デッサン・日画①③	【デザイン】 工業デザイン①	【工芸】 アートガラス①	【工芸】 アートガラス①	【工芸】 アートガラス①	【工芸】 アートガラス①	【工芸】 アートガラス①	【工芸】 アートガラス①	【工芸】 アートガラス①	【工芸】 アートガラス①	【工芸】 アートガラス①
保健	健康な生活と病気の予防①	健康な生活と病気の予防①	健康な生活と病気の予防①	健康な生活と病気の予防①	健康な生活と病気の予防①	健康な生活と病気の予防①	健康な生活と病気の予防①	健康な生活と病気の予防①	健康な生活と病気の予防①	健康な生活と病気の予防①	健康な生活と病気の予防①
体育	ダンス(ソラーン)①② ダンス(ソラーン)③ ダンス(ソラーン)④	ダンス(ソラーン)② ダンス(ソラーン)③ ダンス(ソラーン)④	ダンス(ソラーン)② ダンス(ソラーン)③ ダンス(ソラーン)④	ダンス(ソラーン)② ダンス(ソラーン)③ ダンス(ソラーン)④	ダンス(ソラーン)② ダンス(ソラーン)③ ダンス(ソラーン)④	ダンス(ソラーン)② ダンス(ソラーン)③ ダンス(ソラーン)④	ダンス(ソラーン)② ダンス(ソラーン)③ ダンス(ソラーン)④	ダンス(ソラーン)② ダンス(ソラーン)③ ダンス(ソラーン)④	ダンス(ソラーン)② ダンス(ソラーン)③ ダンス(ソラーン)④	ダンス(ソラーン)② ダンス(ソラーン)③ ダンス(ソラーン)④	ダンス(ソラーン)② ダンス(ソラーン)③ ダンス(ソラーン)④
技術	エネルギーの変換と利用①	エネルギーの変換と利用①	エネルギーの変換と利用①	エネルギーの変換と利用①	エネルギーの変換と利用①	エネルギーの変換と利用①	エネルギーの変換と利用①	エネルギーの変換と利用①	エネルギーの変換と利用①	エネルギーの変換と利用①	エネルギーの変換と利用①
家庭	私たちの成長と家族や周囲の人々⑦	幼児の成長①	幼児の成長①	幼児の成長①	幼児の成長①	幼児の成長①	幼児の成長①	幼児の成長①	幼児の成長①	幼児の成長①	幼児の成長①
英語	Lesson 1①	Lesson 2①②	Lesson 3②③④⑤⑥	Lesson 4③	Lesson 5③④⑤⑥	Lesson 6③④⑤⑥	Lesson 7③④⑤⑥	Lesson 8③④⑤⑥	Lesson 9③④⑤⑥	Lesson 10③④⑤⑥	Lesson 11③④⑤⑥
道徳	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り	1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り 1年間の学習に対しての振り返り
生活単元	成長した自分を振り返る③⑦	自分の成長を振り返る③⑦	自分の成長を振り返る③⑦	自分の成長を振り返る③⑦	自分の成長を振り返る③⑦	自分の成長を振り返る③⑦	自分の成長を振り返る③⑦	自分の成長を振り返る③⑦	自分の成長を振り返る③⑦	自分の成長を振り返る③⑦	自分の成長を振り返る③⑦
特別活動	学級制作 生徒発表	学級制作 生徒発表	学級制作 生徒発表	学級制作 生徒発表	学級制作 生徒発表	学級制作 生徒発表	学級制作 生徒発表	学級制作 生徒発表	学級制作 生徒発表	学級制作 生徒発表	学級制作 生徒発表

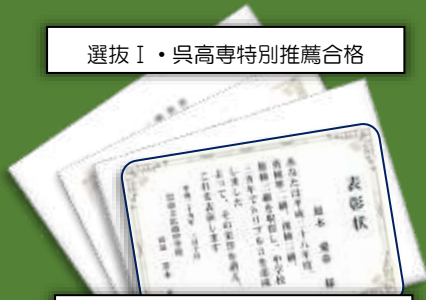
育てようとする資質・能力と各教科との関連

【研究同人】（平成28～平成29年）

呉市立広南中学校

若本 正	福田 眞二	岩城 祥子	浦上 晋次	裏山 富美子
海切 健次	澤井 一郎	荒木 真由子	佐伯 育伸	廣澤 良美
佐々木 祐介	塚本 千都世	荒井 朋美	内田 麻弥	佐々木 孝之
杉山 佳子	湊 里香			

選抜 I ・呉高専特別推薦合格



トリプル3（検定試験3種3級以上）達成者H28年度4名

検定試験挑戦者のべ人数  
H28年度76名（全校生徒65名）

自主学習



くれしん爆笑芸会出演  
（呉市文化ホール H29.1.14）



科学研究 県科学賞・学校賞  
全国学生科学賞入選1等（H28）

総合的な学習の時間（中）



## Sの滴

社会に開かれた教育課程



五色百人一首広島県大会  
橙の部 優勝（H28）

広南学園「百人一首大会」



統計コンクール「広島県知事賞」「学校賞」（H28）

総合的な学習の時間（小）

教師や学校は、子供たちに上質イメージを持たせることや、子供たち自身が上質イメージを持つことができるように、日々の教育活動の中で子供たちと真剣に向き合い「～って面白い」「～ができるようになる」とこんなに良いことがある」「自分でも努力すればできるようになる」ということを体感させ、それを認める。こういった経験を積み重ねることにより、子供たちは自信を回復し、「こうなりたい」「こうありたい」とさらに上質なイメージをもつことができる。（「広島県教育資料より」）